

経営体育成基盤整備事業 (八女東部第2地区) 地内 埋蔵文化財発掘調査報告書

福岡県八女市津江・忠見所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第96集

2013

八女市教育委員会

経営体育成基盤整備事業
(八女東部第2地区) 地内
埋蔵文化財発掘調査報告書

福岡県八女市津江・忠見所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第96集

2013

八女市教育委員会

序

八女市の西南部に位置する津江・祈祷院地区には弥生時代を中心とした遺跡が数多く存在していると考えられ、水稻耕作地や畑地を観察すると土器や石器などの破片が地表に姿を現しており、地下に包蔵されている遺跡の多さを物語っています。

両地区の南辺には福岡県内第3の大河である矢部川が西流しており、江戸時代に設けられた堰により取水された水は、これより西方の田畑を現在も潤し続けています。古代から永々と続く人々の営みは、皆この矢部川の恵みを享受する事が出来た結果である事を実感します。

遺跡が数多く埋蔵されている事は予測されていたものの、実際の発掘調査が実施されるのは平成の時代に入って以後の事になります。平成2年度に現八女人形会館である西ノ前遺跡の調査が行われ、中世にかかる遺跡が包蔵されている事が判明しました。また、平成9年度から12年度まで行われた一般地方道湯辺田八女線道路改良事業に係る事前発掘調査では弥生時代の終わり頃から古墳時代初め頃の遺跡が発見され、両地区には時代を問わず多種多様な地域の歴史が眠っている事がわかりました。

今回の報告は平成19年度から同21年度までに行われた発掘調査の内容を広く公開する事で地下に埋没している遺跡に対する深いご理解を頂く事を目的としております。

本報告書が当該遺跡のみならず、市内に点在する文化遺産を深く理解する一助となり、より文化財愛護の心を育むことに寄与出来るのであるならば幸甚の極みであります。

最後に、当該遺跡群の発掘調査に格段のご理解を頂きました事業者である筑後川水系農地開発事務所をはじめとする関係各位、及び、地元地区の皆様方には並々ならぬご協力と応援を頂きました。

深く御礼を申し上げるとともに、今後の文化財行政につきまして、これまで以上の暖かいご声援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成25年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西島 民生

例 言

- 1 本書は、八女市津江・祈祷院・井延における経営体育成基盤整備事業（八女東部第2地区ほ場整備事業）地内において実施した埋蔵文化財発掘調査を記録した発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は八女市教育委員会が実施した。発掘調査は平成19年度から平成21年度まで行い、整理作業及び報告書作成については平成22年度から平成24年度までの3年間において行った。
- 3 発掘調査で検出した各遺構の名称・番号は、その種類毎に記号を付し、竪穴式住居及び掘立柱建物をSB、溝状遺構をSD、土壙をSK、ピットをSP、不明遺構をSXと表記した。
- 4 本書に使用した現地測量図については調査担当者を中心として参加者で分担して行った。なお、測量にかかる基準については任意の基準を設定し測量を行った後、国土地理院設定の世界測地系を当てはめている。
各測量図の浄書及び出土遺物の実測図作成・浄書については岩戸山歴史資料館において行った。
- 5 本書に使用した空中写真は（有）空中写真企画に委託した。現地写真及び出土遺物については、岩戸山歴史資料館において大塚が撮影した。
- 6 本書使用の方位については、すべて磁北である。
- 7 本書の執筆は第4章を応用地質株式会社が行い、その他を大塚が行った。
また、本書の編集は大塚が行った。
- 8 本書に関する調査記録、及び、出土遺物は八女市の岩戸山歴史資料館において保管・収蔵している。

本文目次

第1章 調査の経過

- A 調査に至る経過
- B 調査体制

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第3章 調査の内容

発掘調査の概要

- A 平成19年度の調査
 - 1) 遺構と出土遺物
- B 平成20年度の調査
 - 1) 遺構と出土遺物
- C 平成21年度の調査
 - 1) 遺構と出土遺物

第4章 まとめ

第5章 放射性炭素年代測定結果 報告書

挿 図 目 次

第 1 図	八女東部第 2 地区ほ場整備事業地周辺の遺跡分布図〔1/25,000〕
第 2 図	八女東部第 2 地区ほ場整備事業地内遺跡位置図〔1/5,000〕
第 3 図	第 1 区 遺構配置図〔1/250〕
第 4 図	SB-01 平面実測図〔1/40〕 (1 区)
第 5 図	SD-02 西側土層断面図〔1/40〕 (1 区)
第 6 図	SB-01 実測図〔1/40〕 (2 区)
第 7 図	SB-02 実測図〔1/40〕 (2 区)
第 8 図	第 2 区 遺構配置図〔1/300〕
第 9 図	SB-03 実測図〔1/40〕 (2 区 2 地点)
第 10 図	SK-04 実測図〔1/40〕 (2 区 1 地点)
第 11 図	SK-01 実測図〔1/30〕 (2 区 2 地点)
第 12 図	SK-02 実測図〔1/40〕 (2 区 2 地点)
第 13 図	SK-03 実測図〔1/30〕 (2 区 2 地点)
第 14 図	SK-05 実測図〔1/30〕 (2 区 2 地点)
第 15 図	SK-01 実測図〔1/30〕 (2 区 3 地点)
第 16 図	SK-02 実測図〔1/30〕 (2 区 3 地点)
第 17 図	SK-03 実測図〔1/30〕 (2 区 3 地点)
第 18 図	第 4 区東側 平面実測図〔1/200〕
第 19 図	第 4 区西側 平面実測図〔1/250〕
第 20 図	SB-01 実測図〔1/60〕 (5 区)
第 21 図	SK-01 実測図〔1/40〕 (5 区)
第 22 図	SD-01・02・06、SK-02 実測図〔1/60〕 (5 区)
第 23 図	SD-05 南壁土層 実測図〔1/40〕 (5 区)
第 24 図	第 5 区東側 遺構配置図〔1/250〕
第 25 図	第 5 区西側 遺構配置図〔1/250〕
第 26 図	第 7 区 A～C トレンチ 土層断面図〔1/40〕
第 27 図	第 7 区 SD-02 北側土層断面図〔1/40〕
第 28 図	第 8 区 SD-03 実測図〔1/60〕
第 29 図	第 8 区 A トレンチ 西側土層断面図〔1/40〕
第 30 図	第 6・7・8 区 遺構配置図〔1/400〕
第 31 図	第 1 区第 1 層 出土土器 実測図〔1/4〕
第 32 図	第 1 区第 1 層 出土土器 実測図〔1/4〕
第 33 図	第 1 区第 1・2 層 出土土器 実測図〔1/4〕
第 34 図	第 1 区 SD-02 出土土器 実測図〔1/4〕
第 35 図	第 2 区 1 層 出土土器 実測図〔1/4〕
第 36 図	第 2 区 1・2 層 出土土器 実測図〔1/4〕

第 37 図	第 2 区 3・4 層 出土土器 実測図 [1/4]
第 38 図	SB-01・02、SK-01・03、SX-01・02 出土土器 実測図 [1/4]
第 39 図	第 2 区 SX-01 及び第 5 区 SD-02 出土土器 実測図 [1/4]
第 40 図	第 5 区 SD-02 出土土器 実測図 [1/4]
第 41 図	第 5 区 SD-02 出土土器 実測図 [1/4]
第 42 図	第 5 区 SD-02 出土土器 実測図 [1/4]
第 43 図	第 5 区 SD-02 出土土器 実測図 [1/4]
第 44 図	第 5 区 SD-02・05・06 出土土器 実測図 [1/4]
第 45 図	第 5 区 SB-01・SK-02・表採、第 6 区表採 第 7 区 SD-02・SK-02・SX-02・A トレンチ 出土土器 実測図 [1/4]
第 46 図	第 8 区 SD-03 中層 出土土器 実測図 [1/4]
第 47 図	第 8 区 SD-03 中層 出土土器 実測図 [1/4]
第 48 図	第 8 区 SD-03 中層 出土土器 実測図 [1/4]
第 49 図	第 8 区 SD-03 3 層、SP-02 出土土器 実測図 [1/4]
第 50 図	第 8 区 SD-03 上層 出土土器 実測図 [1/2]
第 51 図	早水町遺跡 A 区 SB-01、SK-02 実測図 [1/40]
第 52 図	早水町遺跡 A 区 1・2 地点 遺構配置図 [1/200]
第 53 図	早水町遺跡 A 区 SB-02 実測図 [1/40]
第 54 図	早水町遺跡 A 区 SB-03 実測図 [1/40]
第 55 図	早水町遺跡 A 区 SB-04 実測図 [1/40]
第 56 図	早水町遺跡 A 区 SX-02 実測図 [1/60]
第 57 図	早水町遺跡 A 区 SX-04 実測図 [1/20]
第 58 図	早水町遺跡 A 区 SX-05 実測図 [1/40]
第 59 図	早水町遺跡 A 区 SK-01 実測図 [1/40]
第 60 図	早水町遺跡 A 区 SK-02 西側土層断面図 [1/40]
第 61 図	早水町遺跡 B 区 SX-01 各トレンチ 実測図 [1/40]
第 62 図	早水町遺跡 B 区 SX-01 各トレンチ 実測図 [1/40]
第 63 図	早水町遺跡 B 区 遺構配置図 [1/200] (折り込み)
第 64 図	早水町遺跡 B 区 SX-01 検出面実測図 [1/40] (折り込み)
第 65 図	栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 遺構配置図 [1/300]
第 66 図	栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-01 実測図 [1/60]
第 67 図	栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-02 実測図 [1/40]
第 68 図	栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-03・04・05 実測図 [1/60]
第 69 図	栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-06 実測図 [1/60]
第 70 図	栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-07 実測図 [1/40]
第 71 図	栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SK-01・09 実測図 [1/40]
第 72 図	栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SK-02・03 実測図 [1/40]
第 73 図	栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SK-05 実測図 [1/40]
第 74 図	栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SB-08 実測図 [1/40]
第 75 図	栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SB-09 実測図 [1/40]

- 第 76 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SB-10 実測図 [1/40]
- 第 77 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SB-11 実測図 [1/40]
- 第 78 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SB-13 実測図 [1/40]
- 第 79 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SB-14 実測図 [1/40]
- 第 80 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SB-15 実測図 [1/40]
- 第 81 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SK-10 実測図 [1/40]
- 第 82 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SK-13 実測図 [1/40]
- 第 83 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SX-01 実測図 [1/60]
- 第 84 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 遺構配置図 [1/300]
- 第 85 図 栗ノ内遺跡 B 区 位置図 [1/300]
- 第 86 図 小石原遺跡 A・B 区 遺構配置図 [1/300]
- 第 87 図 黒石遺跡 A 区 1・2 地点、B 区 1・2 地点 遺構配置図 [1/300]
- 第 88 図 早水町遺跡 A 区 SB-02・04・05、SX-02 出土土器 実測図 [1/4]
- 第 89 図 早水町遺跡 A 区 SX-02・03、SK-01、SD-05
栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-01~04・06 出土土器 実測図 [1/4]
- 第 90 図 栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-06・07、SK-01・04・07・08
SD-01、SX-01、SP-09 出土土器 実測図 [1/4]
- 第 91 図 栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 包含層 出土土器 実測図 [1/4]
- 第 92 図 栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 包含層第 1・2 層 出土土器 実測図 [1/4]
- 第 93 図 栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 包含層第 2 層
栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SB-08・09・11、包含層 出土土器 実測図 [1/4]
- 第 94 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SX-01 出土土器 実測図 [1/4] (その 1)
- 第 95 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SX-01 出土土器 実測図 [1/4] (その 2)
- 第 96 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SX-01 出土土器 実測図 [1/4] (その 3)
- 第 97 図 栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SX-01、黒石遺跡 A 区 2 地点 SK-02・03
小石原遺跡 A 区 SD-01 出土土器 実測図 [1/4]
- 第 98 図 八女東部第 2 地区内 出土石器 実測図 [1/4]
- 第 99 図 高ノ町遺跡 1~4 地点、井延・前田遺跡 遺構配置図 [1/400]
- 第 100 図 高ノ町遺跡 2 地点 SA-01 No. 1 トレンチ 南側土層実測図 [1/60]
- 第 101 図 高ノ町遺跡 2 地点 SA-01 No. 2 トレンチ 南側土層実測図 [1/60]
- 第 102 図 高ノ町遺跡 2 地点 SA-01 検出時土質状況 実測図 [1/60]
- 第 103 図 高ノ町遺跡 3 地点 SD-01 No. 1 トレンチ 西側土層実測図 [1/40]
- 第 104 図 高ノ町遺跡 3 地点 SD-01 No. 2 トレンチ 東側土層実測図 [1/40]
- 第 105 図 高ノ町遺跡 3 地点 SB-01 実測図 [1/60]
- 第 106 図 高ノ町遺跡 3 地点 SB-01 石組部 実測図 [1/40]

表 目 次

第 1 表 出土遺物観察表

図 版 目 次

PL 1 ～ PL 11	八女東部第2地区ほ場整備事業地内	遺構写真
PL 12 ～ PL 20	八女東部第2地区ほ場整備事業地内	遺物写真

第1章 調査の経過

A 調査に至る経過

旧八女市の中央部南側に位置している津江・祈祷院地区周辺は、本格的な発掘調査に着手される以前より表面採取される弥生時代や古墳時代前期頃の遺物から、八女市内においては稀な古墳時代前期の遺構を包含している埋蔵文化財包蔵地であると考えられて来た。

しかしながら、津江地区における本格的な発掘調査は平成9年度から開始された県道湯辺田八女線の拡幅工事に先立つ調査まで待たねばならなかった。隣接する祈祷院地区も同様な状況であり、平成5年度に実施された高野町遺跡の発掘調査がその端緒となっている。

今回の発掘調査は八女東部地区におけるほ場整備事業に伴うものであるが、事業者との折衝を重ねた結果、掘削が埋蔵物に及ぶ部分についてのみ発掘調査を行い、これ以外については現状保存の策が採られた。

B 調査体制

【平成19～20年度】

〔調査主体〕 八女市教育委員会

〔事業主体〕 福岡県筑後川水系農地開発事務所

教育長	中島 清志
社会教育課長	飯田 せつ子
同課長補佐	江崎 邦博
同 係長	赤崎 敏男
同 係員	中川 寿賀子
同 係員	大塚 恵治（調査担当）

所長	平島 豊彦
工事第一課長	角田 正信（H19）
〃	久保田 巖（H20）
第二係長	馬場 秀昭
技術主査	酒井 龍典
主任技師	瀬口 優子

【平成21年度】

〔調査主体〕 八女市教育委員会

〔事業主体〕 福岡県筑後川水系農地開発事務所

教育長	西島 民生
教育部長	飯田 せつ子（H22.2～H24.3）
文化課長	井上 富雄（H22.2～H25.3）
同 係長	赤崎 敏男
同 主任	中川 寿賀子
同 係員	大塚 恵治
同 係員	永田 寧（H22.2～）
同 係員	樋口 真弓（H22.2～）

所長	緒方 岩美
工事第一課長	近藤 隆夫
第一係長	井上 幹夫
技術主査	岩崎 賢吾
技術主査	山口 聡
主任技師	瀬口 優子
主任技師	手嶋 隆

【平成22年度】

〔調査主体〕 八女市教育委員会

〔事業主体〕 福岡県筑後川水系農地開発事務所

教育長	西島	民生
教育部長	飯田	せつ子
文化課長	井上	富雄
同 係長	中川	寿賀子
同 係員	大塚	恵治（整理担当）
同 係員	永田	寧
同 係員	樋口	真弓

所長	緒方	岩美
工事第一課長	近藤	隆夫
第一係長	井上	幹夫
技術主査	山口	聡
技術主査	松吉	邦宏

【平成23年度】

〔調査主体〕 八女市教育委員会

〔事業主体〕 福岡県筑後川水系農地開発事務所

教育長	西島	民生
教育部長	飯田	せつ子
文化課長	井上	富雄
同 係長	大塚	恵治（整理担当）
同 係員	永田	寧
同 係員	渡部	真弓

所長	緒方	岩美
工事第一課長	角田	正信
第一係長	中道	貢
技術主査	阿部	俊行
技術主査	松吉	邦宏

【平成24年度】

〔調査主体〕 八女市教育委員会

〔事業主体〕 福岡県筑後川水系農地開発事務所

教育長	西島	民生
教育部長	井上	俊博
文化課長	井上	富雄
同 係長	大塚	恵治（整理担当）
同 係員	永田	寧
同 係員	渡部	真弓

所長	松原	毅
工事第一課長	近藤	隆夫
第一係長	中道	貢
技術主査	阿部	俊行
技術主査	松吉	邦宏
主任技師	上村	和義
主任技師	田中	賢太

なお、発掘調査にあたり近隣に居住される住民の皆様をはじめ、津江、祈祷院地区の方々には多大なるご配慮とご理解を戴きました。
記して感謝申し上げます。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

【地理的環境】

八女市は平成22年2月1日に旧八女郡に所在していた立花町、黒木町、星野村、矢部村の2町2村と合併し、福岡県下で2番目に広い行政区域をもった新たな「八女市」としてスタートする事となった。

現在、西を筑後市、東を大分県日田市、南を熊本県山鹿市と接する広大な県境の自治体となり、多様な生産活動が見られる希有な行政体となっている。東の山間部では杉や檜を中心とした林業が盛んであり、その地形を巧みに利用した文化的景観としての棚田も多数見られる。また、中山間部においては地域の気象条件の恩恵を受け、高級茶葉である玉露や良質な巨峰などの生産が盛んに行われている。平野部では福岡県産の苺の主力である「あまおう」や梨、電照菊などを生産している。

これらの生産活動を可能にしている立地は、耳縄山地と福岡・熊本両県を区する筑肥山地により「コ」の字状に囲まれ、大分県との境にそびえる釈迦岳山地に源を発し有明海に向け西流する一級河川である矢部川が形成したものである。流域面積647㎢を誇る福岡県下第3の大河であり、古来より水上運搬に供され現市域で行われた産業すべての要であった。

しかしながら、時代の流れとともに八女市内で生産される文物の大半は陸上輸送に徐々にシフトし、今では水上輸送手段はほぼ皆無となっている。

現在の交通事情を概観すると、八女市内には大分県まで延びる国道442号線が東西に走り、交通量の増大に比例しバイパス道路の建設・開通も急ピッチで進んでいる。また、西部地区には九州の大動脈である国道3号線や九州縦貫自動車道が南北を貫いており、八女西部地区はまさに九州のクロスロード的な性格を持っている。

【歴史的環境】

津江遺跡群・祈祷院遺跡群は福岡県八女市津江・祈祷院に所在している。

当該地周辺は以前より弥生時代から古墳時代前期を中心とした埋蔵文化財が数多く存在している地区として知られており、平成5年度に行われた高野町遺跡の調査により古墳時代後期に属する遺跡の存在も明らかになり、当地区における埋蔵文化財の在り方が少しずつ理解できるようになってきた。

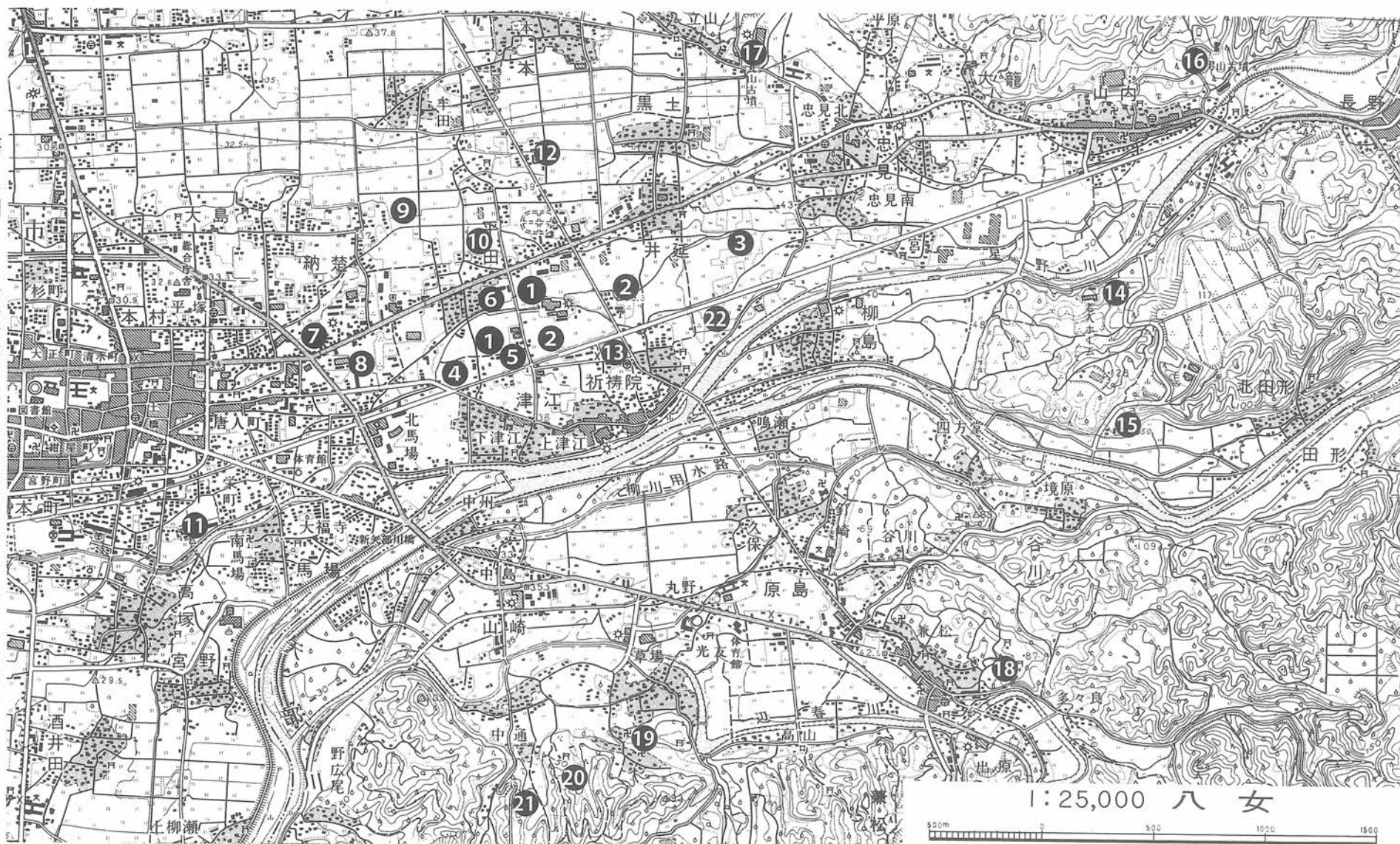
以下、主に八女市西部地区における概要を記し、当遺跡を理解する一助としたい。

（概要）

八女市西部地区における遺跡の初現期は縄文時代前期まで遡る事が出来、国武遺跡群や平田遺跡群等では押型文土器が数多く出土している。同後期に入ると、アモメ遺跡において小規模な円形の竪穴式住居や、少数ながら墳墓が見られるようになり、移動狩猟採集生活から定住化の兆しが見られるようになる。

弥生時代に入ると、立野・大坪遺跡や亀ノ甲遺跡、宿町遺跡等の前期後半の環濠遺跡が出現する。立野・大坪遺跡や宿町遺跡は直径100m前後の貯蔵穴専用環濠と思われるのに対し、亀ノ甲遺跡の環濠は推定直径200mを超える大規模なものであり、全容は捉えられていないが環濠集落的な要素を持つ遺跡である。市内では未だ当該期にかかる本格的な稲作関連遺跡は発見されていないが、稲作と環濠遺跡はセット関係になる事が多く、これら遺跡の出現期には既に稲作が導入、または、定着していたものと考えられる。中期に入ると、これまで見られた様相とは異なった状況が展開する。中期前半から中頃にかけては竪穴式住居が散発的にしか存在しないようになり、環濠のように大規模な土木工事を伴う遺構は全く確認出来ないようになる。ところが中期後半頃になると、六反田遺跡のように大規模な集落域と墳墓域がセットになっ

第1図 八女東部第2地区の遺跡整備事業地周辺の遺跡分布図 [1/25,000]



- | | | | |
|-----------------|--------------|--------------|-----------------|
| 1. 平成19年度調査地 | 2. 平成20年度調査地 | 3. 平成21年度調査地 | 4. 津江・八升町遺跡1次調査 |
| 5. 津江・八升町遺跡2次調査 | 6. 後ノ江遺跡 | 7. 赤氏遺跡 | 8. 熊野遺跡 |
| 9. 西原遺跡 | 10. 平田・六反田遺跡 | 11. 南中学校校庭遺跡 | 12. 口ノ坪遺跡 |
| 13. 白石遺跡 | 14. 長浦横穴墓 | 15. 城の谷古墳 | 16. 童男山古墳 |
| 17. 丸山古墳 | 18. 後田横穴墓群 | 19. 草場横穴墓群 | 20. 鬼隈横穴墓群 |
| 21. 上ノ山横穴墓群 | 22. 高野町遺跡 | | |

て出現するなど、再び大規模な土木工事を伴うべき大集落形成の萌芽が見られるようになる。また、前述した立野・大坪遺跡などから鉄器が出土するようになるなど、その普及と前後し、変化の著しい時代様相の到来が看取出来る。後期に入ると、各地で大規模な集落が形成されるようになる。室岡地区に所在する野口遺跡や道添遺跡、室岡工業団地内遺跡では鉄器や砥石が出土している。矢部川に面した南部地区では現在のところ大規模集落は発見されていないが、アモメ遺跡では非常に密集度の高い貯蔵穴群が発見されており、近くには墳墓群も存在することから、近接した区域に大規模な集落が存在するものと思われる。また、同地区内に所在する茶ノ木ノ本遺跡の甕棺墓群からは方格規矩鏡、深樋式銅剣、鉄戈が出土しており、これらの事象は在地有力者の台頭と共に、大規模集落同士の統合が進んでいる事を連想させる。

これと時をほぼ同じくして室岡台地上に所在する亀ノ甲・山ノ上周辺においても土地利用が再開し、地形を人為的に開削し前代とは比較にならない程の大環濠集落を形成する。西山ノ上遺跡や国道442号線バイパス建設関係の遺跡群がこれに該当し、特に前者においては原始鍛冶の痕跡とともに多量の鉄片、大陸由来の鑄造鉄斧片などの当時最先端の鉄素材が多量に出土するなど、一気に弥生時代における全盛期を迎える。しかしながら、西山ノ上遺跡が見せるように後期後半～末頃にかけて鉄素材を投棄したり、居住域を大幅に縮小する傾向が見られる。原因は定かでないが、瀬戸内地区で多く見られる高地性集落の発生時期と重なるところもあり、注意すべき点と思われる。

古墳時代に入ると、地域的な隔たりはあるものの、北部丘陵上（以下、八女丘陵）では4世紀前半頃から5世紀前半にかけて方形周溝墓や小円墳が造られるようになる。辻の西遺跡（1・2次調査）や立山山古墳群がこれに挙げられ、比較的小さな墓域の中で造墓活動を行っている事がわかる。5世紀前半になると八女丘陵上に大規模な古墳が次々に築造される。所謂、筑紫君一族が築いた八女古墳群であり、その初現は広川町所在の石人山古墳（108m）である。内部主体たる初期横穴式石室には直弧文を浮き彫りした家型石棺が納められており、最古級の装飾古墳としても知られる。5世紀後半代になると八女古墳群中から大型前方後円墳は姿を消す。しかし、これを補完するように瑞王寺古墳（直径26m 円墳）、欠塚古墳（墳丘長45m 前方後円墳）、本6号墳（直径41m 円墳）、釘崎2号古墳（墳丘長約47m 前方後円墳）、丸山古墳（墳丘長55m 前方後円墳）等の古墳が次々に築造される。しかし、50m前後の中規模から逸脱しない点に、首長墓系列の一時的な不在を読み取る事が出来る。6世紀前半～中頃になると、筑紫君全盛期を築いた磐井が築造した岩戸山古墳（墳丘長135m 前方後円墳）が出現する。日本書紀等にある磐井の乱後は、それまで単一的に連なっていた首長墓系譜が岩戸山以後は乗場古墳（墳丘長約70m 前方後円墳）、善蔵塚古墳（墳丘長約90m 前方後円墳）、鶴見山古墳（墳丘長87.5m

前方後円墳）など、複数の大型前方後円墳が出現し、首長系列の複数化を暗示している。6世紀後半代になると直径10m前後の小円墳が爆発的に増加すると共に、後半～末頃には前方後円墳は完全に姿を消し、童男山古墳（直径48m 円墳）などの大型円墳が出現する。しかし、7世紀初頭以後、これらの古墳に後続する大型古墳は全く見当たらず、歩調を合わせるかのように後期群集墳も姿を急速に消してゆく。

これらの現象を最後として、八女古墳群は終焉を迎える事となる。

第3章 調査の内容

発掘調査の概要

平成19年度から始まった八女東部第2地区ほ場整備事業地内における発掘調査は、その対象地域に津江遺跡群、祈祷院遺跡群、井延遺跡群の各遺跡群が存在しており、その事業地面積の広さから調査は困難を極めると思われた。事業者である筑後川水系農地開発事務所とは事業の計画が八女市に伝えられた頃から協議を進めており、その協議の中において「事業地の大半が周知の埋蔵文化財包蔵地に存在する事から、発掘調査が行われる期間を勘案し最も標高の高い地域を基準として、面工事は盛土を基本とし、埋蔵文化財に影響を及ぼす可能性のある掘削作業は排水路部分のみとする。」旨の回答をいただいた。

これを受け、今後の調査計画は排水路関係部分のみの発掘で済む事となり、21年度の発掘調査事業終了までそれを継続した。

19年度の発掘調査は上妻小学校南側隣接地に南北方向に設定した第1区を皮切りに、翌年3月までの間に第8区まで（3区については遺構・遺物は確認されなかった）調査を行い、弥生時代終末～古墳時代前期までの包含層、古墳時代後期～奈良時代までの自然河川を検出。多量の遺物が出土した。

平成20年度は上妻小学校東隣接地に設定した早水町遺跡他の調査を行い、弥生時代後期～古墳時代前期に該当する遺構・遺物が出土した。

平成21年度は高ノ町遺跡を中心とした調査を行い、古墳時代前期の建物、奈良・平安時代初期における自然河川等の調査を行った。

発掘調査終了後、平成22年度より出土遺物等の整理作業を行い、平成24年度には全ての整理作業を終了させ本報告に至る事となった。

以下においては、各調査の結果について報告を行う。

〔平成 1 9 年度の調査〕

平成19年度調査

平成19年度は上妻小学校の南側を中心とした地域、遺跡群で言えば津江遺跡群中央部やや北寄りの地域を対象とし調査を行った。排水路計画地のみの調査であるため調査面積は限られているが、総延長550m分の調査を行う事が出来た。

以下、今次調査に係る部分について言及し、全体像については後述する。

1) 第1区調査における遺構と出土遺物

第一区は上妻小学校の南東端部付近にあり、総延長約60m、幅4mをその調査対象区とした。実際の排水路掘削域は幅2～2.5m程であったが、事業者との協議の結果、掘削深度による法面が発生するため、この部分を鑑み排水路幅+1～2mの猶予を頂いた。

調査は便宜上3地点に分け、北から1地点～3地点を設定して掘削を始めた。しかしながら、本格的な調査開始とともに梅雨入りし、調査区が冠水することも度々発生し作業は難航を極めていた。結果、殆ど遺構が確認出来なかった1地点は調査を断念し、2・3地点に力を入れた。

検出した遺構は竪穴式住居(SB)1軒、溝(SD)2条、土壇(SK)1基、ほかピット多数を確認した。また、遺構の上を覆う遺物包含層においても出土土器等の遺物採集を行いながら調査を進めた。

SB-01 〈第3・4図〉

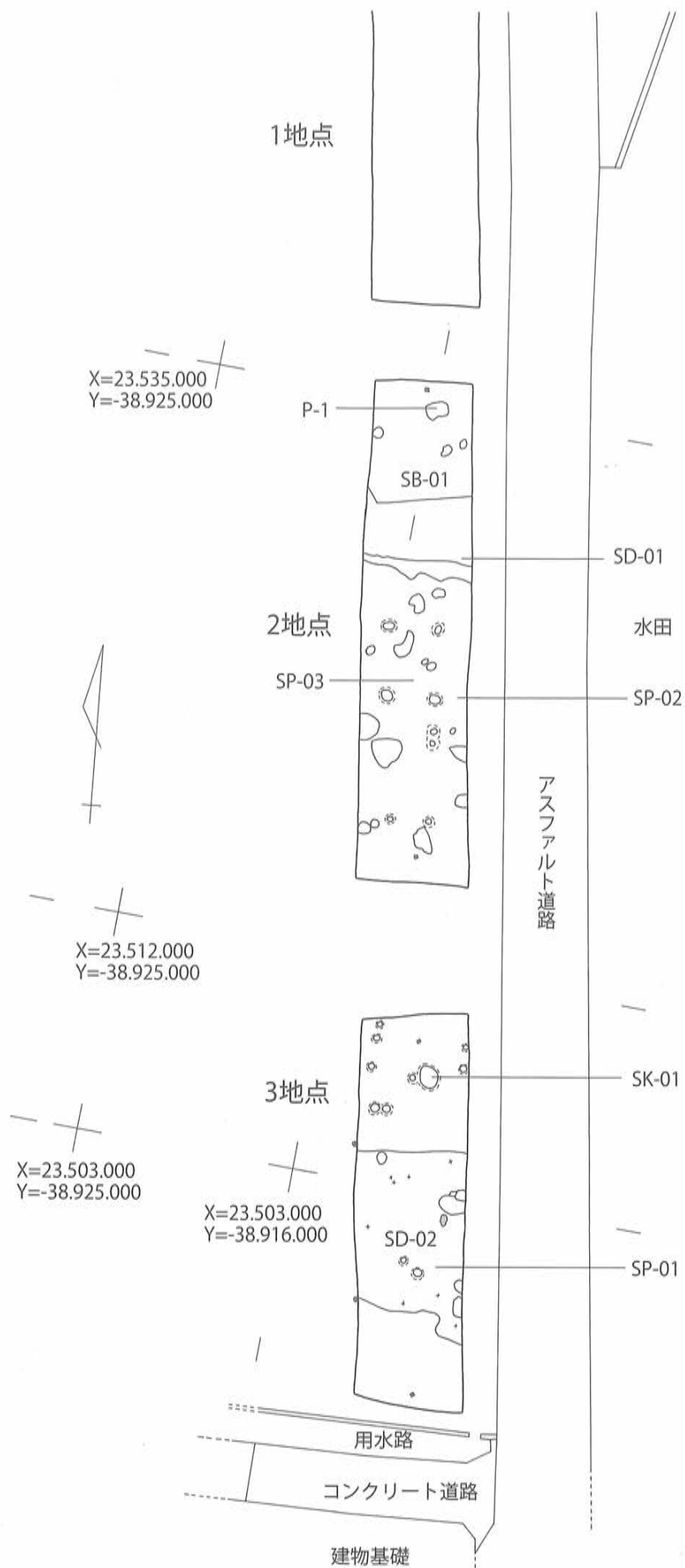
トレンチ設定区においては上述したとおり、便宜上調査区を3分割しているが、本住居は2地点の北側端部において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大半部分を過去の攪乱により削平されており、現存する規模は4.7m以上×5.1m以上を測る。主柱穴については不明であるが、住居内の北側には約20cmのやや深めのピットが検出され、内部からは器台が出土した。屋内土壇の可能性もある。出土遺物として、土師器の坏・甕・高坏・器台等の破片がある。

SK-01 (土壇) 〈第3図〉

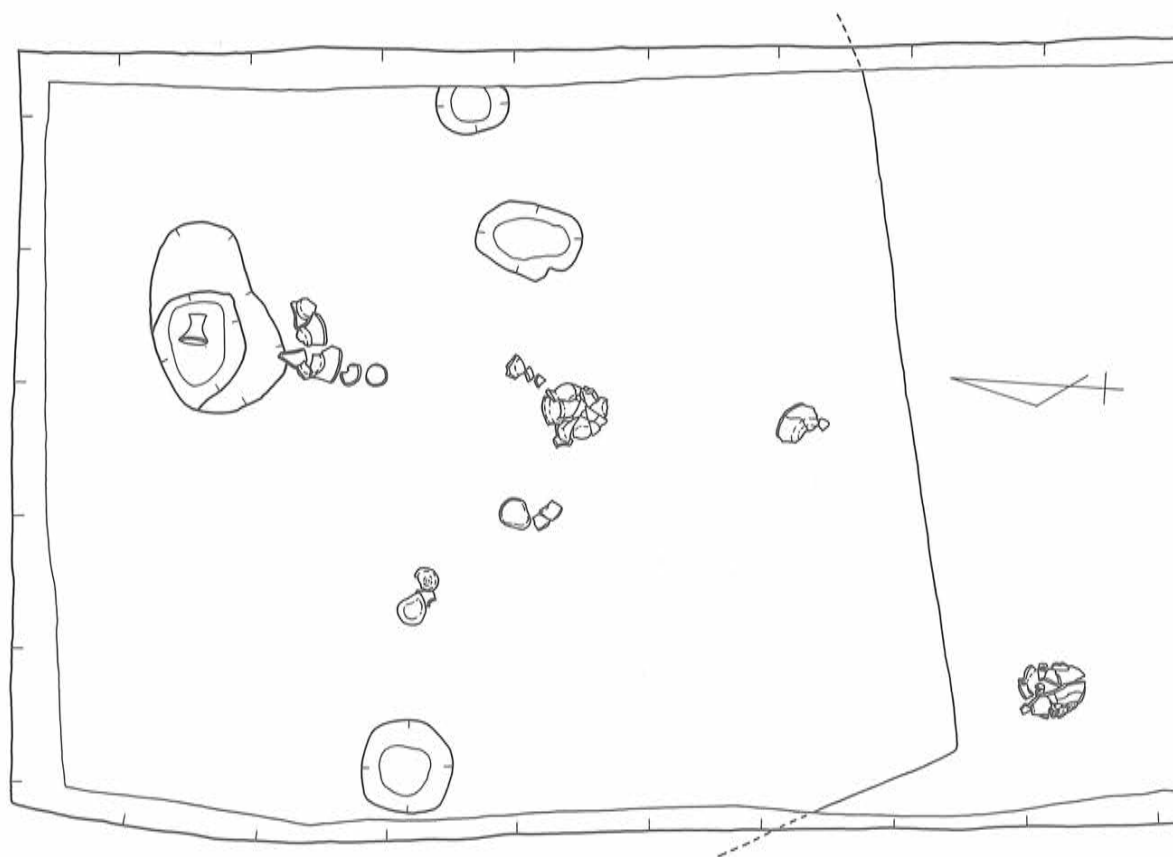
調査区内で唯一の土壇と呼べる掘削跡であるが、出土遺物等はなく性格等についてはまったく言及出来ない。規模は1.0m×0.8m、深さ0.0mを測る。SBやSDと比べ上面で検出されており、比較的新しい時期の所産と考えられる。

SD-02 (溝) 〈第3図〉

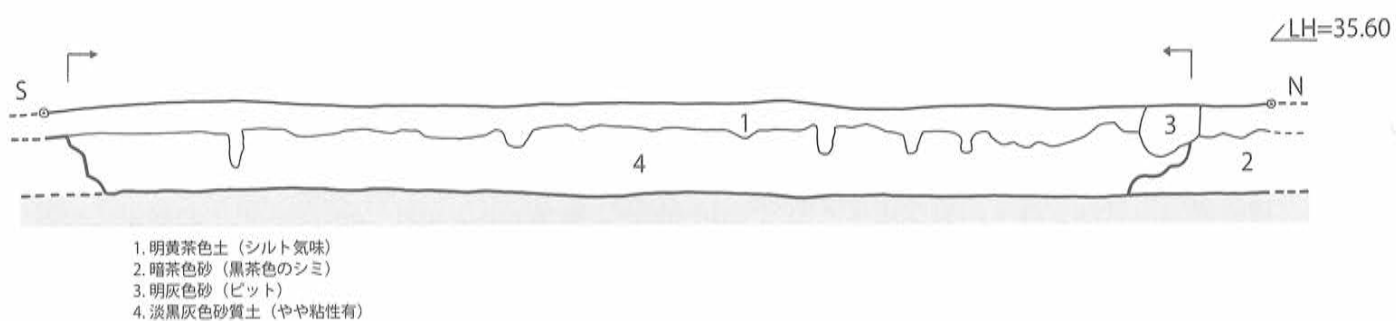
3地点の中央付近で検出した溝で、東西方向の流路を持つ。規模(検出分のみ)は幅6.0m×7.9m、深さ0.5mを測る。溝底面はほぼフラットであり、やや自然遺構の感が薄い事が気かりではあるが、本稿では自然流路として扱う。出土遺物の中に不揃いの小型丸底壺が数多く含まれており、また、周辺には焼土痕や炭化物が散在している状況から水際祭祀が執行された可能性もある。しかしながら、現段階での情報でその目的や執行状況、内容については不明と言わざるを得ない。



第3図 第1区 遺構配置図 [S= 1 / 2 5 0]



第4図 第1区2地点 SB-01 平面実測図 [S= 1/40]



第5図 第1区3地点 SD-02 西側土層断面図 [S= 1/40]

2) 第2区調査における遺構と出土遺物

第2区は上妻小学校の南側にあり、総延長約110m、幅4mをその調査対象区とした。1区同様、排水路掘削域は幅2～2.5m程だが、排水路幅+1～2mの猶予を頂いた。

調査は便宜上3地点に分け、東から1地点～3地点を設定して掘削を始めた。調査当初より数層にわたる包含層、又は、生活層の存在が予測されており、調査は上層より1層ずつ掘削しながら進めていった。

検出した遺構は竪穴式住居(SB)3軒、不明遺構(SX)3基、土壇(SK)9基、ほかピット多数を確認した。また、遺構の上を覆う遺物包含層においても出土土器等の遺物採集を行いながら調査を進めた。

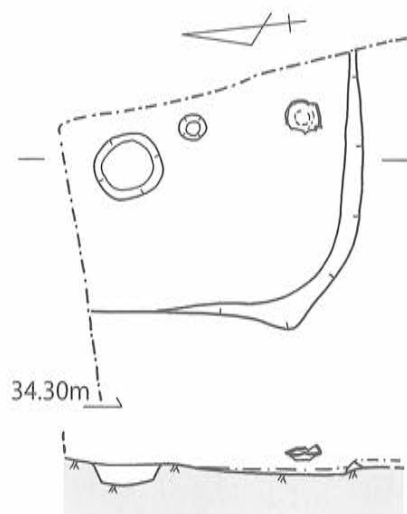
なお、3地点において検出された4基の遺構(SK-01～04)は、担当調査者が土壇と認識され調査が行われていたが、整理段階において柱間の芯々が8m程もある大型の掘立柱建物である事が判明した。

本稿においては土壇としての表記を行うが、遺構名の後半に新番号であるSB-04(掘立柱建物)の表記を付け加えておく。

SB-01 〈第6・8図〉

トレンチ設定区においては上述したとおり、便宜上調査区を3分割しているが、本住居は1地点の東側端部において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大半部分が調査区外に出ており、規模は不明である。主柱穴についても不明であるが、検出部分の北東端には約40cmのピットが検出されている。深さ13cmと非常に浅いため、主柱穴とは即断出来ない。

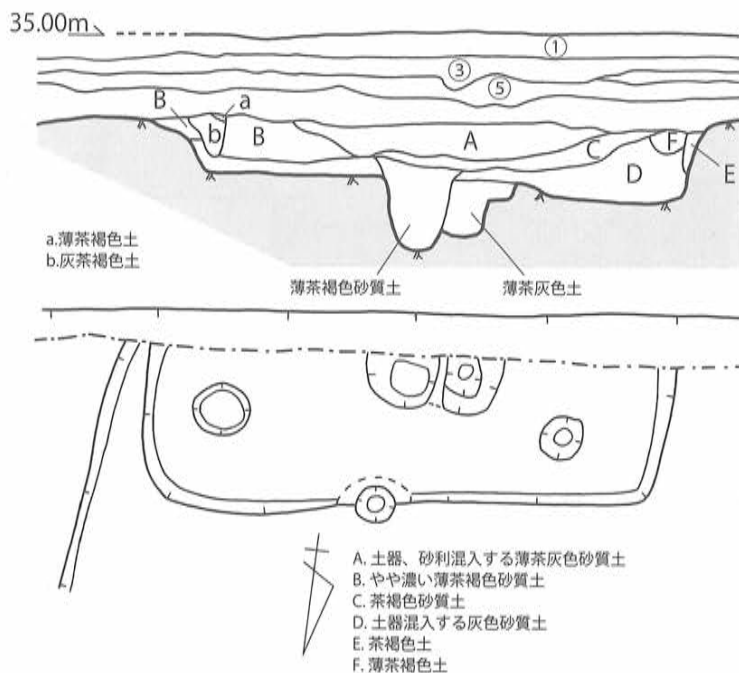
出土遺物として、甕等の破片がある。



第6図 SB-01実測図〔1/40〕

SB-02 〈第7・8図〉

本住居は2地点のほぼ中央、トレンチの南端部分において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大半部分が調査区外に出ており詳細は不明であるが、長軸方位をN-82°-Eに取り、検出規模は長軸長2.8m、短軸長0.9m以上、深さ0.46mを測る。土層断面の観察から、本住居の営続時期には大きく2時期あり、住居検出部分の中央付近にある2個のピットはほぼ同一位置にあり、切り合いを有している。

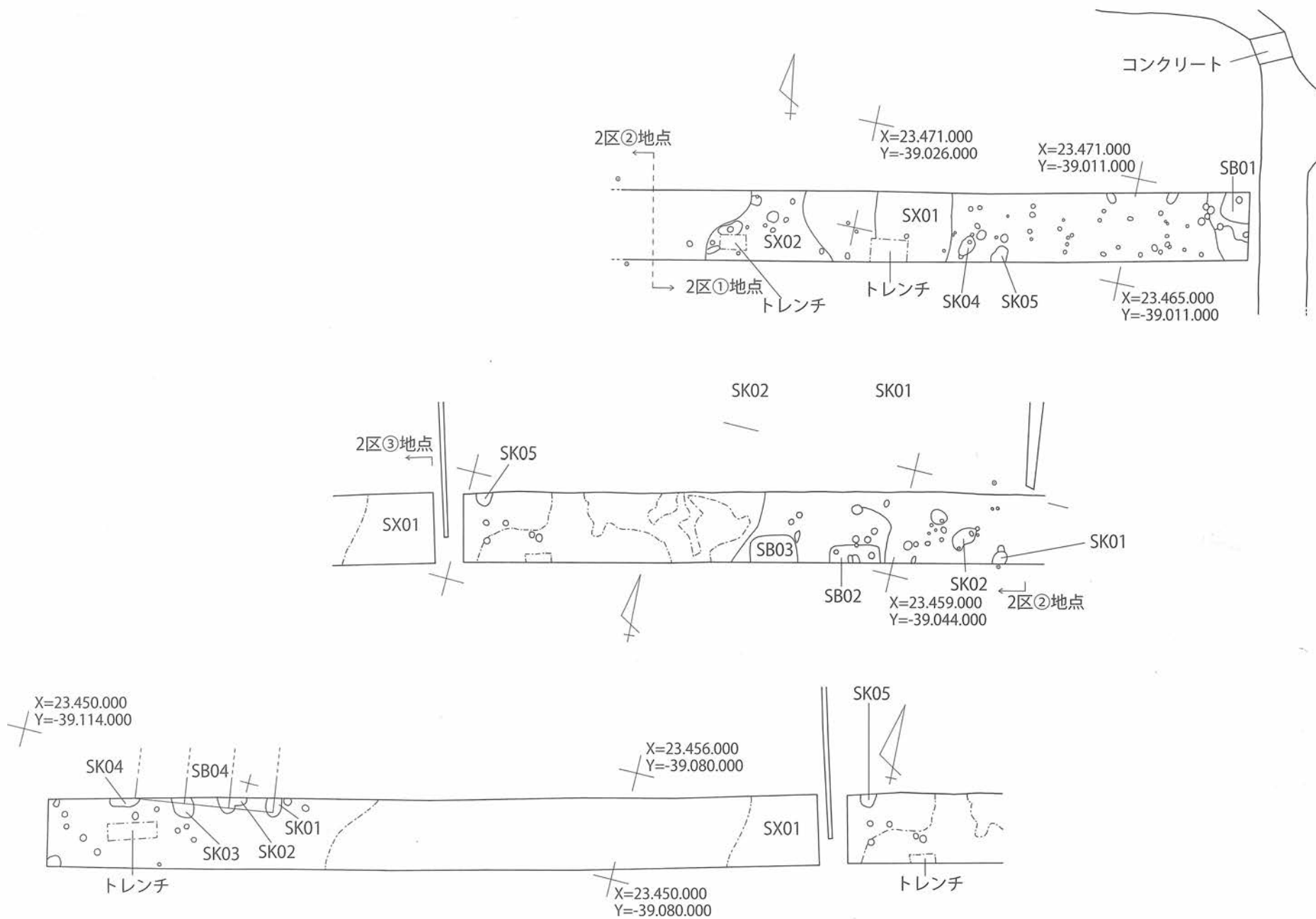


第7図 SB-02実測図〔1/40〕

SB-03 〈第8・9図〉

本住居は2地点のほぼ中央、トレンチの南端部分において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大半部分が調査区外に出

第8図 第2区 遺構配置図 [S= 1 / 300]



ており詳細は不明であるが、長軸方位をN-77°-Eに取り、検出規模は長軸長2.66m、短軸長1.46m以上、深さ0.12mを測る。土層断面の観察から、本住居は茶褐色砂質土の単層で埋まっております、営続期間としては非常に短命である事が伺われる。

出土遺物として、甕・壺等の破片がある。

SK-04 (土壌) <第10図> 1地点

1地点のほぼ中央部で検出された土壌。平面プランはやや角のある楕円形を呈しており、長軸方位をN-24°-Eに取る。規模は長軸長1.17m、短軸長0.91m、深さ0.37mを測る。断面形が箱形長方形を成しており、南西隅に直径約40cmのピット(床面より-5cm)がある事等から、貯蔵穴の可能性が指摘出来る。

SK-01 (土壌) <第11図> 2地点

2地点の東端で検出された土壌。平面プランは不整楕円形を呈しており、長軸方位をN-48°-Eに取る。規模は長軸長0.85m、短軸長0.69m、深さ0.5mを測る。断面形がすり鉢状を成しており、いくつかのテラスを有している。用途不明。

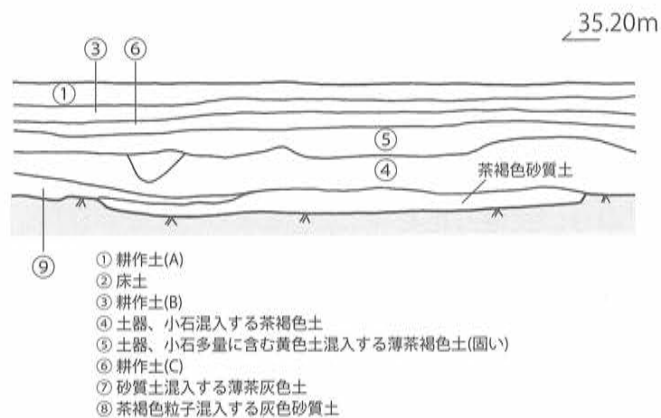
SK-02 (土壌)

<第12図> 2地点

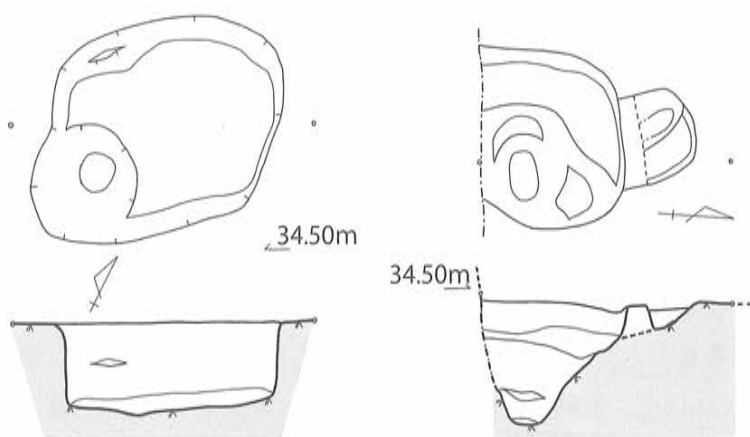
2地点の東端付近で検出された土壌。平面プランは不整楕円形を呈しており、長軸方位をN-55°-Eに取る。規模は長軸長1.6m、短軸長1.0m、深さ0.28mを測る。土層観察では茶灰色土(砂質土?)により一時期に埋没している事が判り、短命な遺構である事が推測出来る。用途不明。

SK-03 (土壌) <第13図> 2地点

2地点の東端付近で検出された土壌。平面プランは楕円形を呈しており、長軸方位をN-73°-Wに取る。規模は長軸長0.91m、短軸長0.73m、深さ8cmを測る。用途不明。



第9図 SB-03実測図 [1/40]

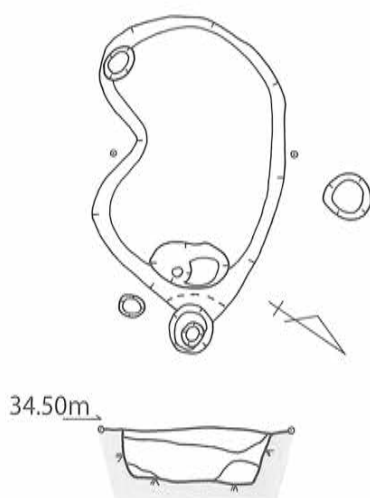


第10図 SK-04実測図 [1/30] 1地点

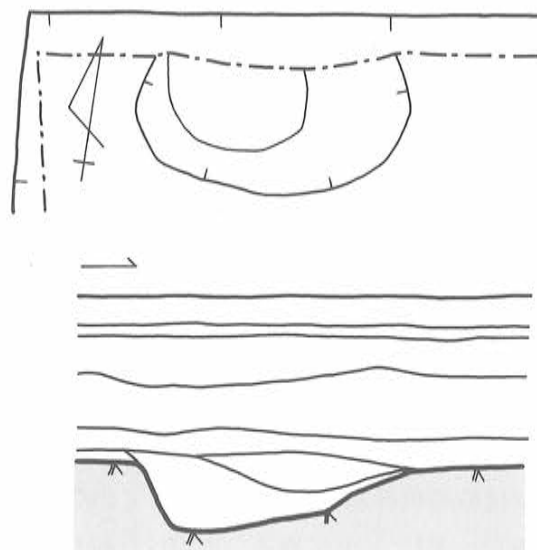
第11図 SK-01実測図 [1/30] 2地点

SK-05 (土壌) <第14図> 2地点

2地点の西端で検出された土壌。平面プランは卵形の楕円形を呈しており、長軸方位をN-83°-Eに取る。規模は長軸長1.1m、短軸長0.56m、深さ0.27mを測る。土層観察では、ある時期上面を大きくカットされており、詳細が判らなくなっている。断面観察では底面が東側に向けて徐々に上がっており、大きめの柱穴の可能性もあるが、周辺からは類似した遺構は未検出でもあり、即断は避けたい。



第12図 SK-02実測図
[1/40] 2地点

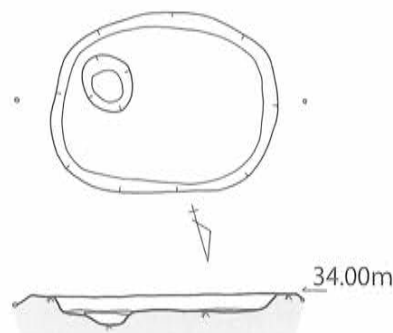


- ① 耕作土
- ② 床土
- ③ 黄色土混入する(土器)茶褐色土
- ④ 土器、小石混入する茶褐色土
- ⑤ 茶灰色土(砂質土)
- ⑥ 灰茶褐色砂質土
- ⑦ 土器含む薄茶褐色砂質土

第14図 SK-05実測図
[1/30] 2地点

SK-01 (土壌) <第15図> 3地点 (SB-04)

3地点の西端付近で検出された土壌。平面プランは隅丸長方形を呈するものと思われ、長軸方位をN-5°-Wに取る。規模は長軸長0.9m以上、短軸長0.79m、深さはテラス部分で0.12m、柱穴部分で0.5mを測る。柱穴幅は0.18mを測る。土壌として調査が成されているが、掘立柱建物の柱穴である。



第13図 SK-03実測図
[1/30] 2地点

SK-02 (土壌) <第16図> 3地点 (SB-04)

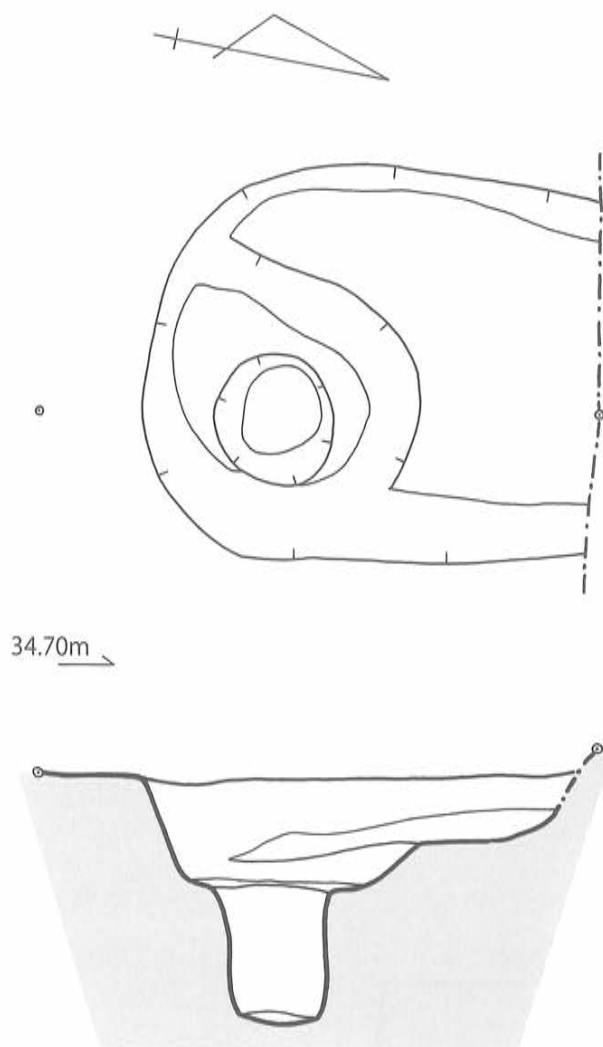
3地点の西端付近で検出された土壌。平面プランは隅丸長方形を呈するものと思われ、長軸方位をN-17°-Wに取る。規模は長軸長0.9m以上、短軸長0.63m、深さはテラス部分で0.2m、柱穴部分で0.52mを測る。柱穴幅は0.23mを測る。SK-01同様、土壌として調査が成されているが、掘立柱建物の柱穴である。

SK-03 (土壌) <第17図> 3地点 (SB-04)

3地点の西端付近で検出された土壌。平面プランは隅丸長方形を呈するものと思われ、長軸方位を磁北方向に取る。規模は長軸長1.02m以上、短軸長0.96m、深さはテラス部分で0.18m、柱穴部分で0.46mを測る。柱穴幅は0.23mを測る。SK-01他と同様、土壌として調査が成されているが、掘立柱建物の柱穴である。

SK-04 (土壌) 3地点 (SB-04)

3地点の西端付近で検出された土壌。平面プランは不明であるがSK-01~03と同様、隅丸長方形を

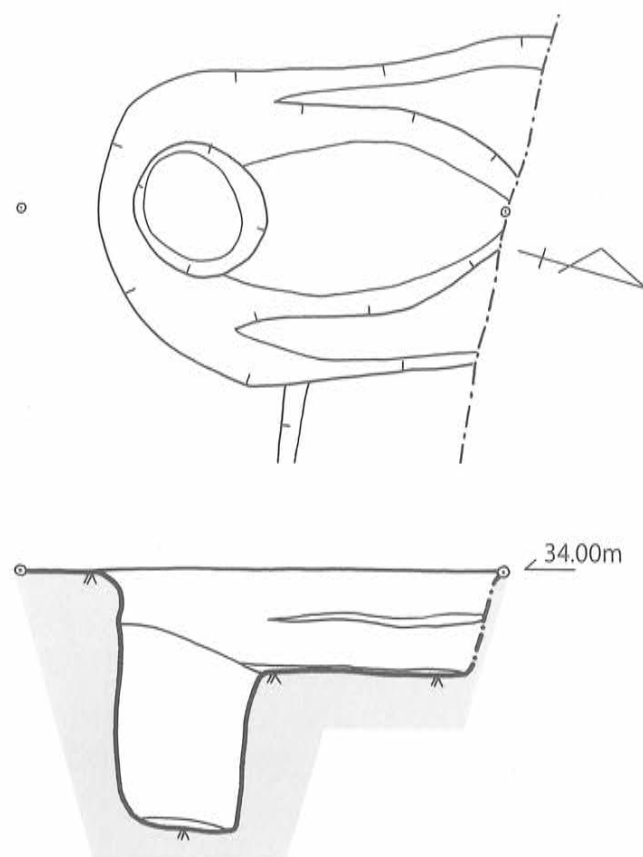


第15図 SK-01実測図
〔1/15〕 3地点

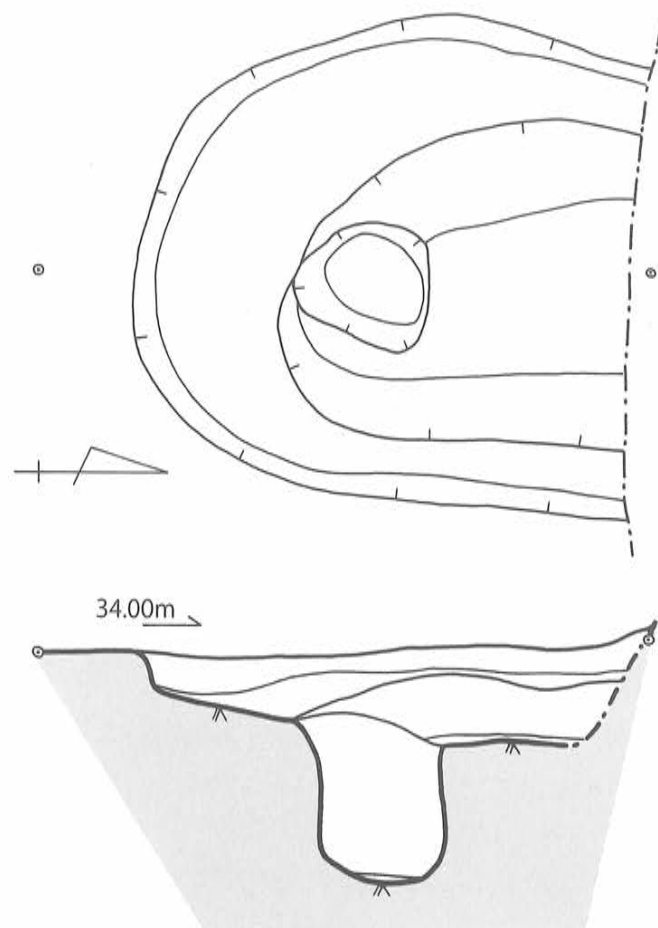
呈するものと思われる。主軸方位は不明。規模は1.65m以上、短軸長0.38m、深さは5cm程度を測る。SK-01他と同様、土壌として調査が成されているが、掘立柱建物の柱穴と思われる。

SX-01（不明遺構） 3地点

2～3地点にかけて検出された性格不明の遺構。平面プランは不整形。出土遺物として、弥生時代後期の壺、支脚等の破片がある。



第16図 SK-02実測図
〔1/15〕 3地点



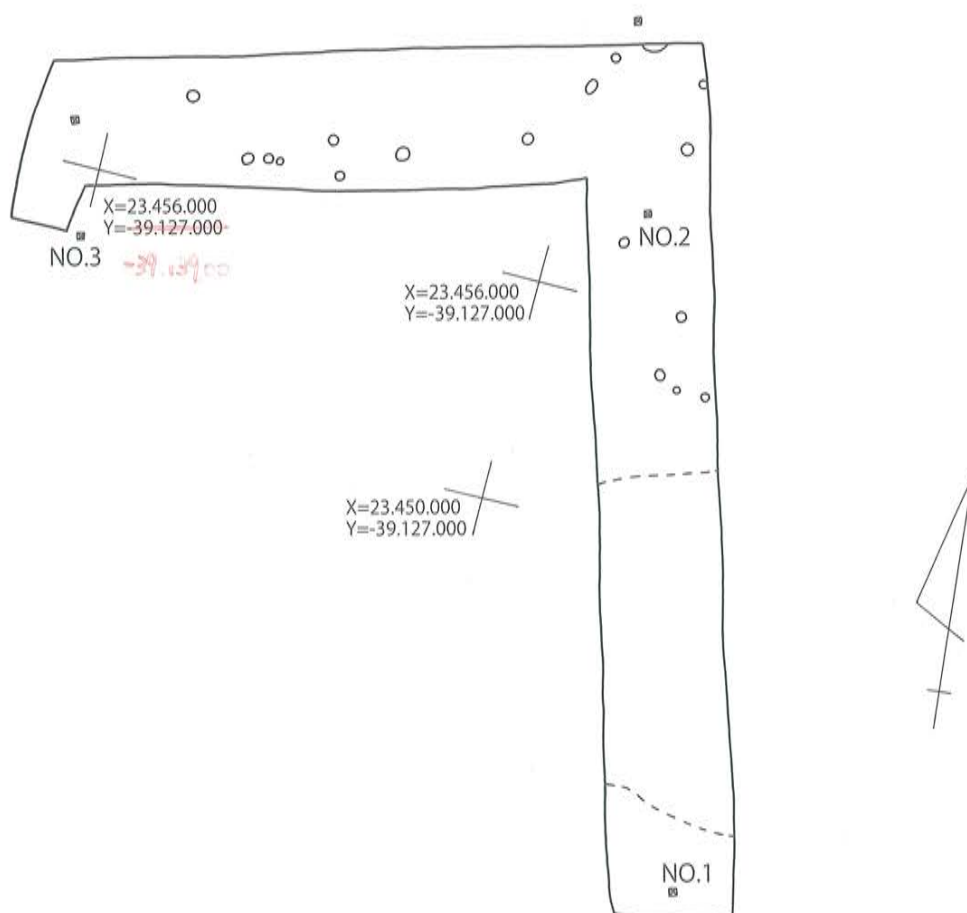
第17図 SK-03実測図〔1/15〕 3地点

3) 第4区調査における遺構と出土遺物

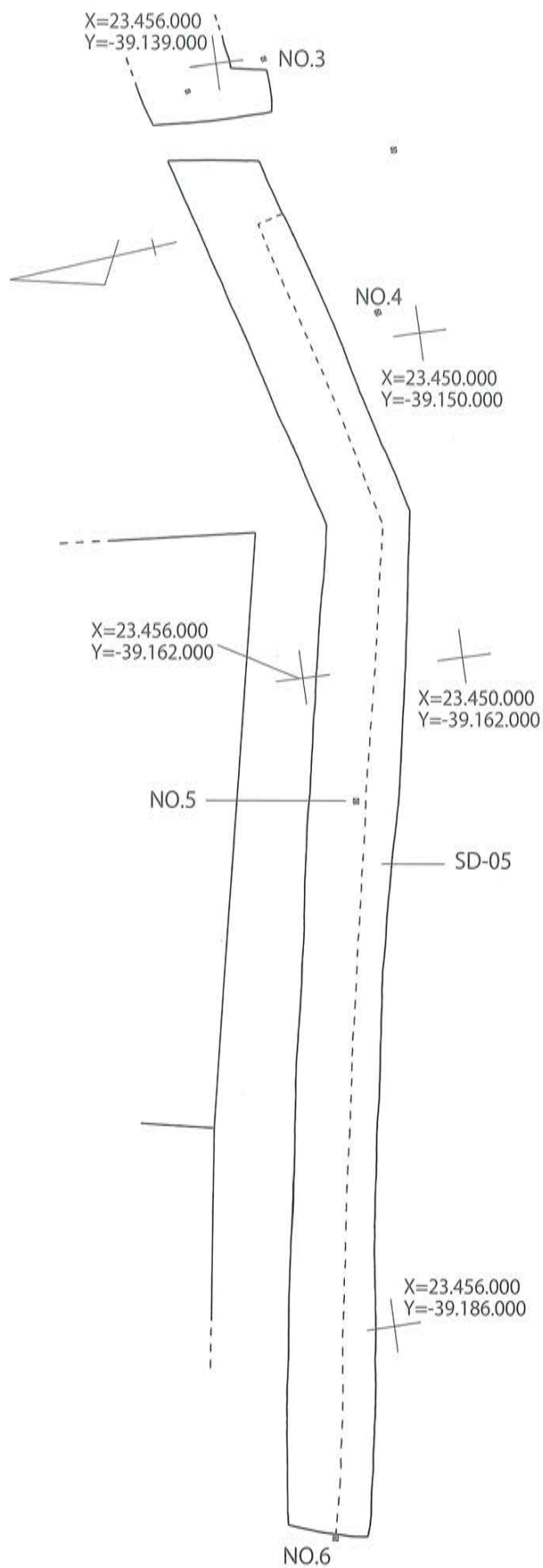
第4区は上妻小学校の西南西側にあり、総延長約93m、幅3mをその調査対象区とした。排水路掘削域は幅2～2.5m程だが、排水路幅+1mの猶予を頂いた。

調査は便宜上2地点に分け、東側（総延長41m）と西側（総延長52m）とに分け掘削を始めた。他地区同様、数層にわたる包含層、又は、生活層の存在が予測されたため、調査は上層より1層ずつ掘削しながら進めていった。しかしながら、明確な遺構については検出されず、僅かに東側部分において18個のピットを検出したに留まった。西側部東端から西に5m程の地点から基盤土の標高が下がり始め、南壁沿いにトレンチを設定したところ長大な自然堆積が確認されたため、本区西側の大半は幅45m以上の規模を有する自然河川跡であると判断した。

出土遺物は非常に少なく、また、細片が大半であったため図化していない。次期幅としては、古墳時代後期から10世紀代が考えられる。



第18図 第4区東側 平面実測図 [S=1/200]



第19図 第4区西側 平面実測図 [S=1/200]

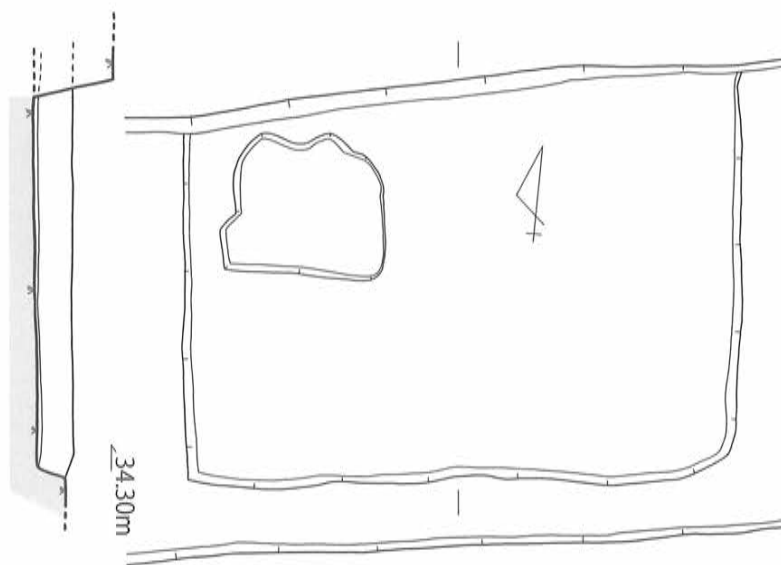
4) 第5区調査における遺構と出土遺物

第5区は上妻小学校の南西側にあり、総延長約100m、幅4mをその調査対象区とした。1区同様、排水路掘削域は幅2～2.5m程だが、排水路幅+1～2mの猶予を頂いた。

事前に行っていた試掘調査の結果から、包含層、又は、生活層の存在を予測していた。検出した遺構は竪穴式住居(SB)1軒、溝状遺構(SD)6条、土塋(SK)2基、不明遺構(SX)1基、ほかピット多数を確認した。

SB-01 〈第20図〉

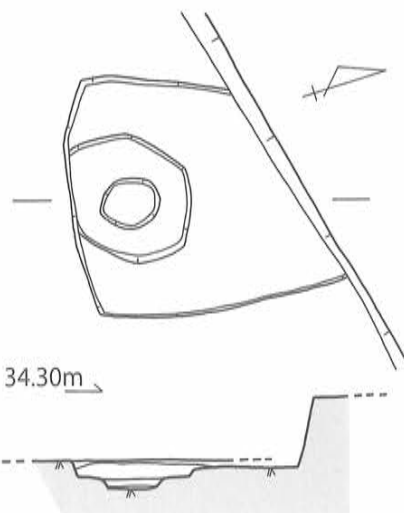
本住居は5区東側の東端付近において検出した竪穴式住居である。遺構本体の一部分が調査区外に出ており詳細は不明であるが、長軸方位をN-83°-Eに取り、検出規模は長軸長4.48m、短軸長3.38m以上、深さ0.28mを測る。支柱穴等については確認出来ず、住居としての機能には若干の疑問符がつく。しかしながら、貯蔵穴等の土塋としては規模が大きく、床面や掘り方についても竪穴式住居に類似した形状を有するところから、ここでは住居跡と判断した。



第20図 SB-01 実測図 [S=1/60]

SK-01 (土塋) 〈第21図〉

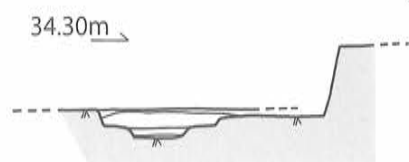
5区東側の西端付近で検出された土塋。平面プランは長方形を呈しているものと考えられ、長軸方位をN-17°-Eに取る。規模は長軸長1.46m、短軸長1.28m、深さ0.15mを測る。南隅に直径約60cmのピットが見られるが、役割については不明。



第21図 SK-01 実測図
[S=1/40]

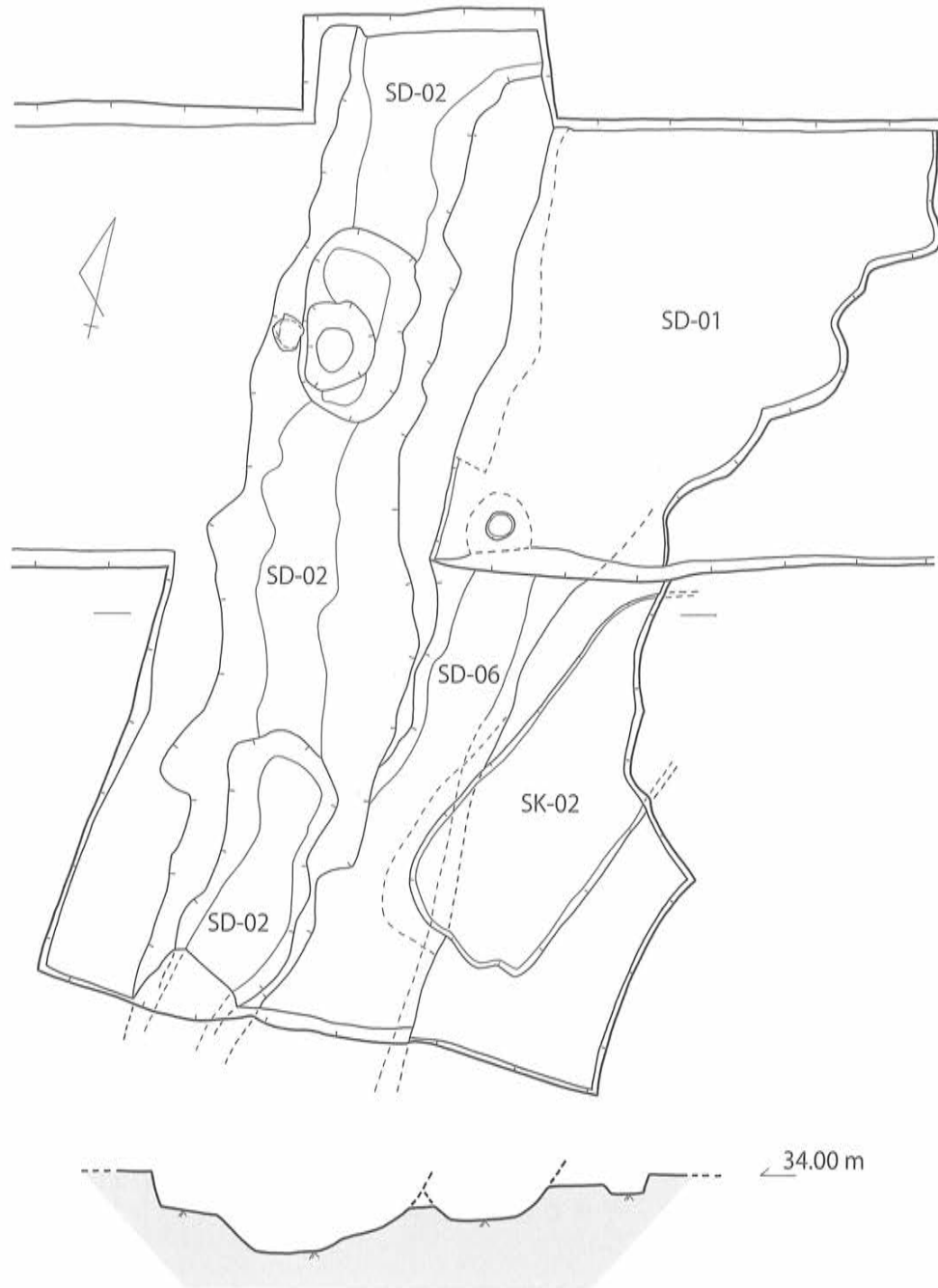
SD-01 (溝) 〈第22図〉

西側の中央付近で検出した溝で、南北方向の流路を持つ。規模(検出分のみ)は検出長5.4m、幅2～3.2m、深さ0.2mを測る。溝底面はほぼフラットであり、やや自然遺構の感が薄い事が気かりではあるが、本稿では自然流路として扱う。出土遺物なし。



SD-02 (溝) 〈第22図〉

西側の中央付近で検出した溝で、南北方向の流路を持つ。規模(検出分のみ)は検出長8.6m、幅1.0m～1.9m、深さ0.3～0.6mを測る。溝底面は流水作用と思われる起伏が多く見られる事から、溝と判断し



第22図 SD-01・02・06、SK-02 実測図 [S=1/60]

た。特筆すべきは、埋土よりも多い土器が溝中を埋め尽くしていた事である。本溝は弥生時代末頃に機能を失い、周辺遺跡から排出された土器廃棄のための溝として利用された後、埋没したものと考えられる。

出土遺物には多種多様な土器が含まれており、若干の時期差があるものと思われるが、良好な土器群資料として有用である。

SD-03 (溝) 〈第25図〉

西側の中央付近で検出した溝で、南北方向の流路を持つ。規模(検出分のみ)は検出長9.3m、幅1.8～2.1mを測る。SP-04に切られている。SD-01同様、溝底面はほぼフラットであり、やや自然遺構の感が薄い事が気がりではあるが、本稿では自然流路として扱う。出土遺物なし。

SD-04 (溝) <第25図>

西側の東端付近で検出した溝で、南北方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は検出長 11m、幅 4.5～5.0m を測る。SD-03 同様、溝底面はほぼフラットであり、また、堆積土が灰色砂の単層という事もあり、河川とは異なる遺構である可能性もあるが、他の SD との軸の方向性や、氾濫源としての可能性も残されている事から、本稿では自然流路として扱う。出土遺物なし。

SD-05 (自然河川跡) <第23図>

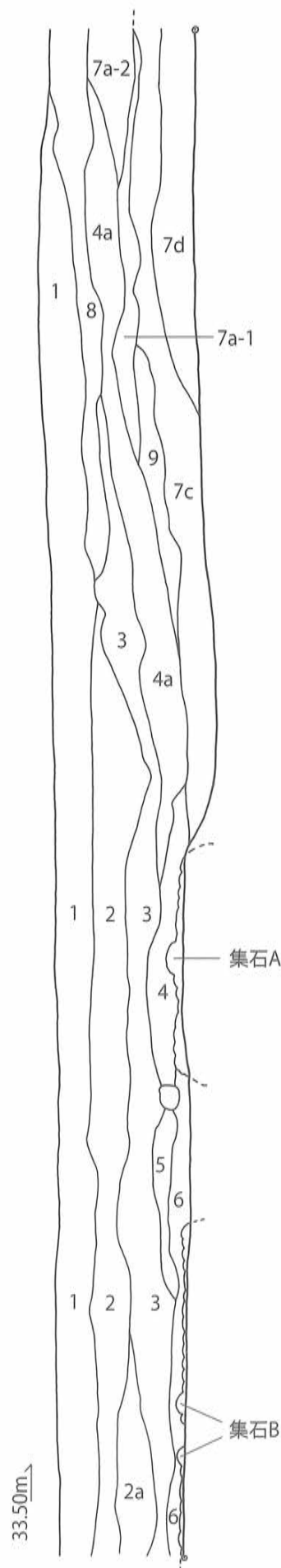
西側の中央以西において検出した溝で、南北方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は幅 38.4m 以上、深さ 0.6～0.9m を測る。溝底面には流水により運ばれたと思われる人頭大の円礫が散在しており、また、堆積土の観察では細砂や荒砂が厚い互層を成しており、比較的規模の大きな水流作用があったと思われる状況が多く見られる事から、4区において検出した自然河川に接続するものと判断した。

出土遺物として、土師器、須恵器、瓦器等の細片がある。また、形状不明であるが、人工的に加工が加えられている凝灰岩破片も出土している。

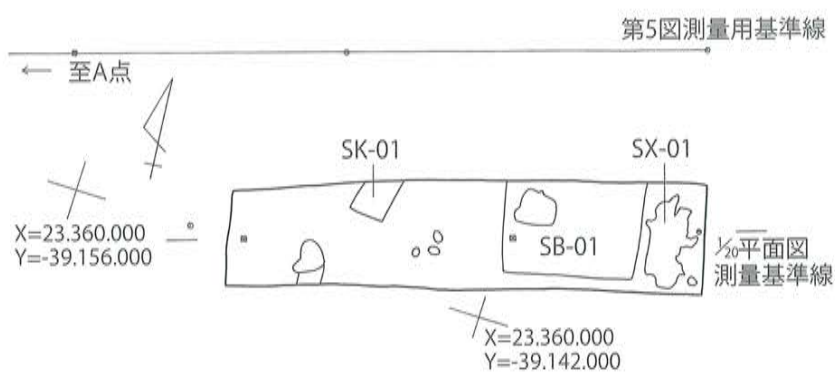
SD-06 (溝) <第22図>

西側の中央付近で検出した溝で、南北方向の流路を持つ。規模は現状で検出長 4m、幅 0.7m～1.1m、深さ 0.1～0.28m を測る。溝断面が整った逆台形を呈しており、自然流路特有の虫痕跡や草痕跡による凹凸が少ない事から人工的な溝と判断した。本来、SD-01 の西壁は本溝西壁の延長部分と思われ、そうであるなら本溝の検出長は 7.6m となる。

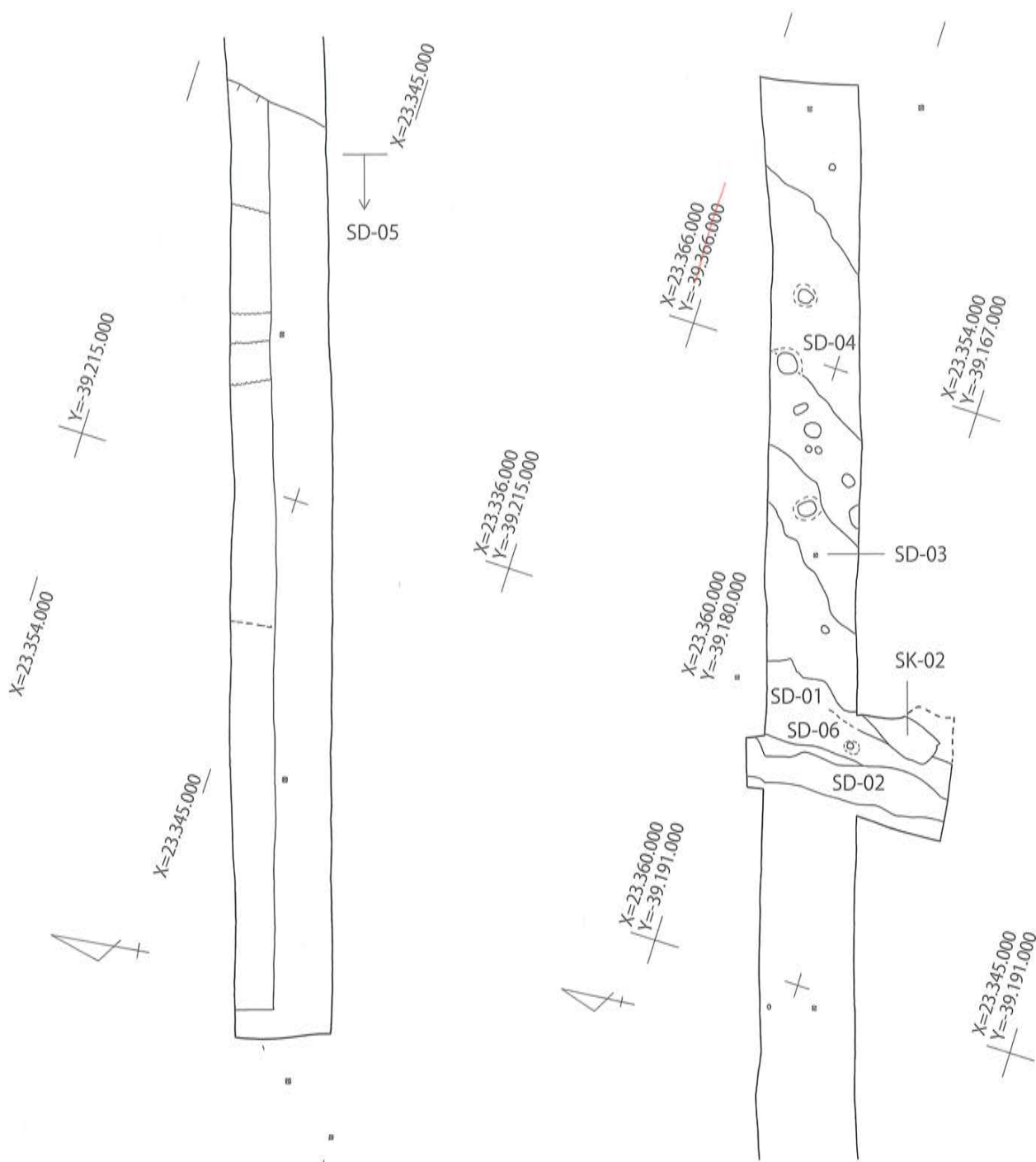
出土遺物として弥生後期の土器破片があるが、細片であるため図示していない。



第23図 SD-05 南壁土層 実測図 [S=1/40]



第24図 第5区 東側遺構配置図 [S=1/250]



第25図 第5区 西側遺構配置図 [S=1/250]

5) 第6・7・8区調査における遺構と出土遺物

第6・7・8区は上妻小学校の^東西側にあり、総延長約187m、幅4mをその調査対象区とした。他区と同様、排水路掘削域は幅2～2.5m程だが、排水路幅+1～2mの猶予を頂いた。

事前に行っていた踏査の状況から、須恵器を包含する遺構の存在を予測していた。検出した遺構は溝状遺構(SD)3条、土塋(SK)3基、不明遺構(SX)3基、ほかピット等を確認した。

当該調査区域は、事前踏査により多数の須恵器破片が散在している事が判明しており、相当数の遺構検出、及び、遺物の出土が予測されたが、想像以上に削平が著しく、6区においてはローム層の深いところまで削られ、また、8区西側においては基盤土であるローム層がなくなり、直下の礫層が露出するほど削平が行われていた。

しかしながら、一部には古式土師器や7～8世紀代の須恵器が混入する整地層も見られ、大規模な削平が行われたのは、少なくとも奈良時代以降と考えられる。

本調査区域においては、整地層以外にもかろうじてその存在を留めた遺構を検出する事が出来たため、本稿ではこれらについて記述したい。

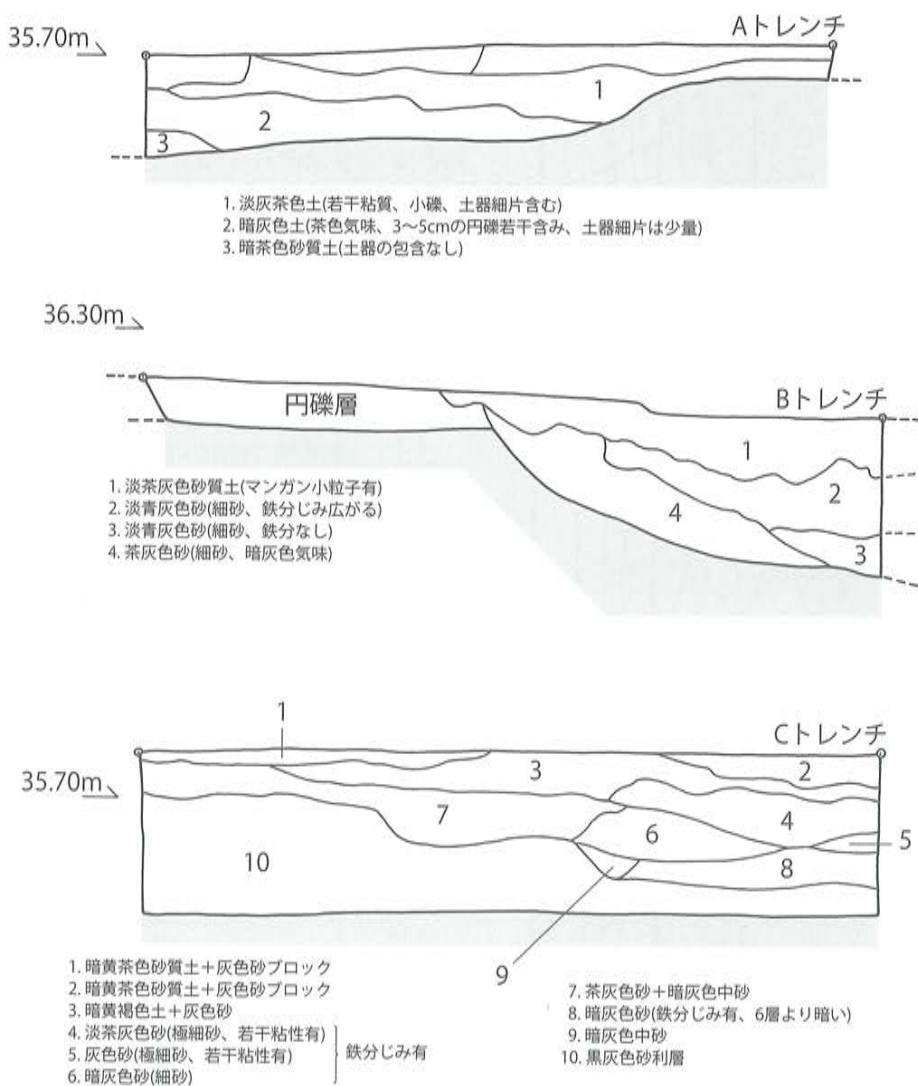
SD-01 〈第30図〉

7区西端部で検出した溝で、北西～南東方向の流路を持つ。規模(検出分のみ)は検出長6.5m、幅0.7～1.0mを測る。溝断面は緩やかなU字を成しており、人工的に掘削された溝であると判断した。

出土遺物なし。

SD-02 〈第30図〉

7区中央付近で検出した溝で、基本的には南北方向の流路を持つものと思われる。調査区内において逆さT字に開いているが、流路末端の状況は調査区外にあり判然としない。規模(検出分のみ)は検出長10.7m(T字部分含む)、幅3.0～4.2m、深さ0.5mを測る。断面は東西壁面それぞれほぼ垂直に立ち上がった

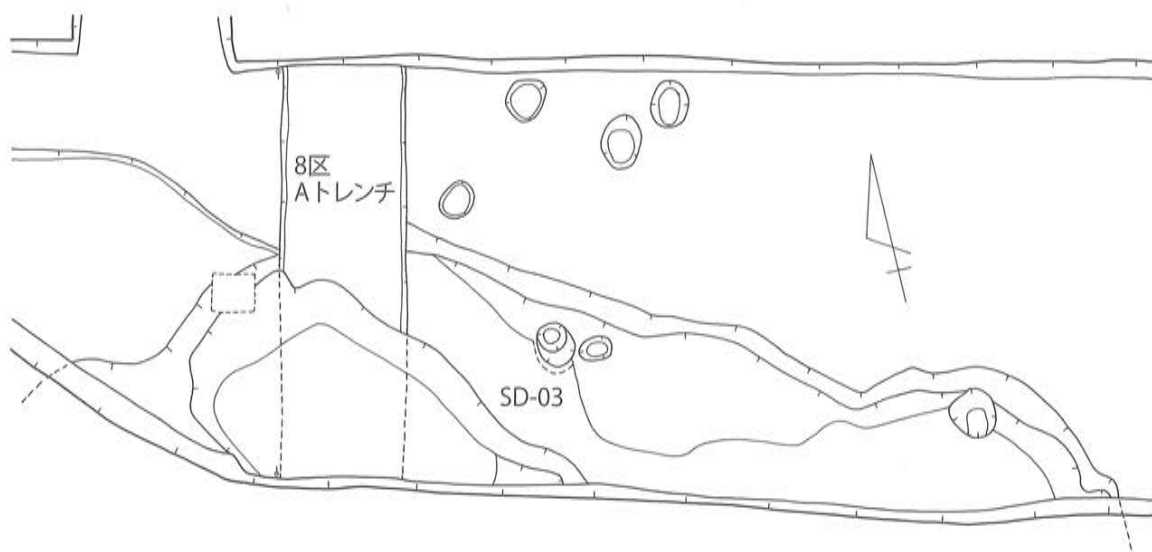
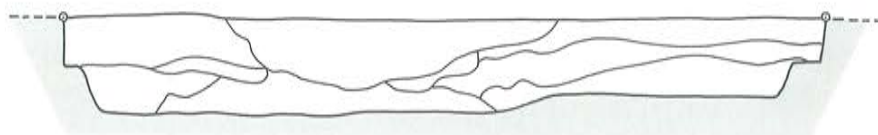


第26図 第7区 A～Cトレンチ 土層断面図 [S=1/40]

ており、人工的に掘削され 36.00m、
た遺構であると判断した。
しかしながら、溝としての
機能を有していたとの決定
的な要因はなく、性格付け
として溝であるという判断
は現段階での状況のみでの
判断であるため、将来的に
は変更の余地も残っている。

出土遺物として、陶磁器の破片がある。

第27図 第7区 SD-02 北側土層断面図 [S=1/40]



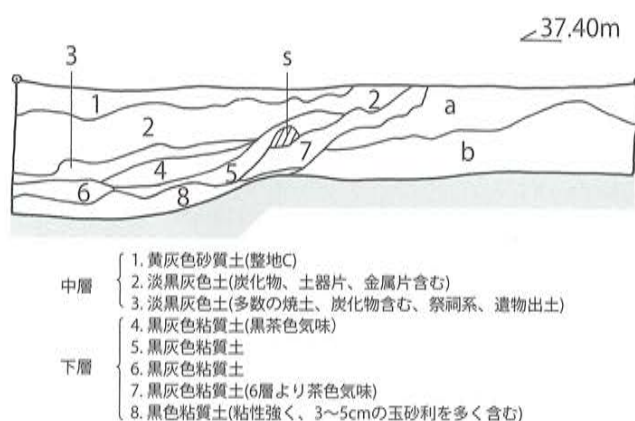
第28図 第8区 SD-03 実測図 [S=1/60]

SD-03 〈第28図〉

8区西端部で検出した溝で、基本的には西北西～東南東方向の流路を持つものと思われる。調査区内において検出した部分は全体形からすると僅かであり、詳細については判然としない。溝の蛇行状況から自然河川と思われる。規模（検出分のみ）は検出長 8.4m、幅 2.4m（最大検出幅）、深さ 0.8m を測る。

遺構からは滑石製紡錘車、土製丸玉、丹塗土器等が近似した位置において出土したことから、自然河川の川端を利用した水際祭祀が行われたものと予測出来る。しかし、祭祀自体の目的については本調査の範囲では掴む事が出来なかった。

出土遺物として、前述したもの以外に甕・壺等の破片がある。



第29図 第8区 Aトレンチ
西側土層断面図 [S=1/40]

SK－01 〈第30図〉

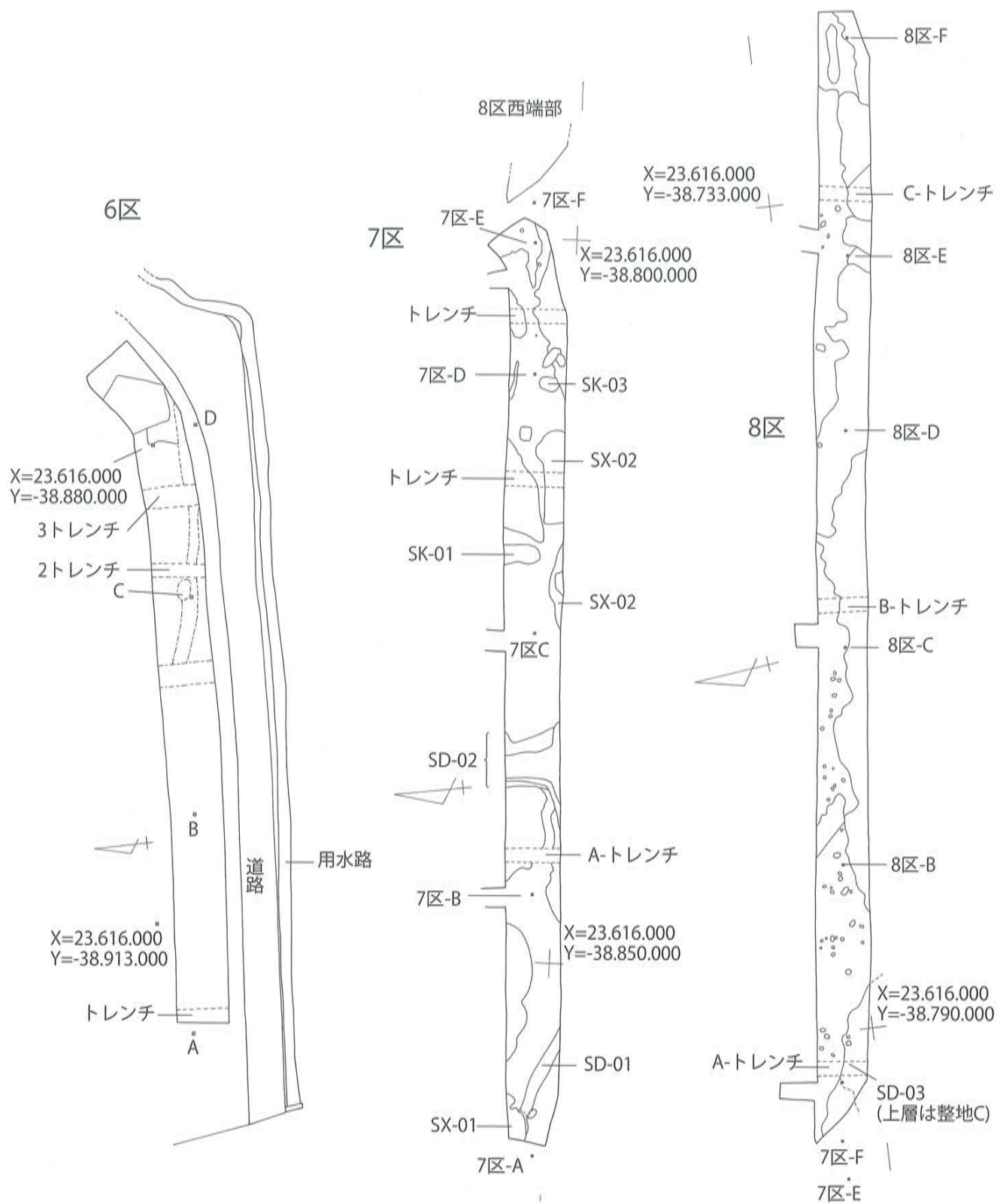
7区中央付近において検出された土壌。平面プランは不整形な長円形を呈しているものと考えられ、長軸方位を南北に取る。規模は長軸長 2.4m、短軸長 1.3m を測る。出土遺物なし。

SK－02 〈第30図〉

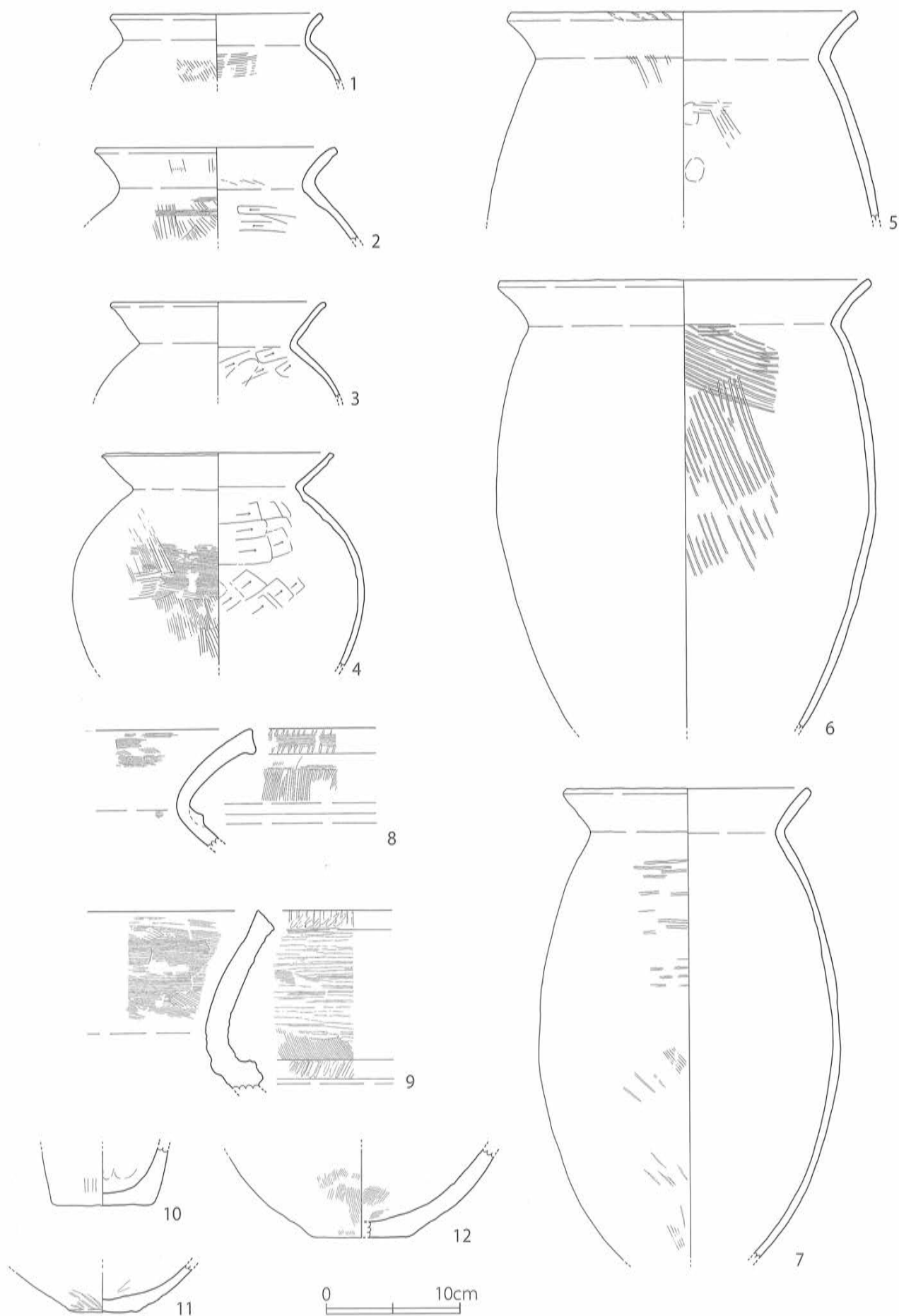
7区中央付近において検出された土壌。平面プランについては、遺構の大半が調査区外にあり、詳細については不明。規模は検出した部分において東西 6m、南北 1m を測る。出土遺物なし。

SK－03 〈第30図〉

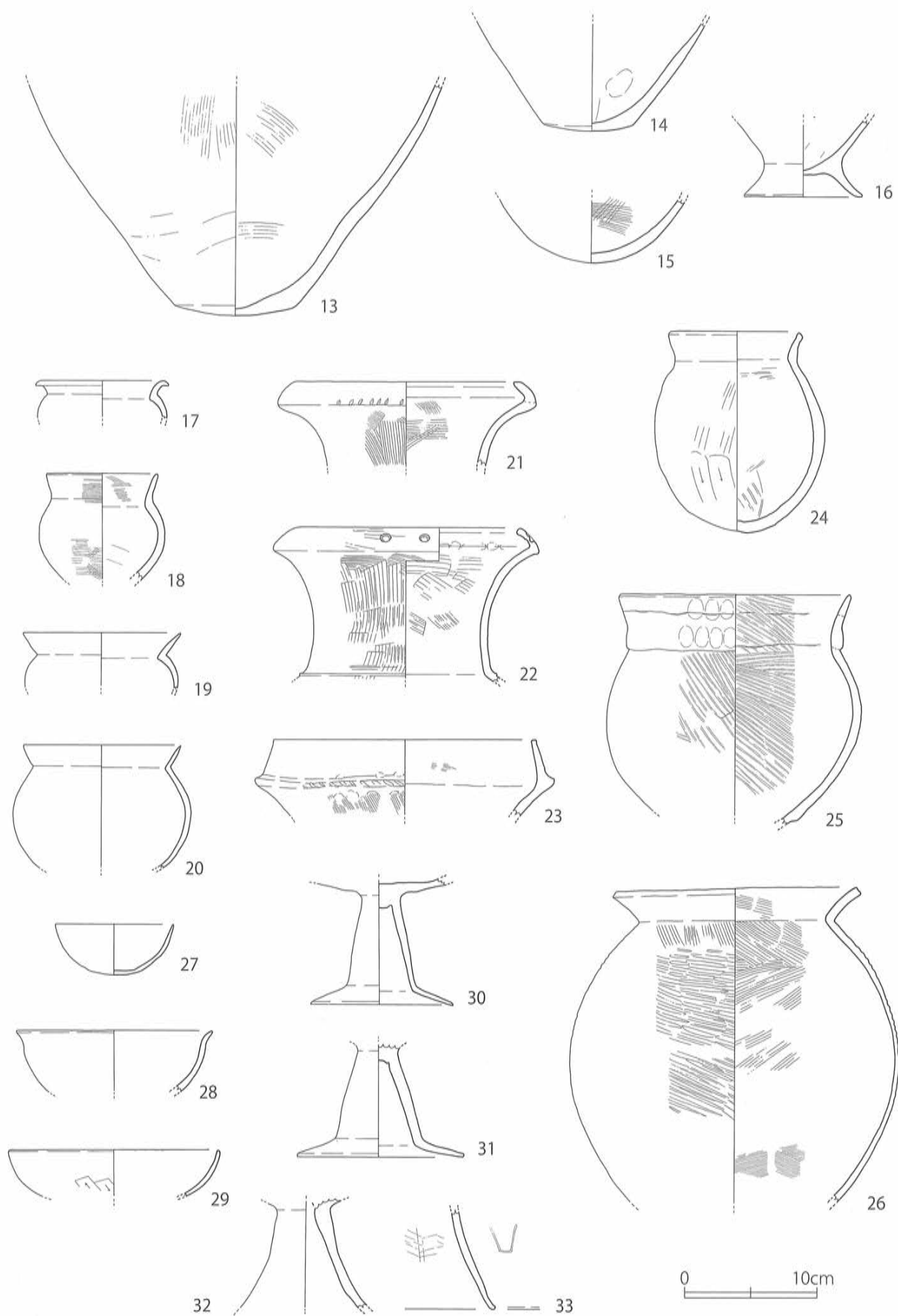
7区東端付近において検出された土壌。平面プランは不整形な楕円形を呈している。長軸方位を南北方向に取り、規模は長軸長 1.3m、短軸長 0.9m を測る。出土遺物なし。



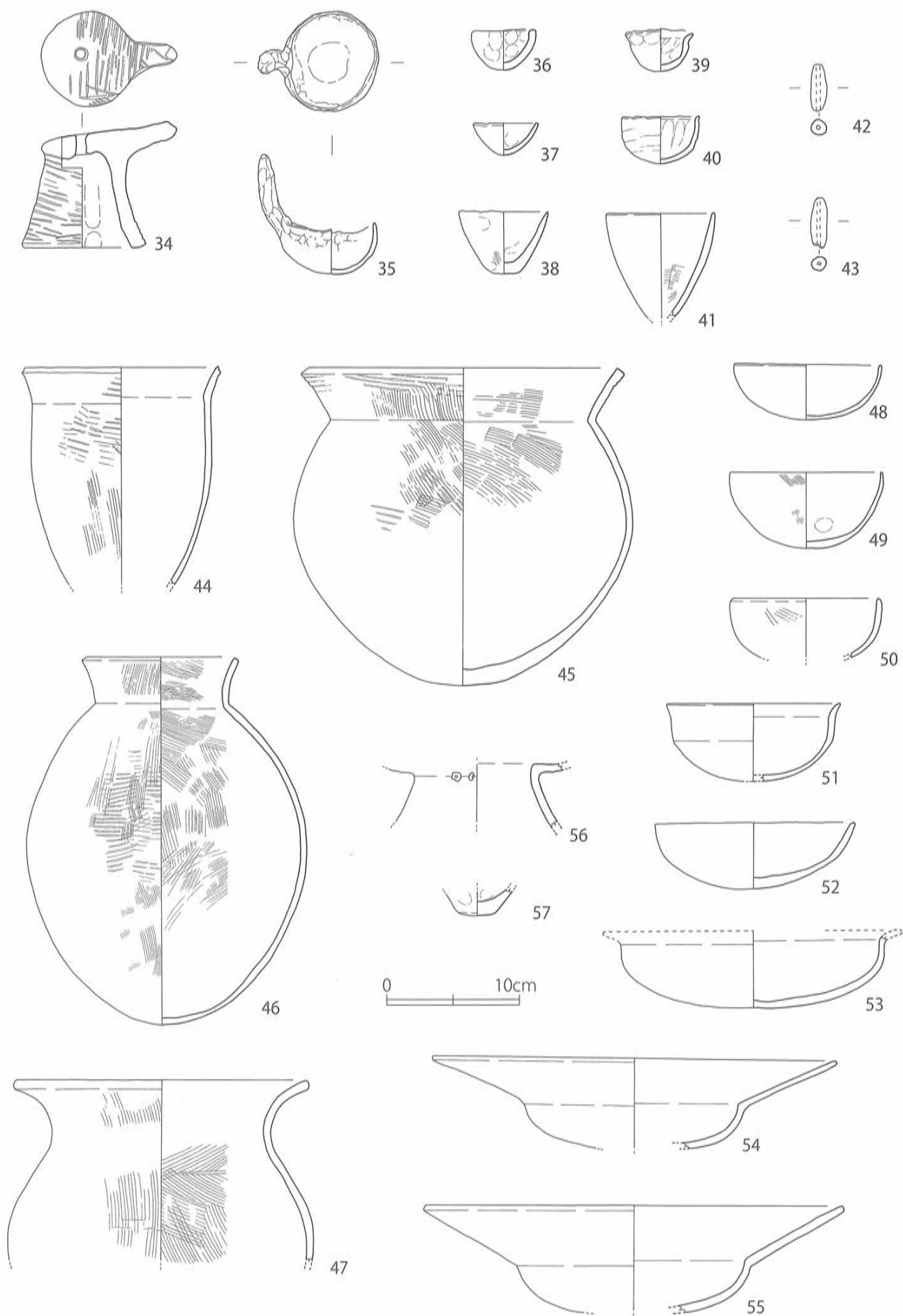
第30図 第6・7・8区 遺構配置図 [S = 1 / 400]



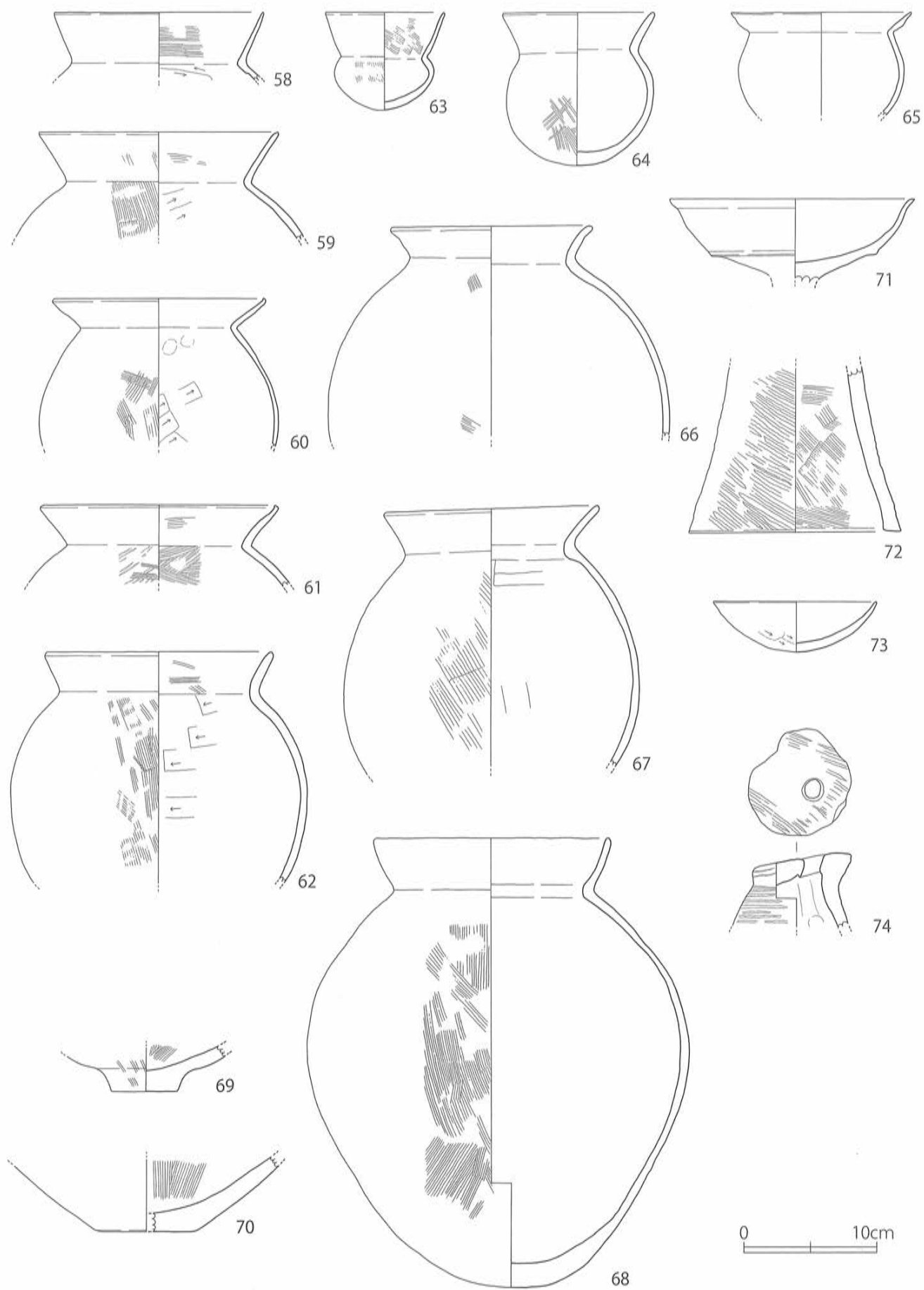
第31図 第1区1層 出土土器 実測図 [S = 1 / 4]



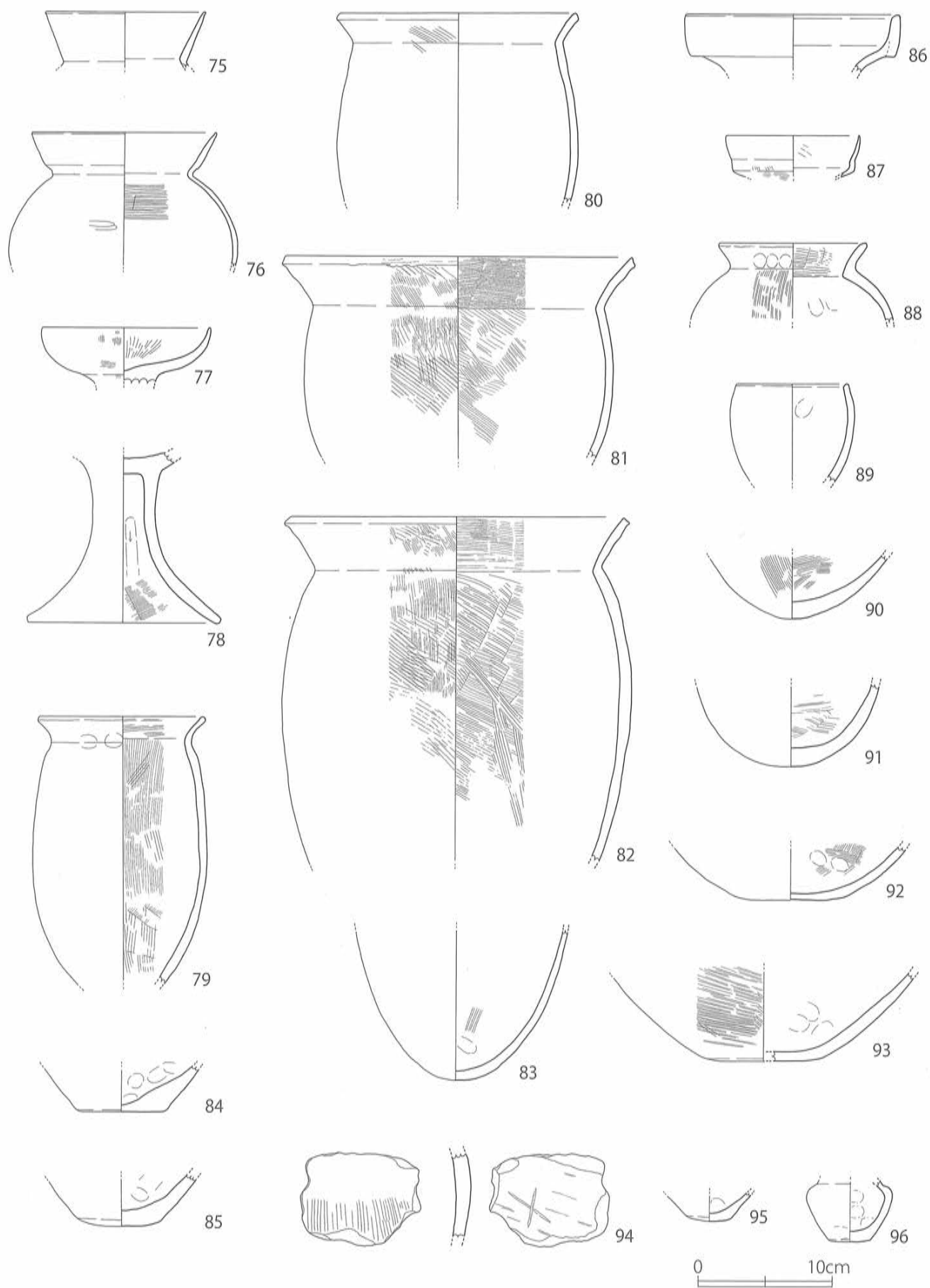
第32図 第1区1層 出土土器 実測図 [S = 1/4]



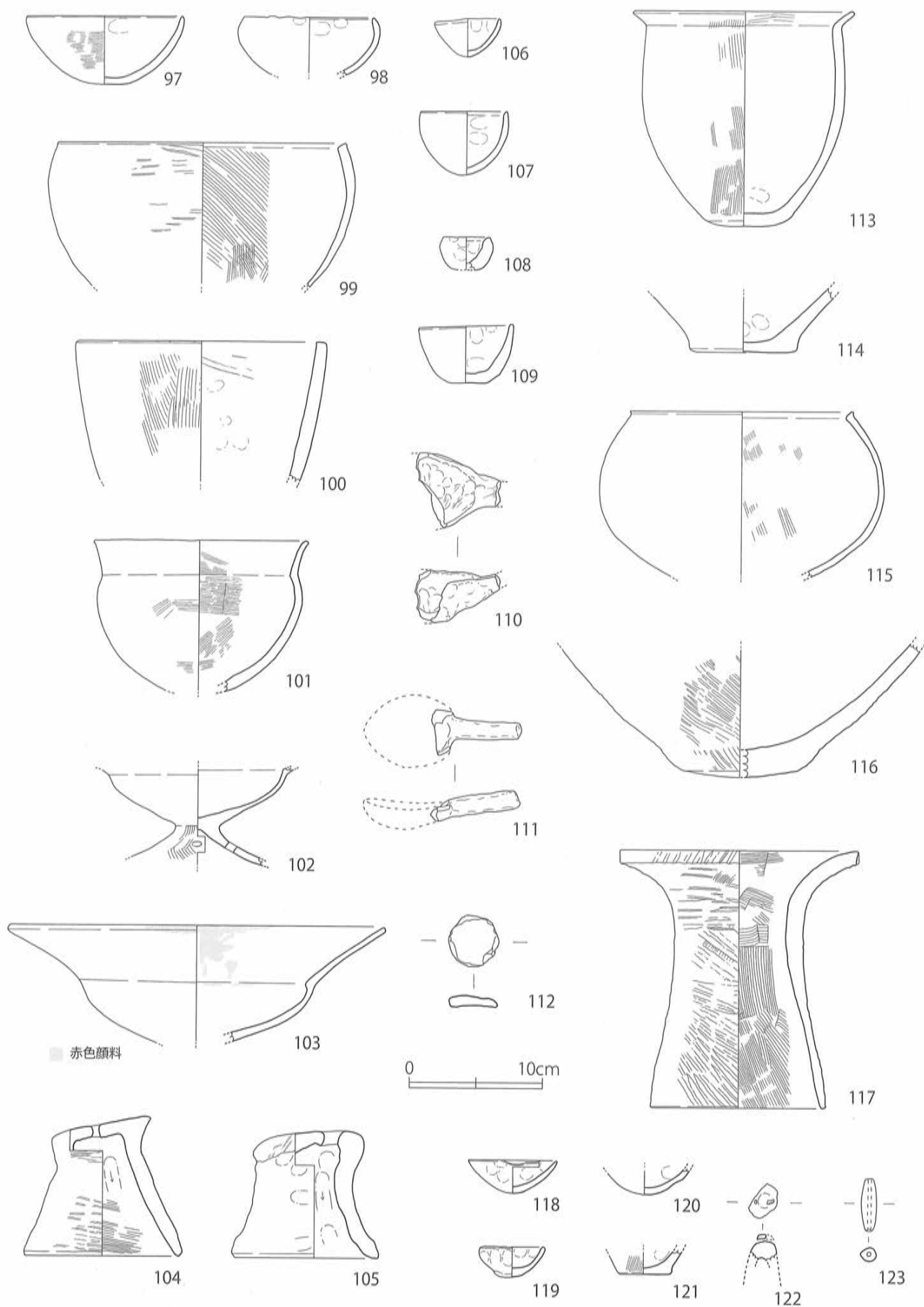
第33図 第1区第1層・2層 出土土器 実測図 [S = 1 / 4]



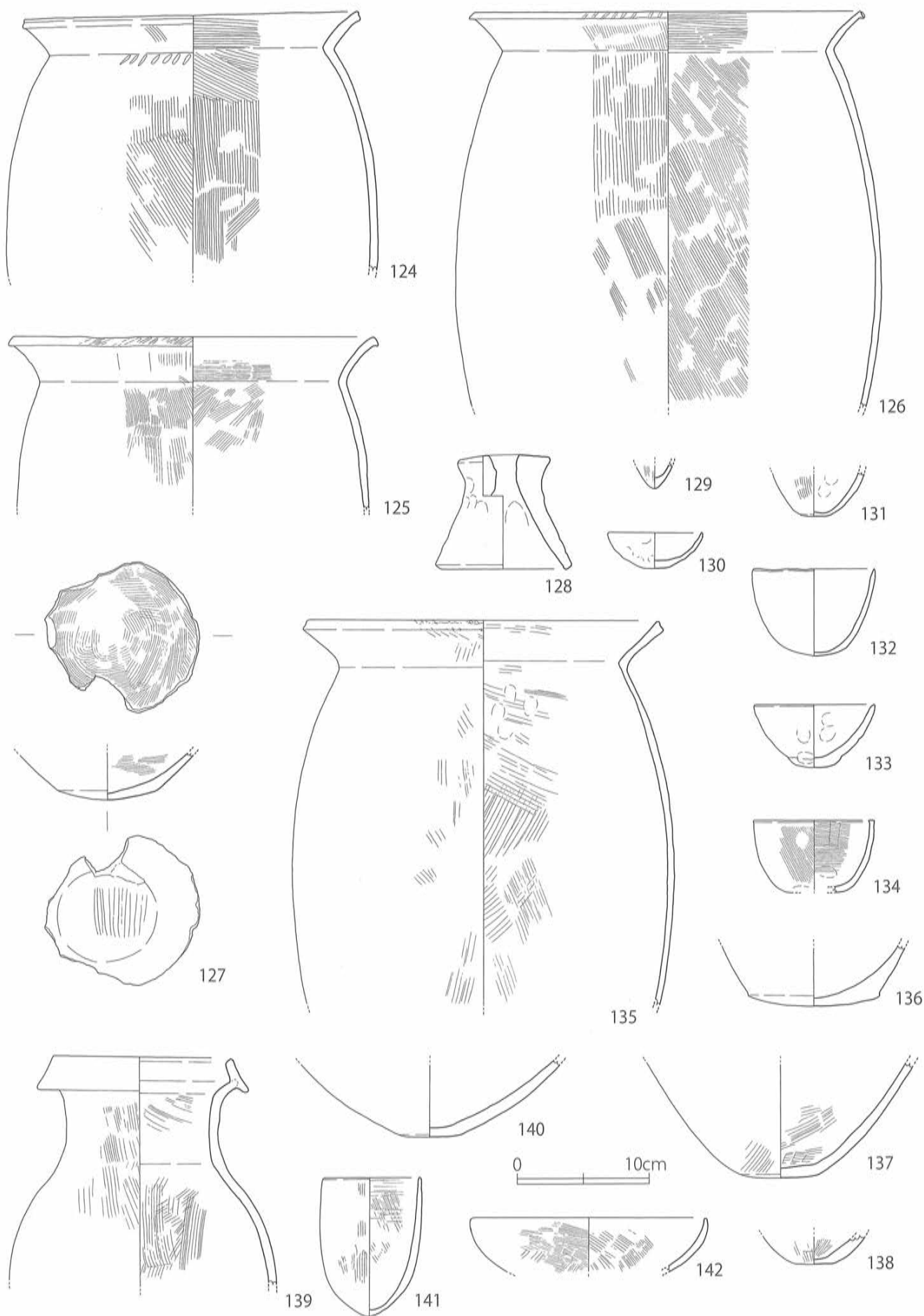
第34図 第1区 SD-02 出土土器 実測図 [S = 1/4]



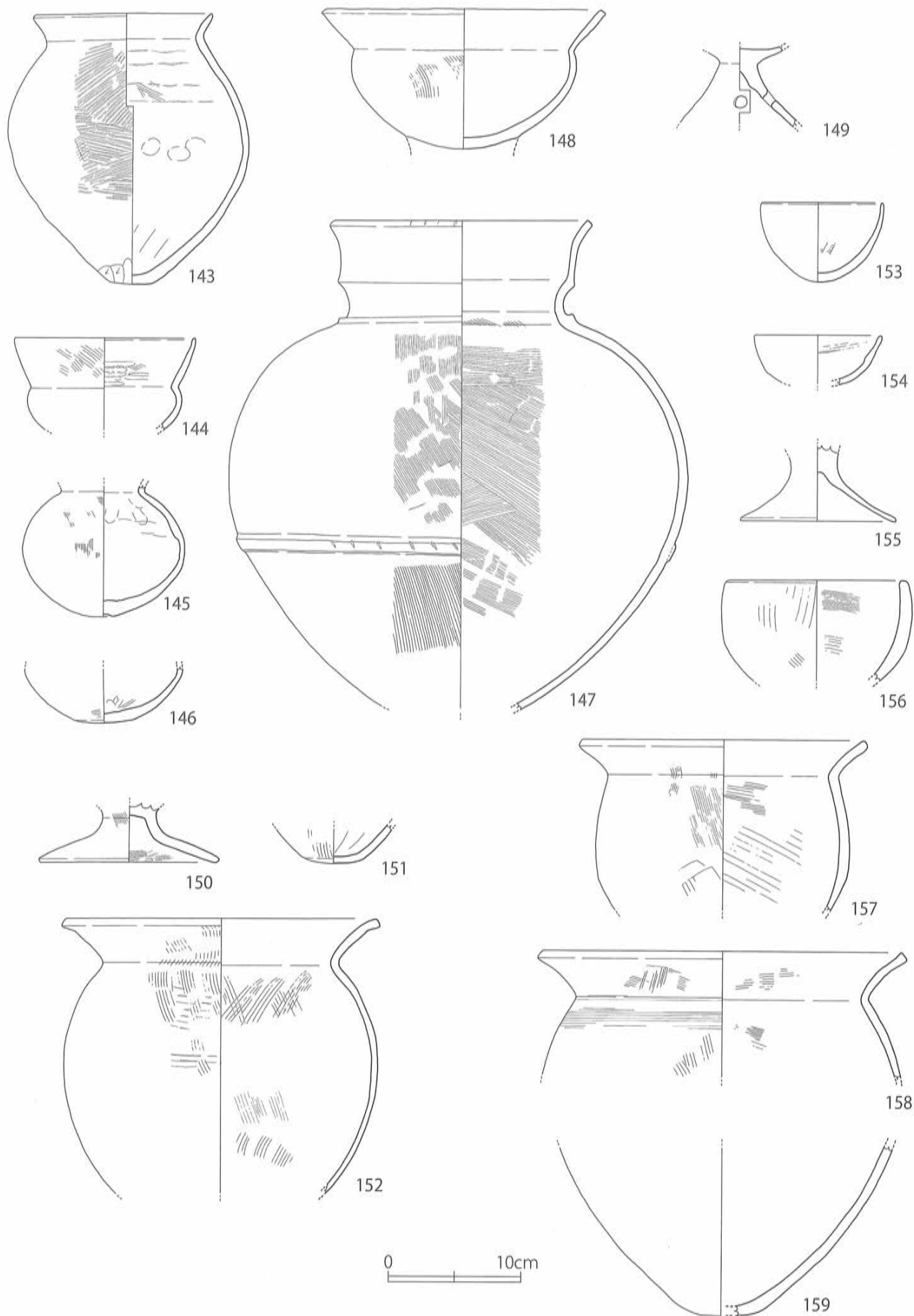
第35図 第2区1層 出土土器 実測図 [S = 1 / 4]



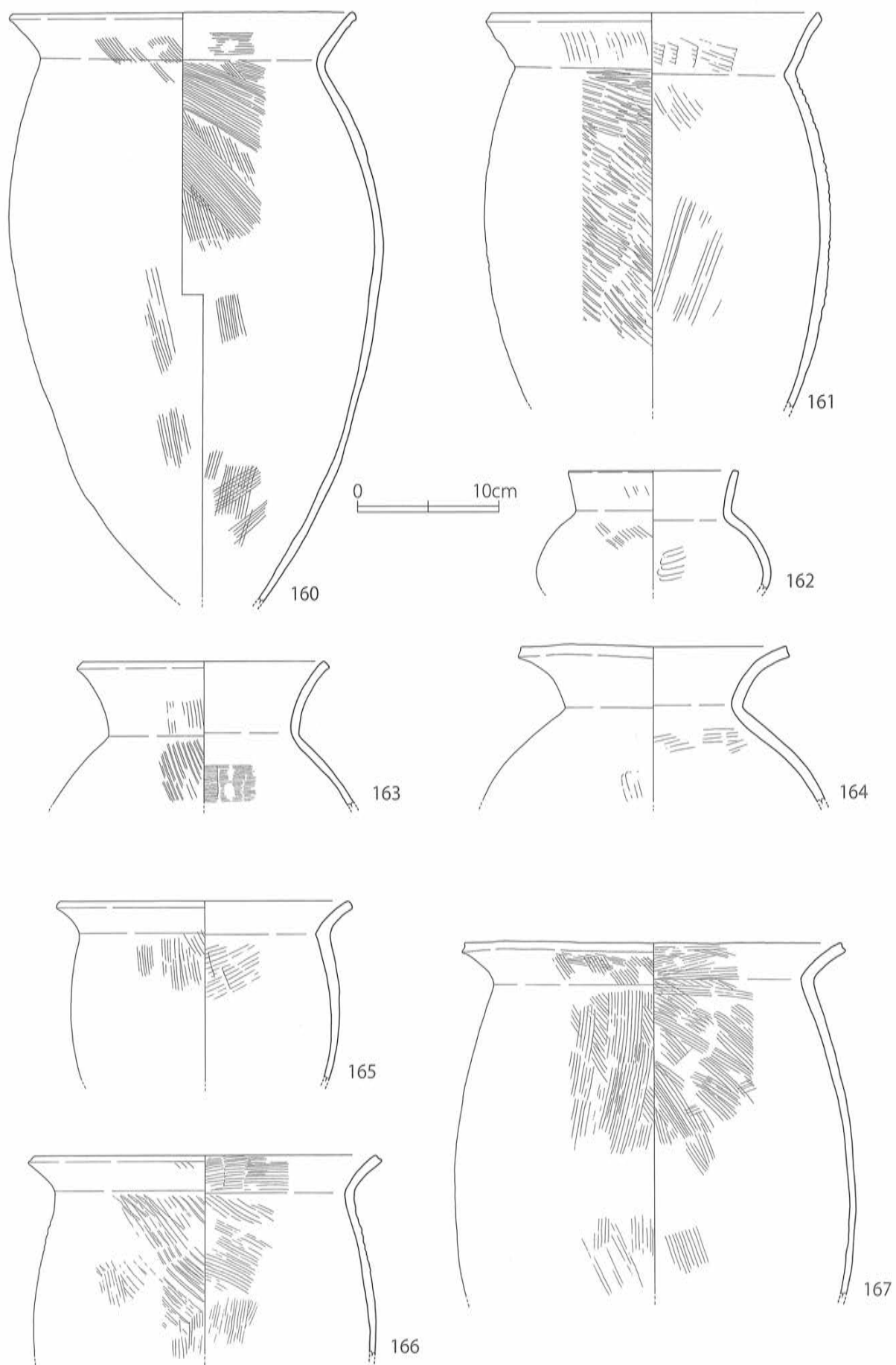
第36図 第2区1層・2層 出土土器 実測図 [S = 1 / 4]



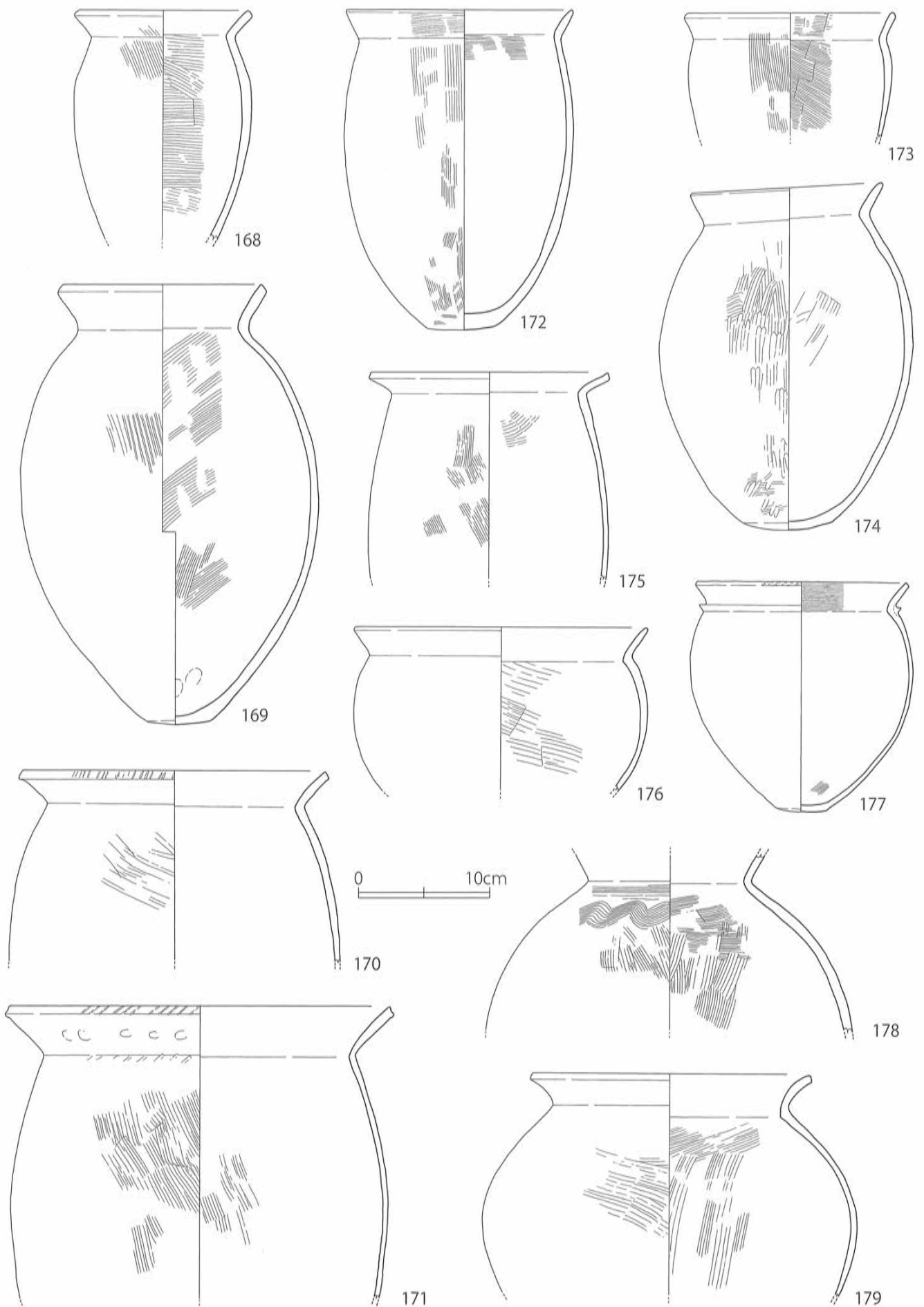
第37図 第2区3層・4層 出土土器 実測図 [S = 1 / 4]



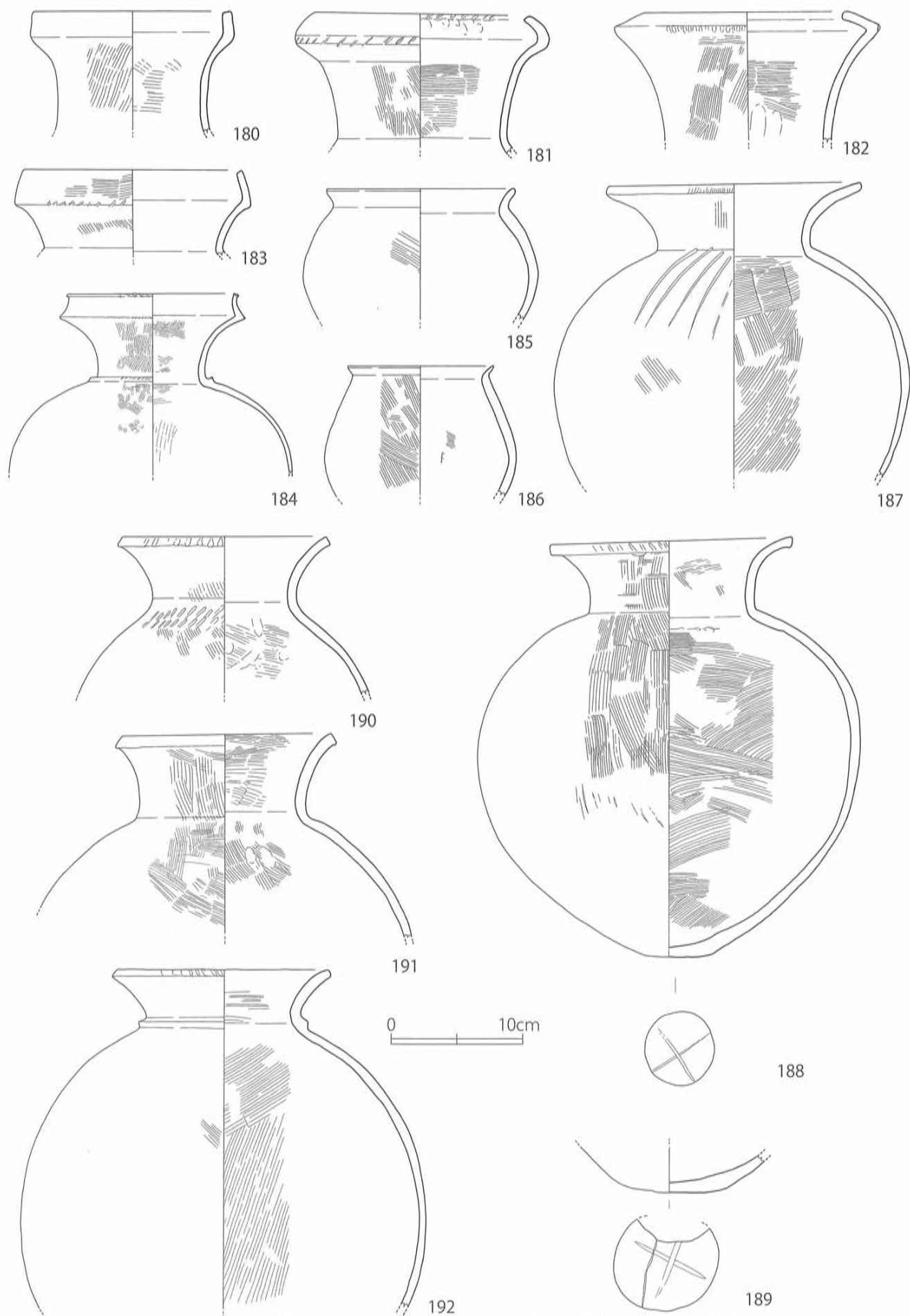
第38図 第2区 SB-01・02、SK-01・03、SX-01・02 出土土器 実測図〔S=1/4〕



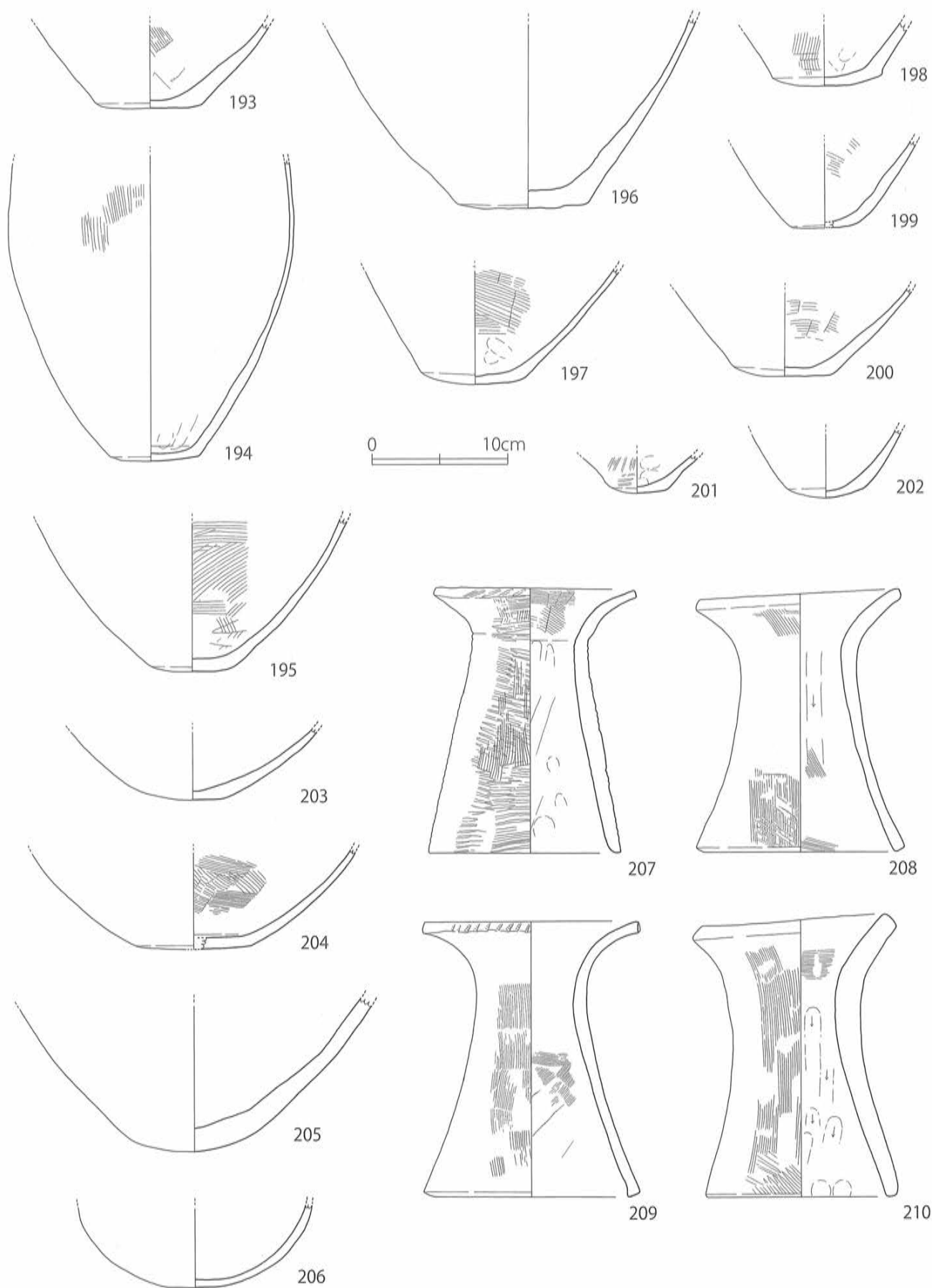
第39図 第2区 SX-01、及び、第5区 SD-02 出土土器 実測図 [S = 1/4]



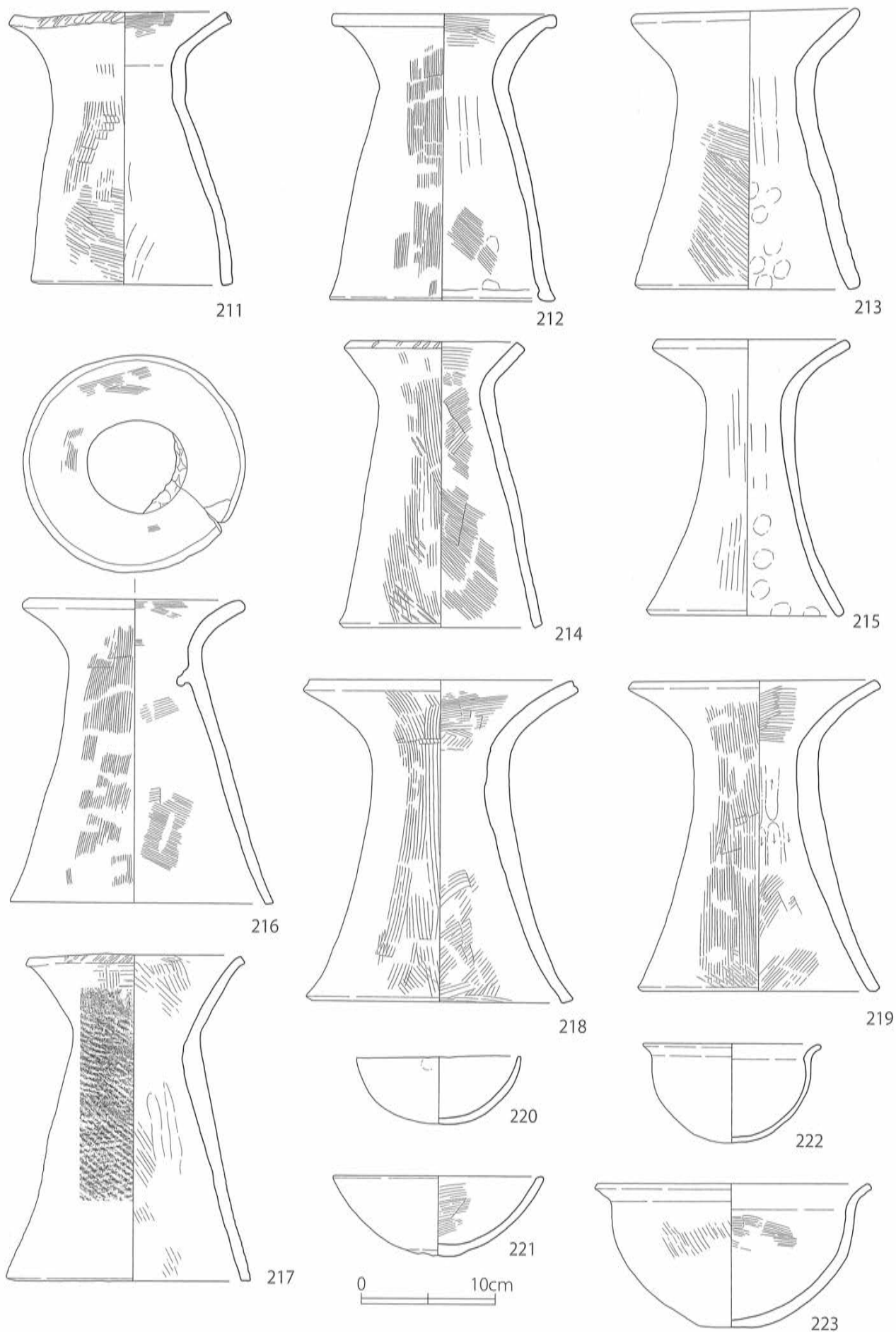
第40図 第5区 SD-02 出土土器 実測図 [S=1/4] (177のみ1/8)



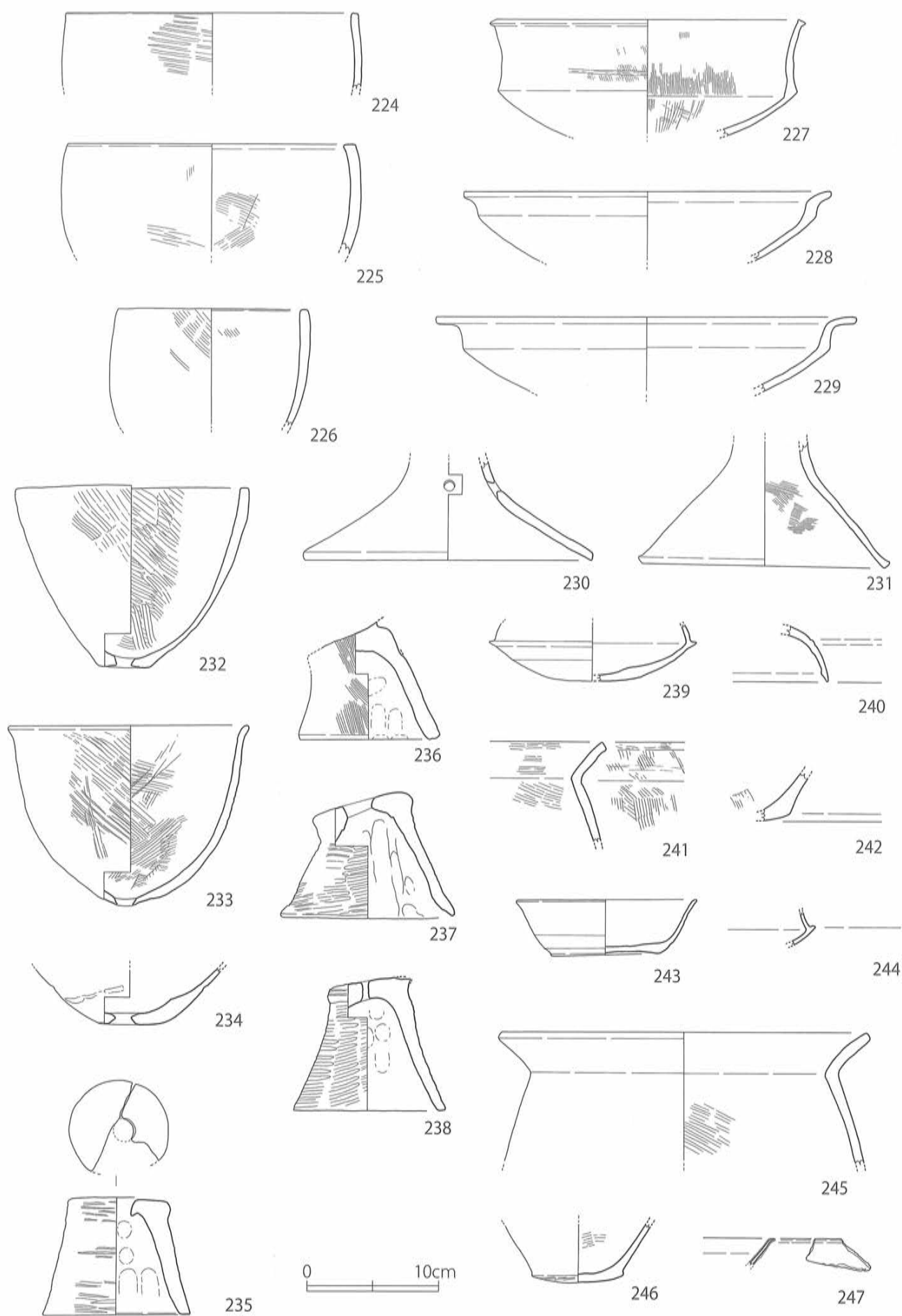
第41図 第5区 SD-02 出土土器 実測図 [S = 1/4]



第42図 第5区 SD-02 出土土器 実測図 [S = 1/4]



第43図 第5区 SD-02 出土土器 実測図 [S = 1/4]



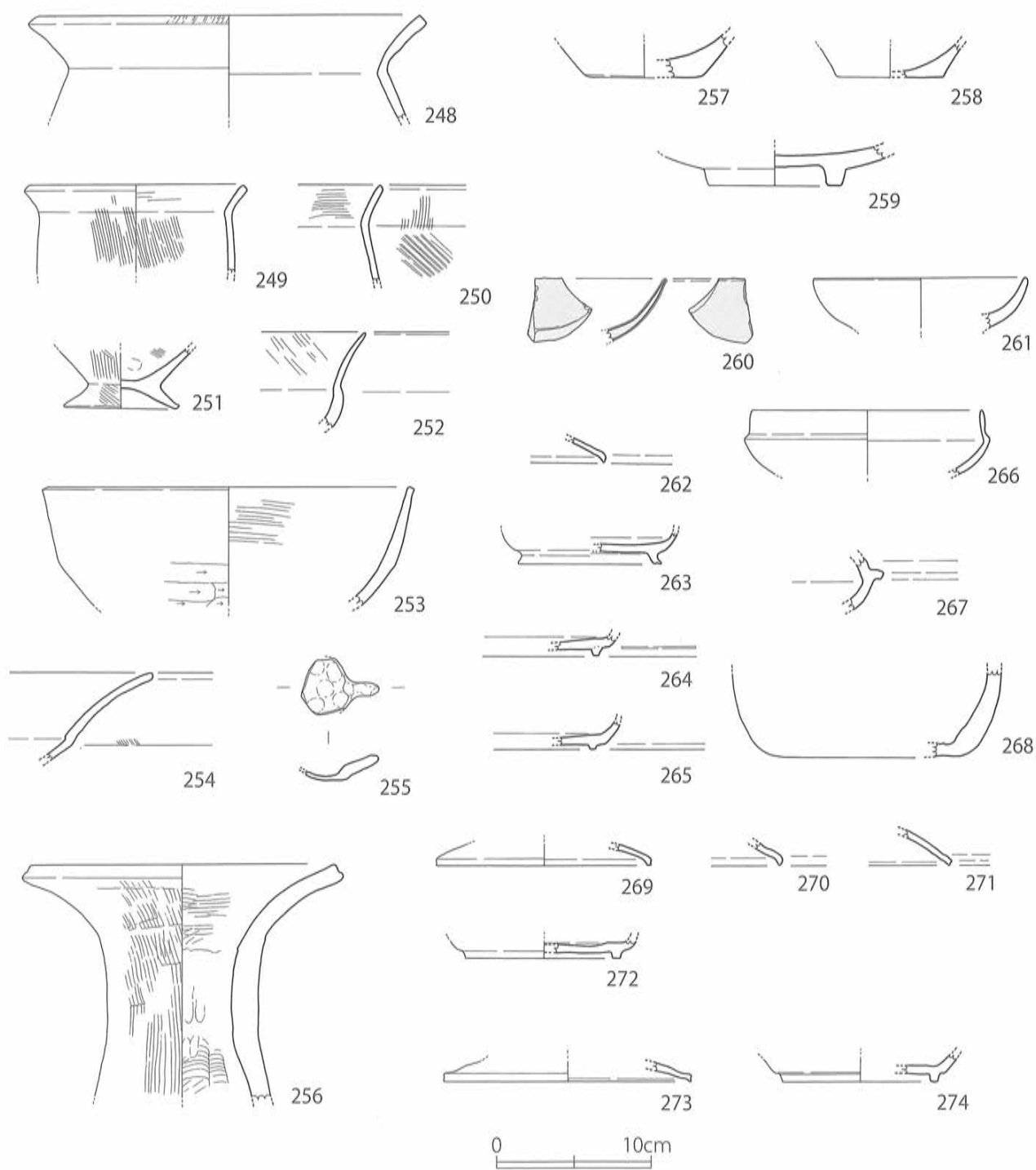
第44图

第5区

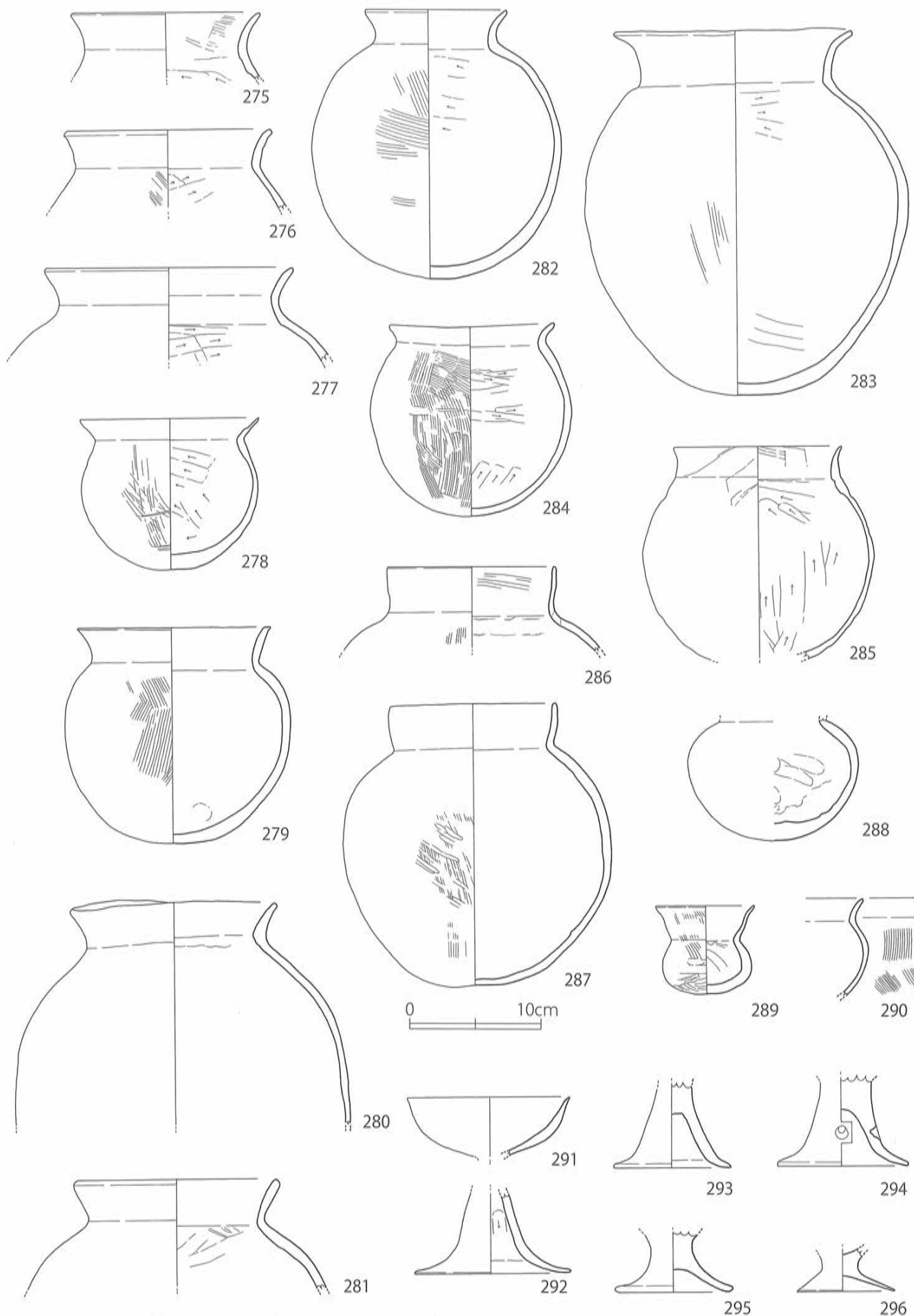
SD-02・05・06

出土土器

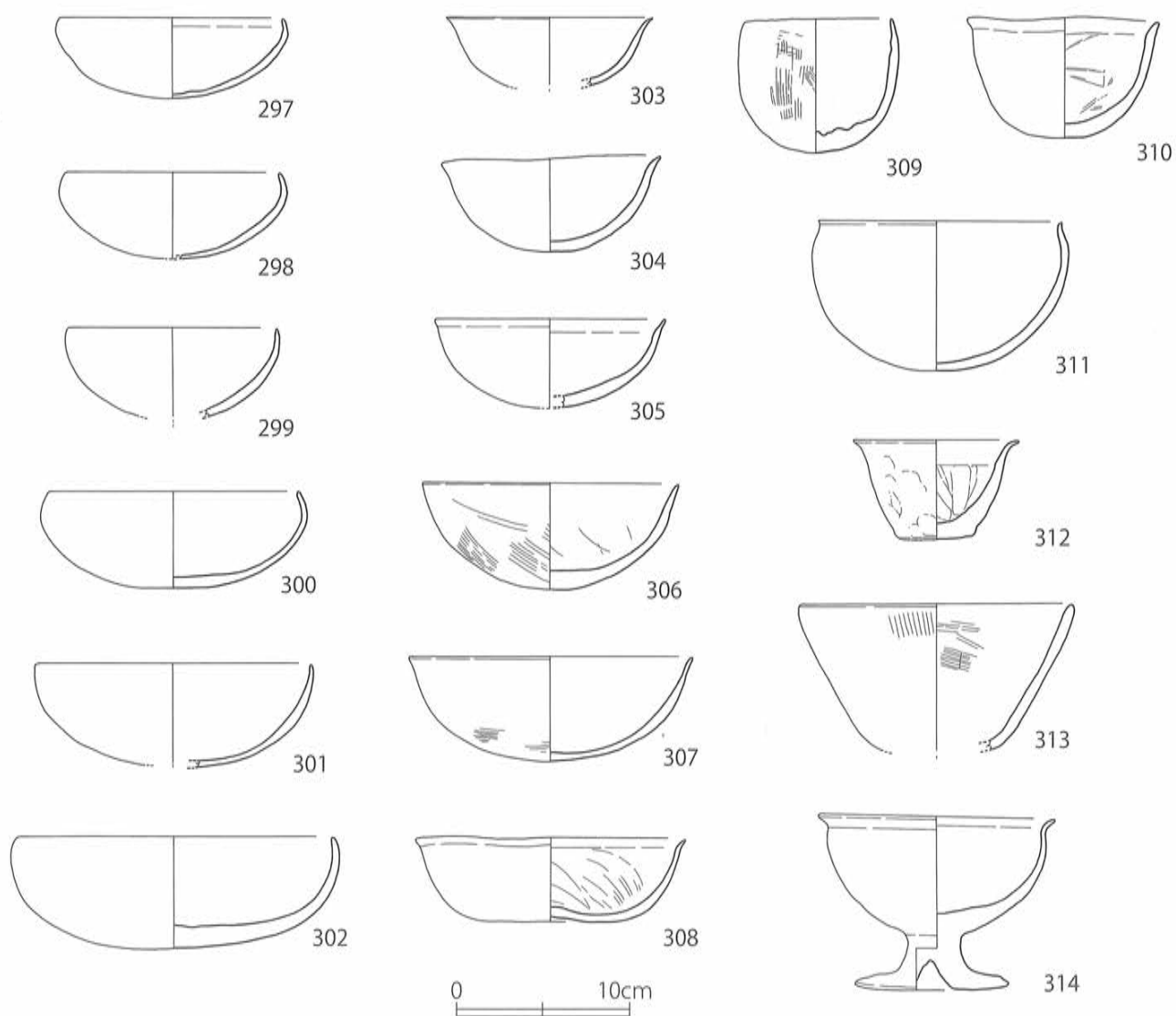
実測図 [S=1/4]



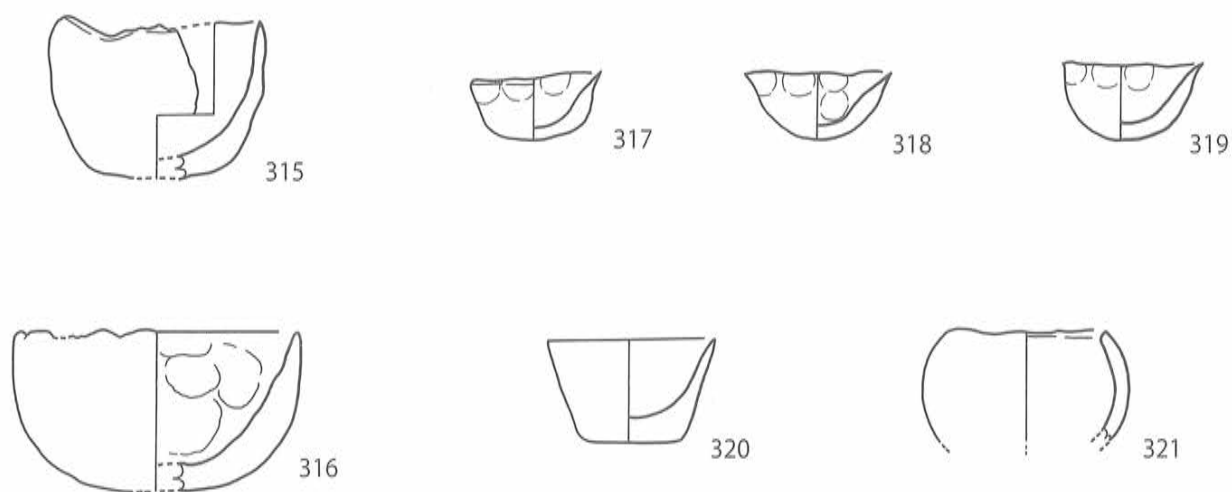
第45図 第5区 SB-01・SK-02・表採、第6区 表採
第7区 SD-02・SK-02・SX-02・Aトレンチ 出土土器 実測図 [S = 1/4]



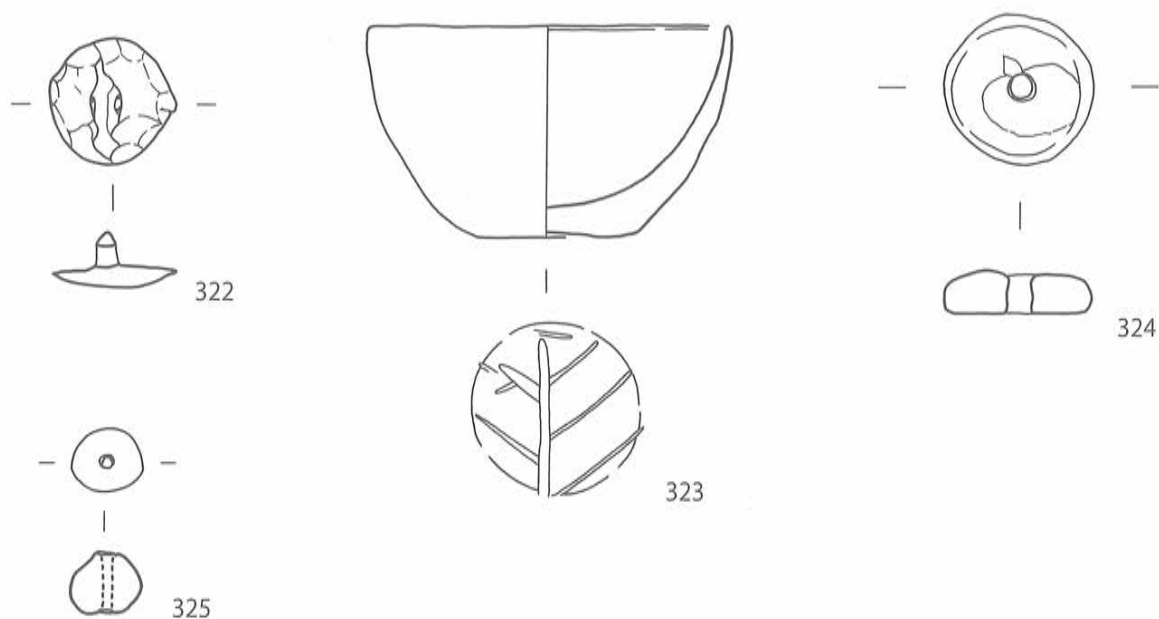
第46図 第8区 SD-03中層 出土土器 実測図 [S = 1/4]



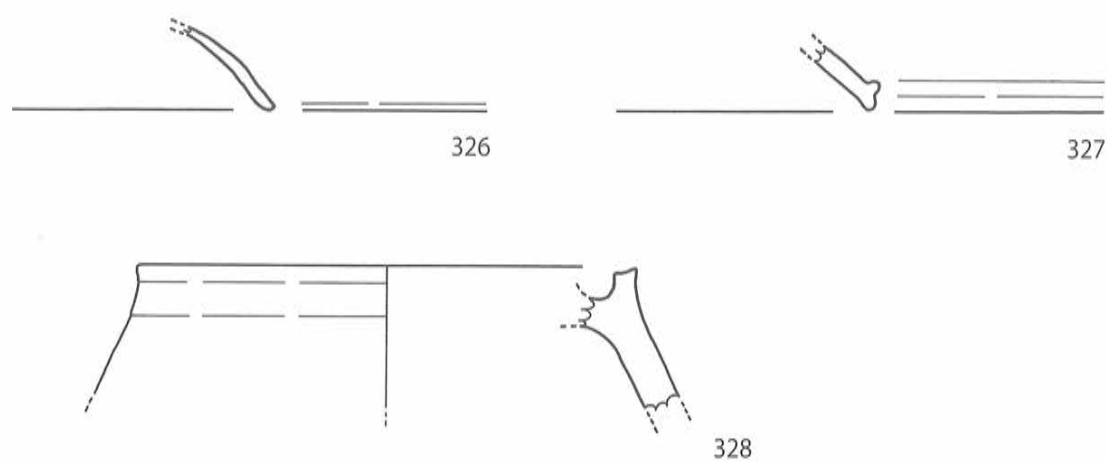
第47図 第8区 SD-03中層 出土土器 実測図 [S = 1/4]



第48図 第8区 SD-03 3層・中層 出土土器 実測図 [S = 1/2]



第49図 第8区 SD-03 3層、SP-02 出土土器 実測図 [S=1/2]



第50図 第8区 SD-03 上層 出土土器 実測図 [S=1/2]

〔平成 2 0 年度の調査〕

平成20年度調査

平成20年度は上妻小学校の東側、及び、南東側を中心とした地域、遺跡群で言えば津江遺跡群北東部、及び、祈祷院遺跡群北西部にまたがる地域を対象とし調査を行った。平成19年度と同様、排水路計画地のみの調査であるため調査面積は限られているが、総延長347.5m分の調査を行う事が出来た。

以下、今次調査に係る部分について言及し、全体像については後述する。

1) 早水町遺跡における遺構と出土遺物

早水町遺跡は上妻小学校の西側にあり、水路掘削部分と囲場部分に分かれる。水路部分については総延長約73m、幅5mをその調査対象区とした。実際の排水路掘削域は幅2～2.5m程であるが遺構密集度が比較的高い事が判明したため、事業者と協議を行った結果、排水路幅+2mの猶予を頂いた。

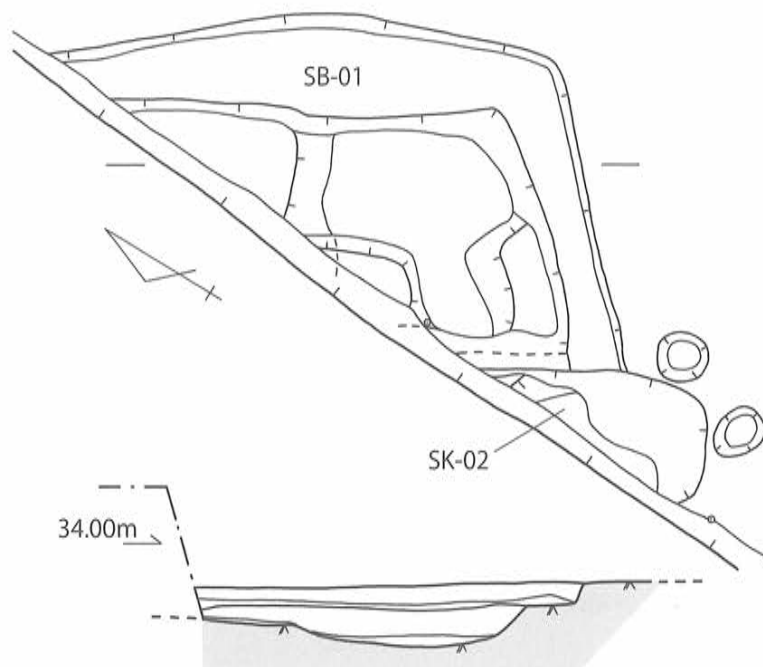
調査は便宜上A・B区の2区に大別し、A区においては南側、北側の2地点を設定して掘削を始めた。

検出した遺構は竪穴式住居(SB)4軒、溝(SD)5条、土壇(SK)2基、不明遺構(SX)5基、ほかピット多数を確認した。

早水町遺跡 A区

SB-01 〈第51・52図〉

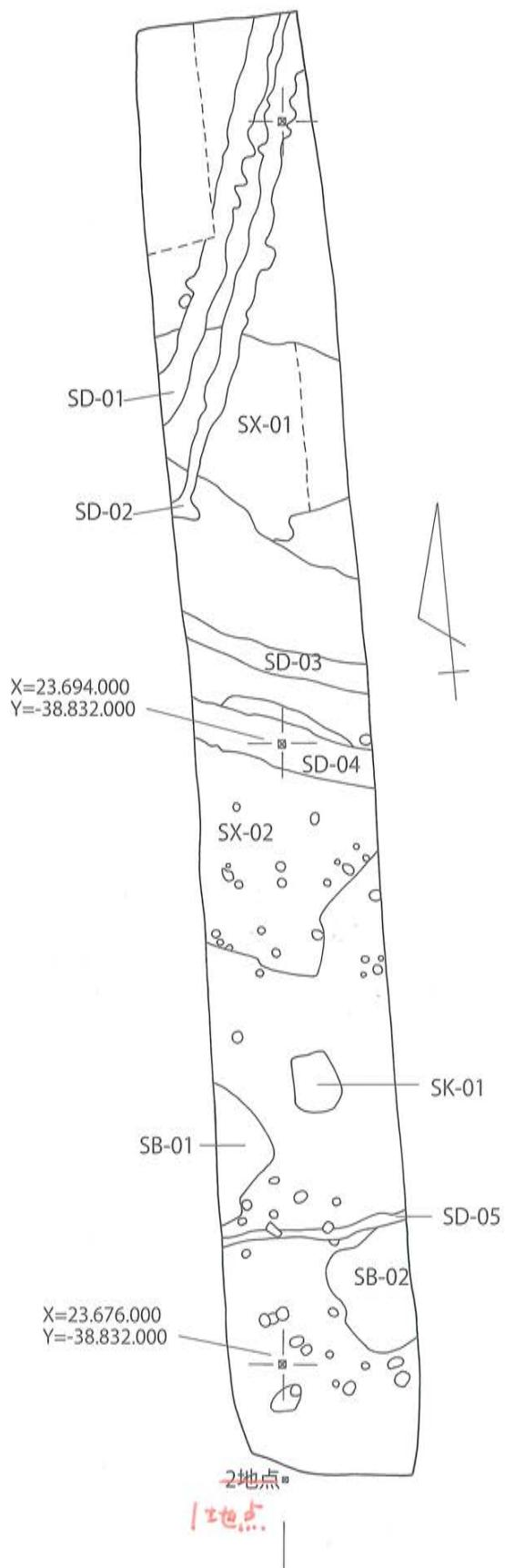
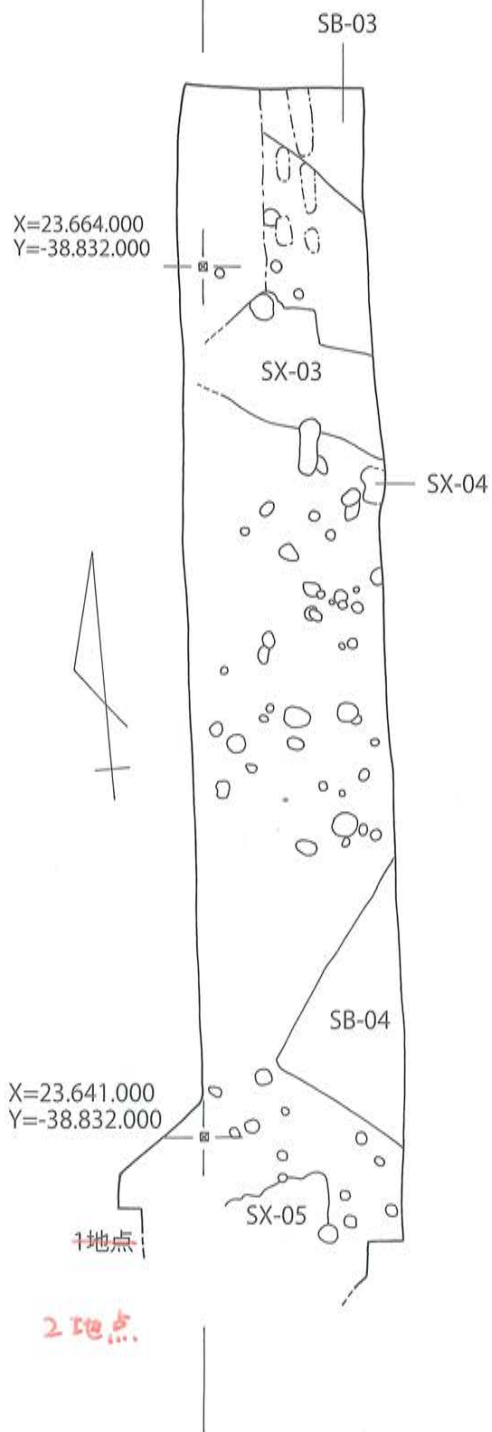
本住居はA区北側の南端付近において検出した竪穴式住居である。一部をSK-02によって切られている。遺構本体の一部分が調査区外に出ており詳細は不明であるが、長軸方位をN-32°-Wに取り、検出規模は長軸長3.04m、短軸長1.92m以上、深さ0.34mを測る。支柱穴等については確認出来なかった。壁面に沿うように幅20～30cmのベッド状遺構が見られるが、全周するかどうかは分からない。床面に大きな凸凹が見られるが、これは住居掘削時の荒掘跡と思われる。



第51図 早水町遺跡 A区 SB-01、SK-02実測図
〔1/40〕

SB-02 〈第52・53図〉

本住居はA区北側の南端付近において検出した竪穴式住居である。遺構本体の一部分が調査区外に出ており全体像は不明であるが、長軸方位をN-16°-Wに取り、検出規模は長軸長3.3m、短軸長2.76m以上、深さ0.1mを測る。住居中央北寄りに地床炉があり、これに接するように南北の位置に支柱穴が確



第52図 早水町遺跡 A区 1・2地点 遺構配置図 [S=1/200]

認出来た。住居南壁と南側主柱穴との間が1.2mほど空き、北壁のそれとは趣を大きく異ならせている。また、南壁に貼付くように深さ25cmのP-1がある事から、ここを階段状の施設を付加していた出入口と判断した。

SB-03

〈第54図・52図〉

本住居はA区南側の北端付近において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大部分が調査区外に出ており詳細は不明である。検出規模は2.7m×2.4m、深さ0.12mを測る。主柱穴等については確認出来なかった。南壁面に沿って1.0m×1.7mの土壌が見られるが、これが屋内土壌であるか否かは判然としない。埋土中には炭化米が多数散在しており、近隣に生産遺跡の存在が予測される。

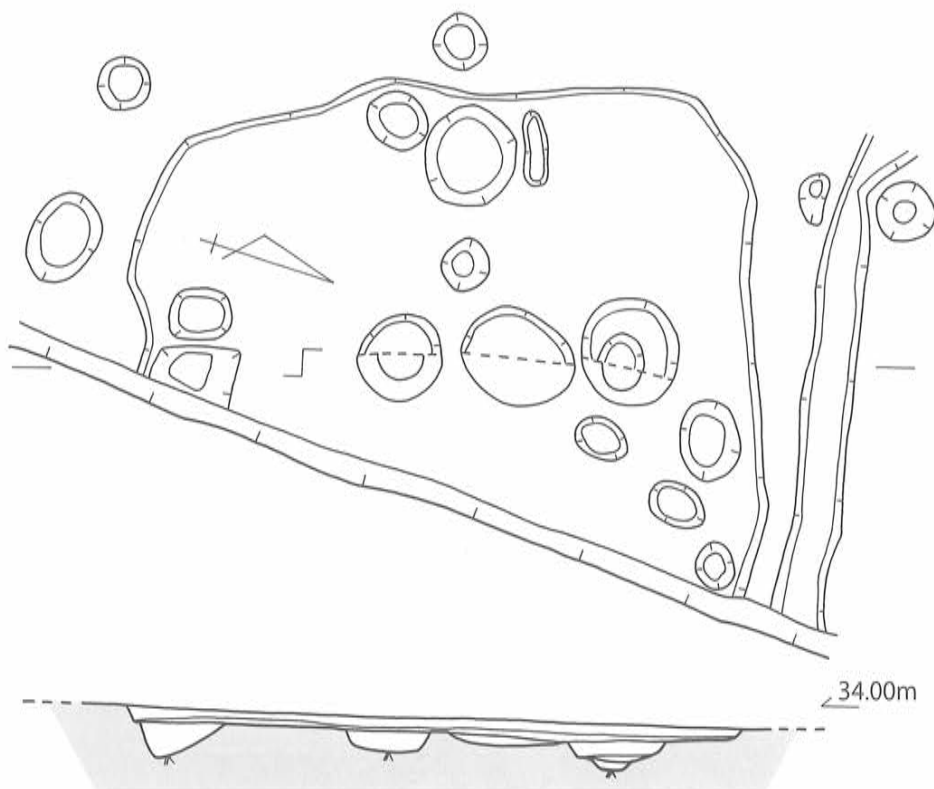
SB-04 〈第55・52図〉

本住居はA区南側の南端付近において検出した竪穴式住居である。遺構本体の一部分が調査区外に出ており全体像は不明であるが、長軸方位をN-37°-Eに取り、検出規模は長軸長6.36m以上、短軸長4.16m以上を測る。深さについては、基底面付近まで削平されており、検出面と同じレベルとなっている。主柱穴については明確に出来なかったが、P-1、P-2がその候補となると思われる。

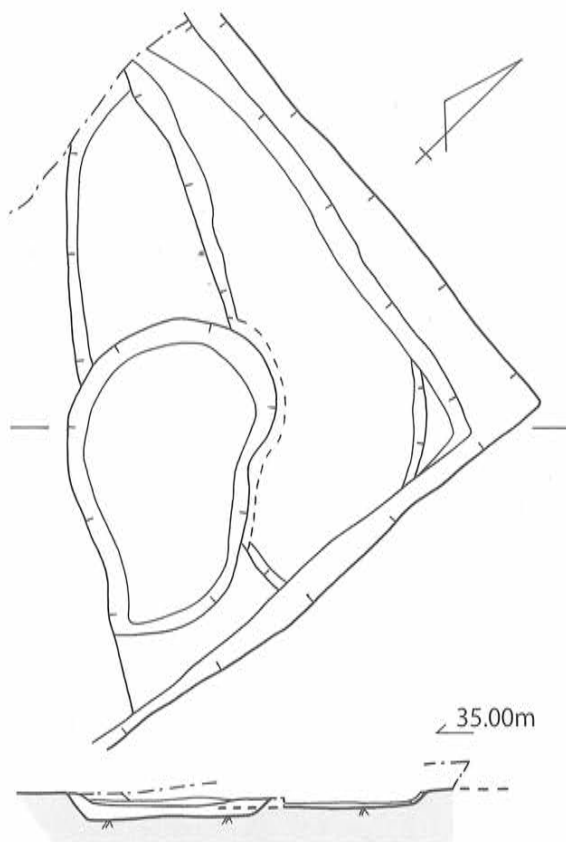
出土遺物として、丹塗土器細片等がある。

SX-02 〈第56・52図〉

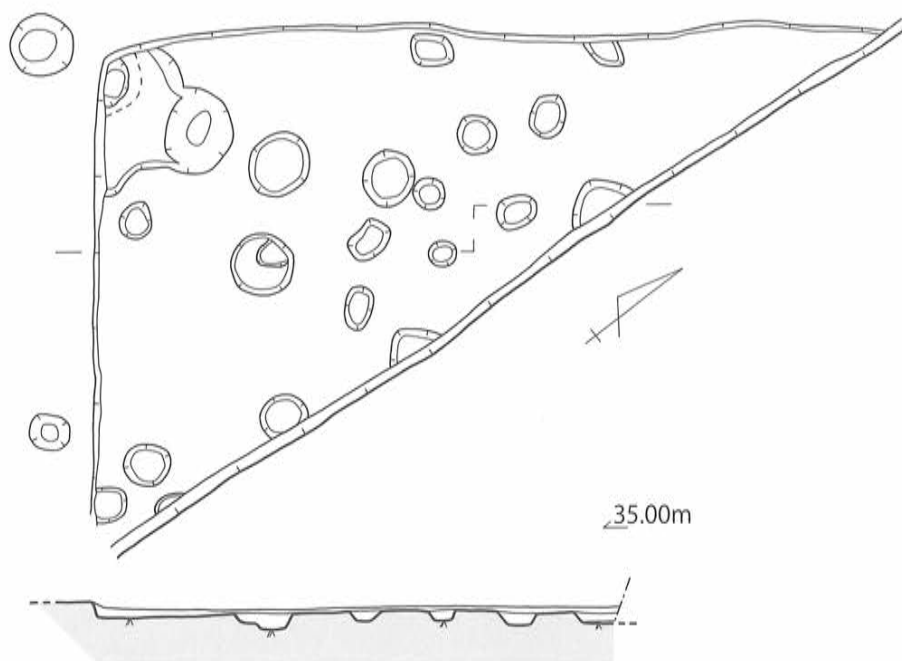
本遺構はA区北側の中央付近において検出したもので、不整形形状の遺構と判断し不明遺構(SX-02)とした。床面から焼土を伴う炭化物が多量に出土した事から再精査したところ、本来厚さ1cm程の板材が床面の一部に敷かれていた事が判明した。しかしながら、この板



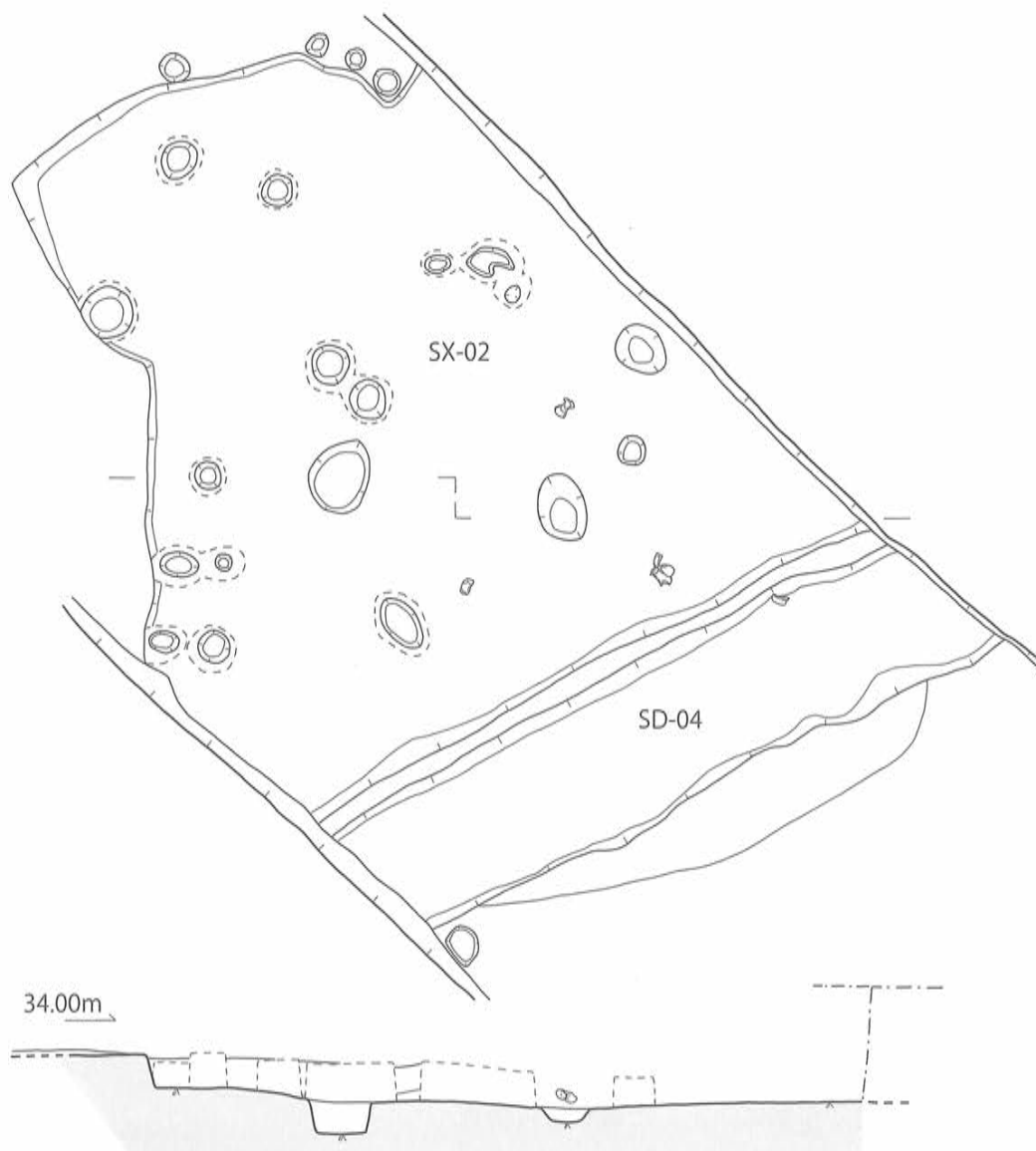
第53図 早水町遺跡 A区 SB-02 実測図 [S=1/40]



第54図 早水町遺跡 A区 SB-03 実測図 [S=1/40]



第55図 早水町遺跡 A区 SB-04 実測図 [S=1/60]



第56図 早水町遺跡 A区 SX-02 実測図 [S=1/60]

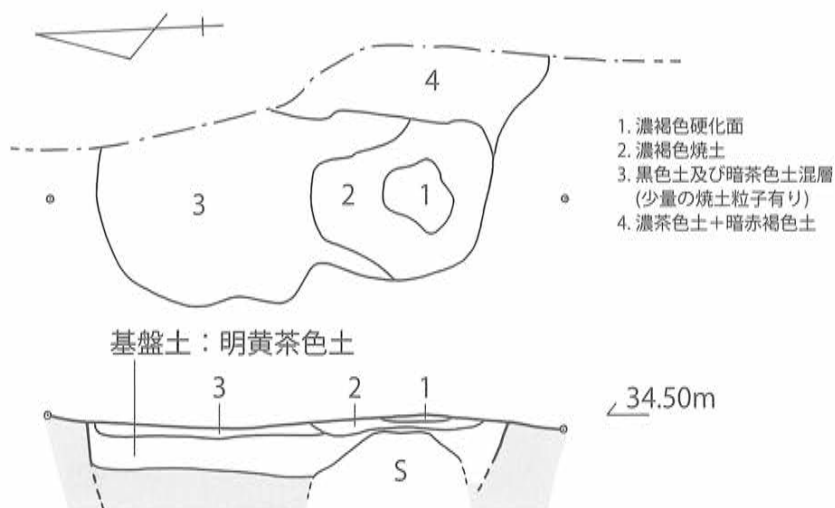
敷きの用途については判然とせず、残念ながら本遺構の本来の使用目的についても言及は出来ない。規模については遺構本体の一部分が調査区外に出ており全体像は不明であるが、検出規模は長軸長 7.44m、短軸長 6.26m 以上、深さ 0.44m を測る。柱穴等、建物を構成する主要素については確認出来なかったが、日常的に使用される土器類が比較的豊富に出土した。

出土遺物として、甕、高坏等の破片、完形の石鎌がある。

SX-04 〈第57図〉

A 区南側中央付近で検出した遺構。検出段階から濃褐色の硬化面が表出しており、周辺の削平は著しいものと思われた。精査してみると深さ 2～3cm 程度の切り合い関係を有するような 2 つの掘り方の存在が分かり、濃褐色硬化面はそれらの南西端に位置している事が判明した。規模（検出分のみ）は検出長 1.05m、幅 0.6m、深さ 5cm を測る。硬化面は 0.17m

×0.18m、厚みは 1cm 強であった。濃褐色に硬化しているところから相当な被熱があったものと思われるが、鉄滓や鍛造剥片等の鍛冶関係資料は出土していない事から、鍛冶以外の可能性を探らなければならない。時期については判然としないが、古墳時代後期頃の土器片もあり、6 世紀以後の所産であると考えたい。

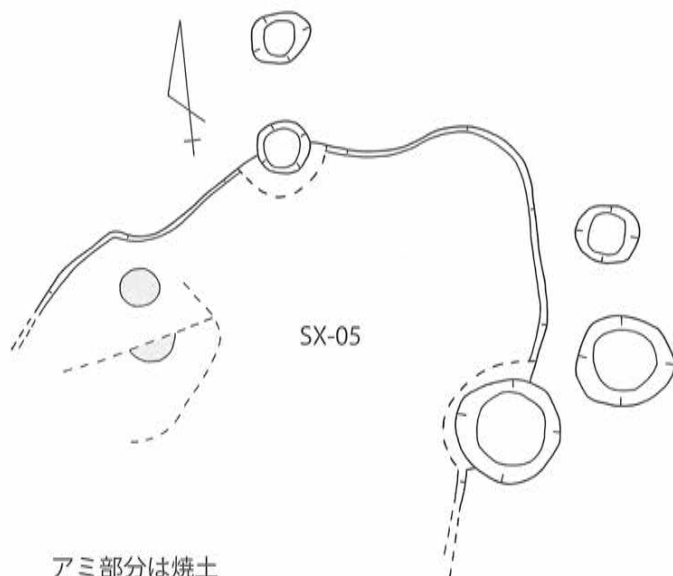


第57図 早水町遺跡 A区 SX-04 実測図 [S=1/20]

SX-05 〈第52・58図〉

本遺構は A 区南端において検出したもので、不整形形状の遺構と判断し不明遺構 (SX-05) とした。削平著しく、遺構検出面と遺構底面との差が数 cm しか遺存しておらず、詳細を掴むには至らなかった。しかしながら、遺構西端部において厚さが 2.5cm ある暗赤褐色焼土を検出し、その直近に黒茶色土+褐色焼土を確認した。共に直径 20cm 程の円形を成しており、人為的な活動により生成されたものと考えられる。ほぼ同じ位置からは土製模造鏡も出土しており、ここがミニチュア品を用いた祭祀場であった事が考えられる。規模については、遺構本体の半分以上が調査区外に出ており全体像は不明であるが、検出規模は 1.85m 以上 × 2.5m、深さ 3～5cm を測る。

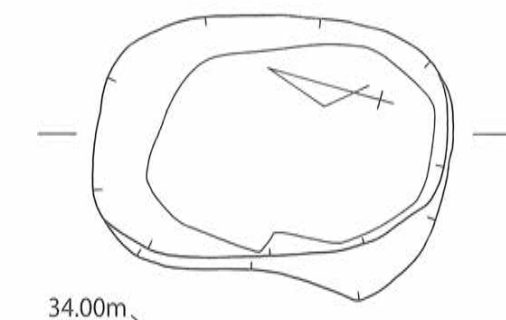
出土遺物として、ミニチュア土器がある。



第58図 早水町遺跡 A区 SX-05 実測図 [S=1/40]

SK-01 〈第59図〉

A区北側の南端付近において検出した、平面プランが隅丸長方形を呈する土壌である。長軸方位をN-16°-Wに取る。規模は長軸長1.9m、短軸長1.35m、深さ0.7mを測る。平面形や深さ、SB-01やSB-02との位置関係から、いずれかの住居に伴う貯蔵穴と思われる。



SK-02 〈第60図〉

A区北側の南端付近において検出した、平面プランが長方形を呈すると思われる土壌である。遺構本体の半分近くが調査区外に出ており全体像は不明であるが、長軸方位をN-32°-Wに取り、規模は長軸長1.22m以上、短軸長0.7m以上、深さ0.35mを測る。

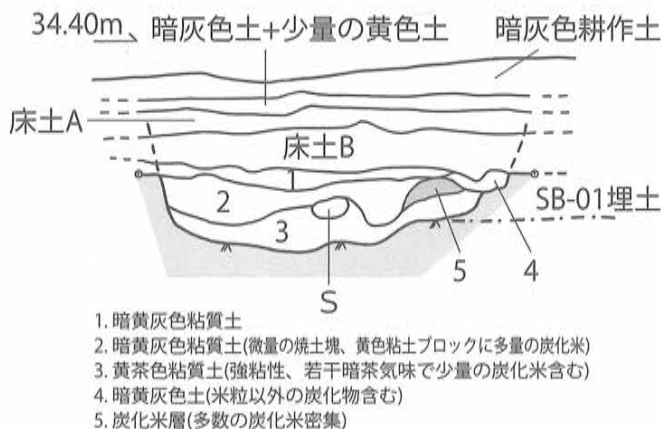
埋土中に多量の炭化米、及び、藁状の炭化物が含まれており、収穫後のノギや籾殻を燃した施設であった可能性がある。

第59図 早水町遺跡 A区

SK-01 実測図 [S=1/40]

SD-01 〈第52図〉

A区北側北端付近で検出した溝で、南南西～北北東方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は検出長12.2m、幅0.8m、深さは検出面から平均5cmを測る。溝底面のフラット面が検出面直下かに見られる程削平されており、詳細な状況をつかむ事は不可能であった。出土遺物なし。



※SB-01埋土は薄黒茶色粘質土

SD-02 〈第52図〉

A区北側北端付近で検出した溝で、SD-01と平行する形で存在している。同時存在であるか否かについては不明。南南西～北北東方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は検出長15.0m、幅0.6m、深さは検出面から平均5cmを測る。SD-01同様、検出面直下かには溝底面が見られる程削平されており、詳細な状況をつかむ事は出来なかった。出土遺物なし。

第60図 早水町遺跡 A区 SK-02

西側土層断面図 [S=1/40]

SD-03 〈第52図〉

A区北側中央付近で検出した溝で、SD-04と平行する形で存在している。東～西方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は検出長5.2m、幅0.7m、深さ0.13mを測る。古墳時代後期頃に掘削されたものと思われる。

出土遺物。

SD-04 〈第52図〉

A区北側中央付近で検出した溝で、SD-03と平行する形で存在している。東～西方向の流路を持つ。

のと思われる。規模（検出分のみ）は検出長 5.6m、幅 0.7m、深さ 0.12m を測る。古墳時代後期頃の土器片もあり、SD - 0 3 と同時存在していた可能性もある。

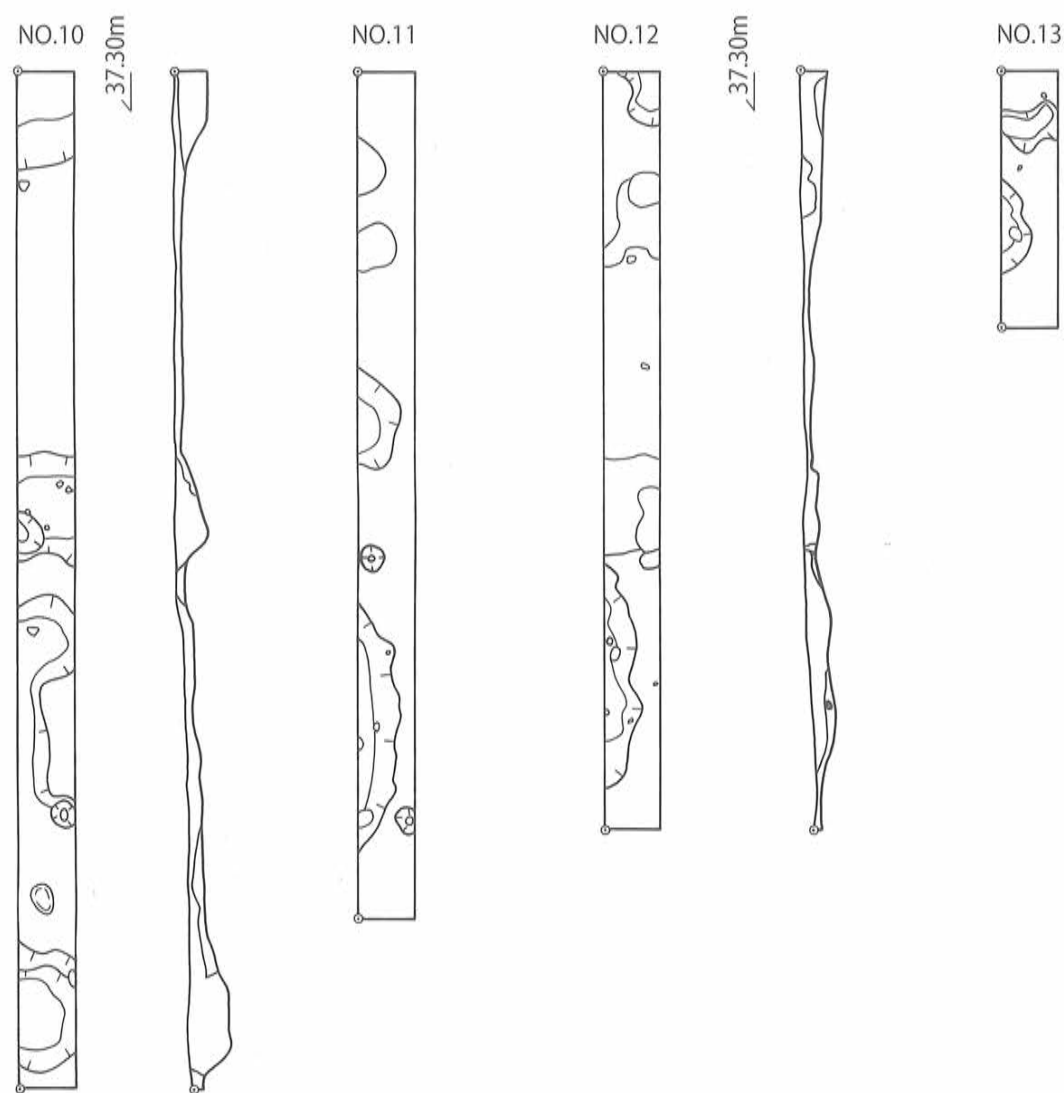
SD - 0 5 〈第 5 2 図〉

A 区北側南端付近で検出した溝で、東～西方向の流路を持つものと思われる。規模（検出分のみ）は検出長 5.2m、幅 0.36m、深さ 0.1m を測る。須恵器破片が出土しており、6 世紀後半～7 世紀初頭頃には機能していたものと思われる。

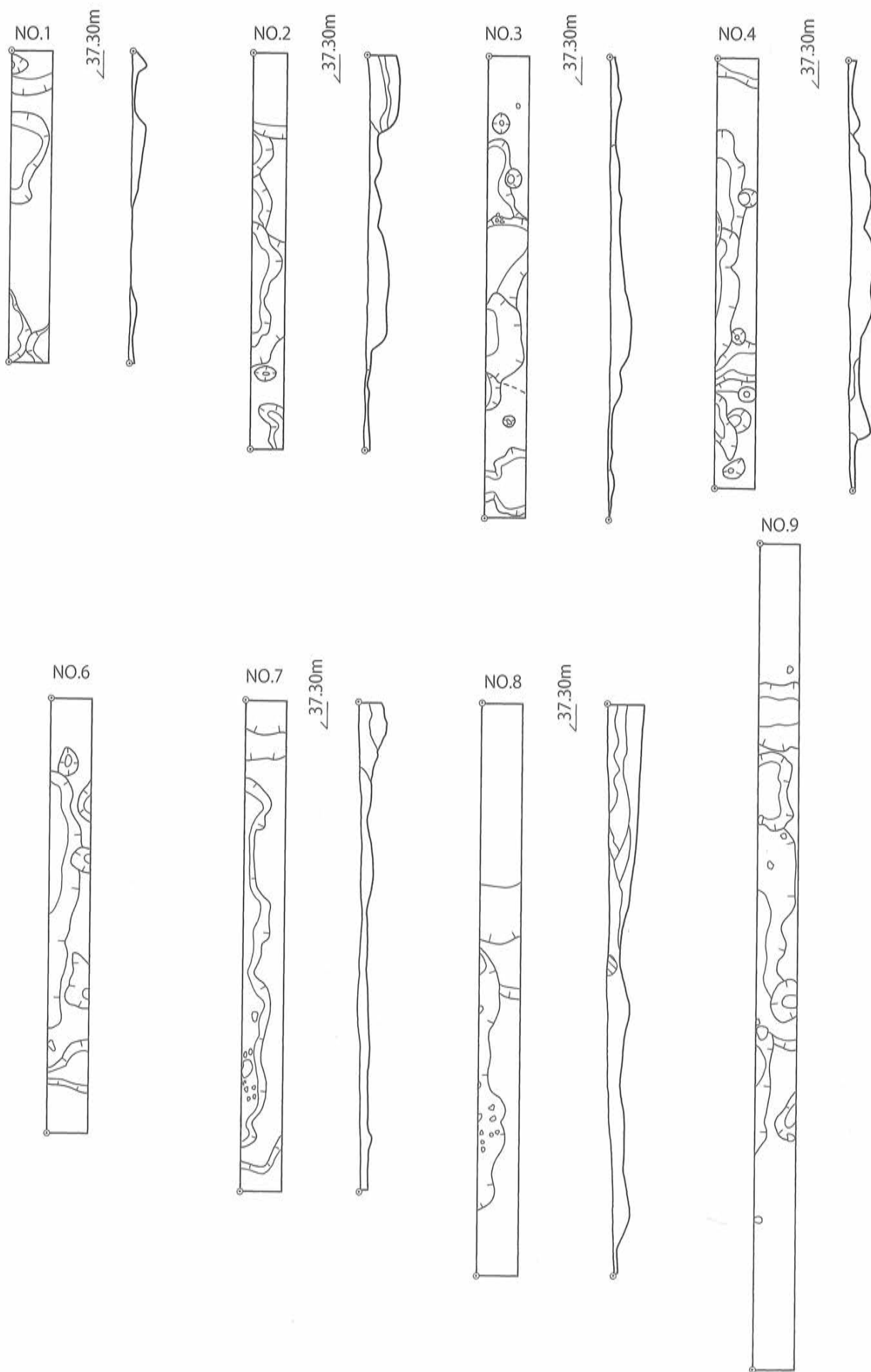
早水町遺跡 B 区

早水町遺跡 B 区は上妻小学校の東側 1 8 0 m の位置にあり、調査面積は 1,500 m² である。

検出した遺構は道路状遺構（SX）1 基、ほかピット多数を確認した。



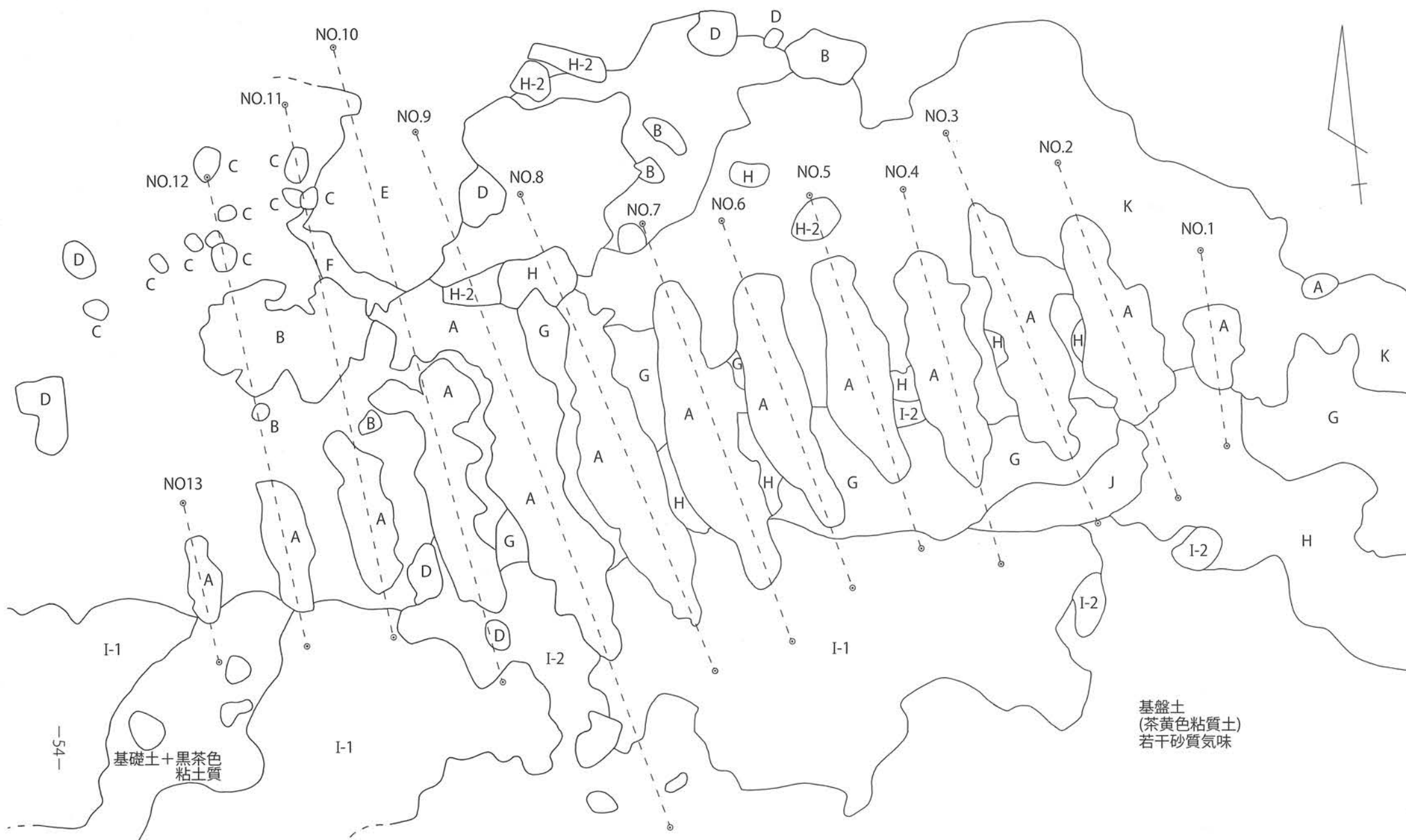
第 6 1 図 早水町遺跡 B 区 SX - 0 1 各トレンチ実測図 [S = 1 / 4 0]



第62図 早水町遺跡 B区 SX-01 各トレンチ実測図 [S=1/40]



- A 暗灰色細砂
- B 暗灰色粘質土
- C 暗茶灰色粘質土
- D 黒灰色粘質土+黄茶色土
- E 暗茶色砂質土+淡黒灰色粘質土
- F 暗茶色砂質土+少量の暗灰色土
- G 黒茶灰色粘質土+茶黄色粘土ブロック(大)
- H G層+白色細砂
- H-2 H層より淡色気味
- I-1 暗灰色土+茶黄色粘土ブロック(小)
- I-2 I-1より若干黄色粘土ブロックが少ない
- J 暗茶灰色粘質土(若干茶黄色粘土ブロック混)
- K 黒茶灰色粘質土+茶黄色粘質土ブロック(小)(灰色細砂がブロック状に混)



SX-01 〈第63・64図〉

B区西端付近において検出した道路状遺構と考えられる遺構である。基盤土である茶黄色粘質土の上に暗灰色系や黒灰色系の粘質土が乗り、それらを切り込む形で大小様々な浪板状の遺構が東西9m、南北3.4mの範囲に13列が並ぶ。列中、中央部分の規模が最大となり、端部に向かうに従い規模を縮小していく。

波板状遺構の各列いずれもあまり深くは掘削されておらず、深くても20cm未満となっている。また、いずれもフラット底になるものはなく、小規模に掘削した後に粘質土を充填している。最上層には一律に暗灰色細砂が充填されており、上部平坦面の平滑化を目的とした施工と思われる。

出土遺物については、ほぼ皆無であり時期比定については甚だ困難である。しかしながら、小破片ではあったが土師器破片が調査中に出土しており、奈良・平安期の所産ではないかと思われる。

2) 栗ノ内遺跡における遺構と出土遺物

栗ノ内遺跡は上妻小学校の南西200mの位置にある。調査は便宜上A・B区の2区に大別した。

A区においては西側を1地点、東側を2地点とし、総延長約57.5m、幅3.5mをその調査対象区として掘削を始めた。実際の排水路掘削域は幅2～2.5m程であるが遺構密集度が非常に高い事が判明したため、事業者と協議を行った結果、排水路幅+1mの猶予を頂いた。

B区においては試掘の折、明確な遺構が検出出来なかったためトレンチ状の掘削坑を東西方向に4坑開け、出土遺物採集中心の調査を行った。

検出した遺構は竪穴式住居(SB)15軒、溝(SD)1条、土塋(SK)13基、不明遺構(SX)1基、ほかピット多数を確認した。

栗ノ内遺跡 A区1地点

SB-01 〈第65・66図〉

本住居はA区1地点の東端において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大部分が調査区外に出ており詳細は不明であるが、検出規模は長辺3.1m以上、短辺1.4m以上、深さ0.13mを測る。主柱穴等については確認出来なかった。

出土遺物として、甕の破片がある。

SB-02 〈第65・67図〉

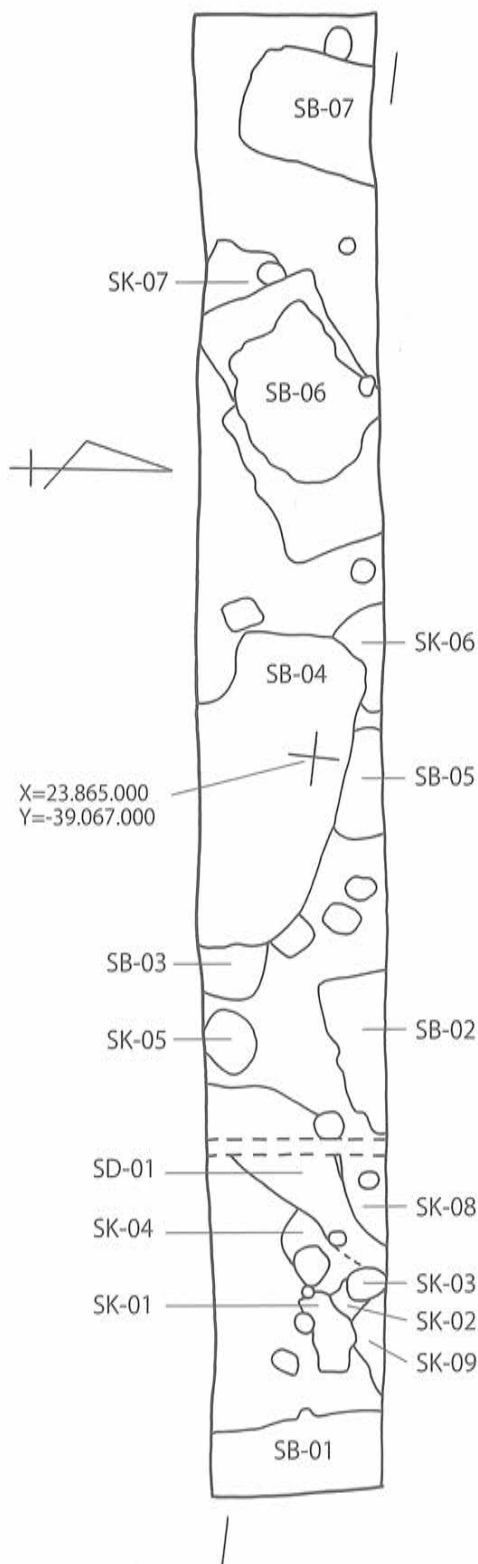
本住居はA区1地点中央付近の北端において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大部分が調査区外に出ており詳細は不明である。検出規模は長辺3.1m、短辺1.2m、深さ0.1mを測る。主柱穴等については確認出来なかった。遺構検出面より上位から多数の土器類が出土したが、これらは包含層に伴うものであった。

出土遺物として、甕の破片がある。

SB-03 〈第65・68図〉

本住居はA区1地点中央付近の南端において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大部分が調査区外に出ており、また、SB-04に切られているため全体像は不明であるが、検出規模は1.0m×1.1m、深さ約0.3mを測る。主柱穴については明確に出来なかった。

出土遺物として、甕・壺の破片がある。

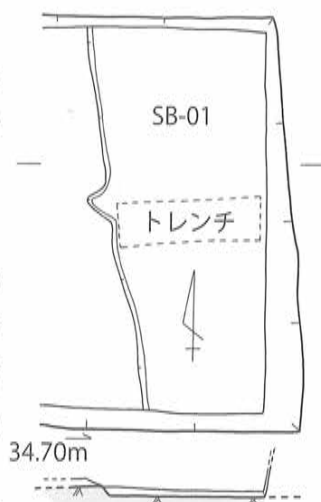


第65図 栗ノ内遺跡A区1地点 遺構配置図 (S=1/150)

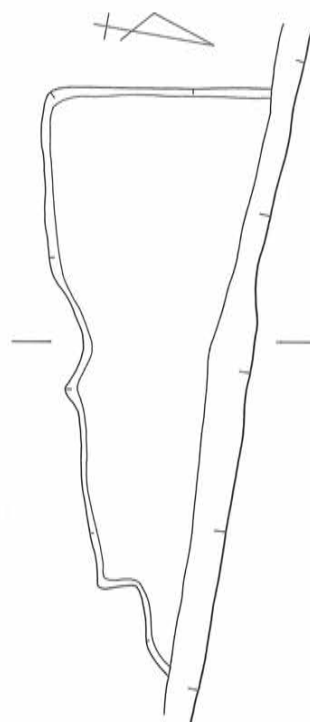
SB-04 〈第65・68図〉

本住居はA区1地点中央において検出した竪穴式住居である。東西方向に非常に長い長方形プランを呈しており、SB-03やSB-05等の遺構を切っている。長軸方位をN-72°-Wに取り、検出規模は長軸長6.44m、短軸長3.06m以上、深さ0.1mを測る。主柱穴等については確認出来なかったが、住居北辺には屋内土壌と思われる1.1m×0.5mの三角形のピット(P-1)が確認出来た。

出土遺物として、甕・高杯の破片、土製紡錘車がある。



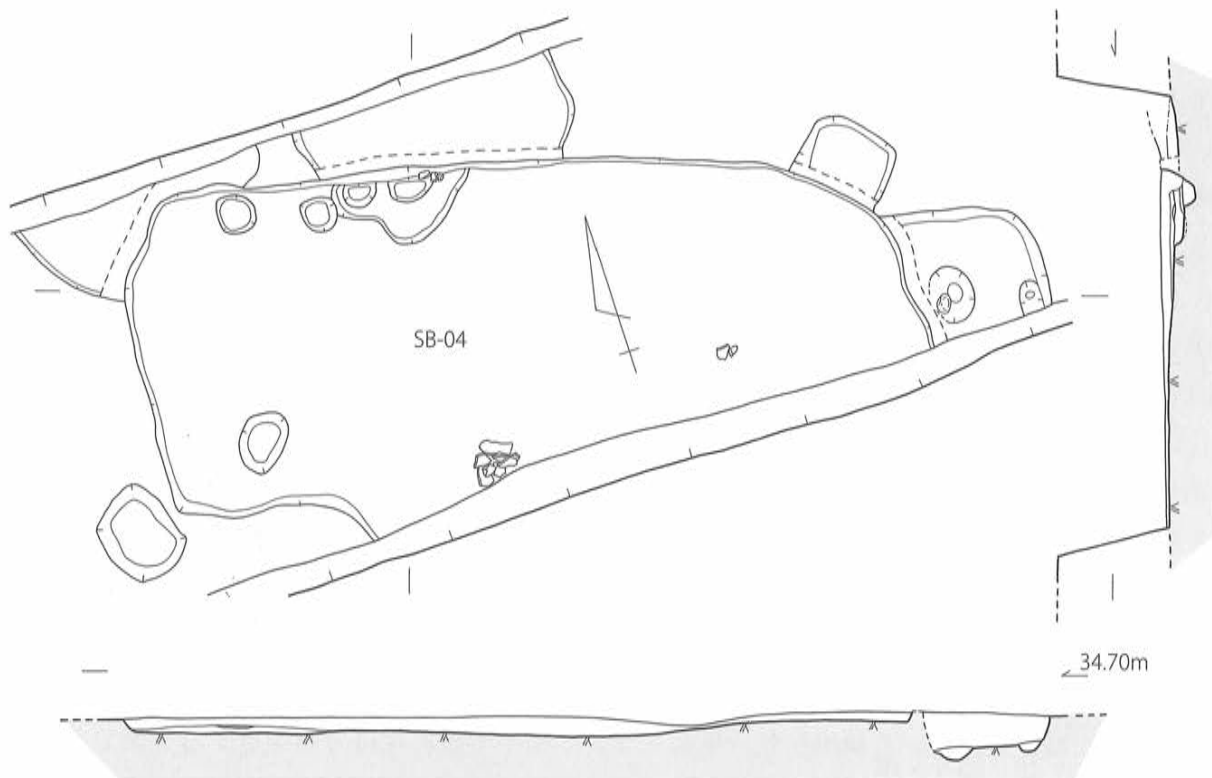
第66図 SB-01
実測図 [S=1/60]



第67図 SB-02
実測図 [S=1/40]

SB-05 〈第65・68図〉

本住居はA区1地点中央付北端において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大部分が調査区外に出ており、また、SB-04に切られているため全体像は不明であるが、検出規模は2.1m×0.7m、深さ約0.2mを測る。主柱穴等については明確に出来なかった。

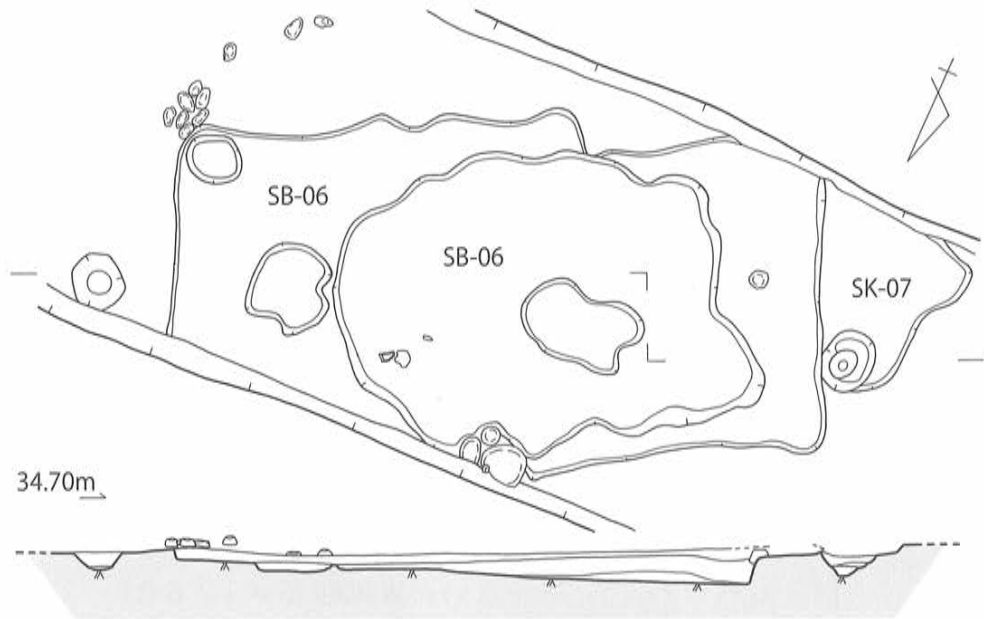


第68図 SB-03・04・05 実測図 [S=1/60]

SB-06

〈第65・69図〉

本住居はA区1地点西側において検出した竪穴式住居である。東西方向に非常に長い長方形プランを呈しており、南辺の一部はL字状にくびれている。SK-07を切っている。長軸方位をN-66°-Eに取り、検出規模は長軸長5.16m、短軸長2.94m以上、深さ0.3mを測る。明確な主



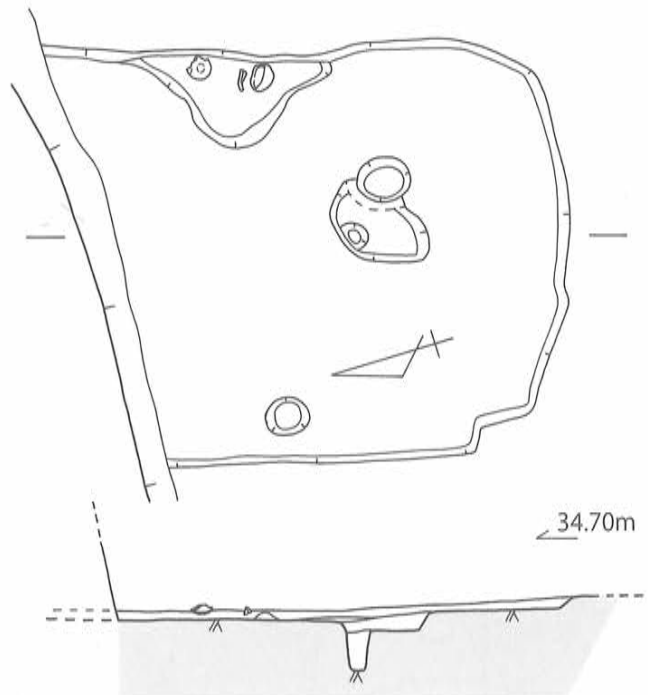
第69図 SB-06 実測図 [S=1/60]

柱穴については確認出来なかったが、掘り方外にあるSP-06・10がその候補に挙げられる。北辺中央部分には大型の扁平円礫を伴う部分があり、土壌状の掘り方は検出出来なかったが、この部分がいわゆる屋内土壌に該当するものと思われる。石材のみで屋内土壌の要件を構成する希有な例である。また、住居南東隅外側には7個から構成される集石群が、内側には直径40cm、深さ5cmのピットが検出された。発生要素を明確にする術を持たないが、人為的な所産によるものと思われる。

出土遺物として、甕・壺・高坏の破片、小型丸底壺がある。

SB-07 〈第65・70図〉

本住居はA区1地点西端において検出した竪穴式住居である。南北方向に長い長方形プランを呈している。長軸方位をN-17°-Eに取り、検出規模は長軸長2.84m、短軸長2.26m以上、深さ0.12mを測る。主柱穴等については南側の1穴が確認出来たが、北側の柱穴については調査区外に出ており確認出来なかった。住居東辺には屋内土壌と思われる1.1m×0.5mの三角形のピット(P-1)が確認出来た。これは規模・形状ともSB-04とまったく同一であり、筑後地方に伝統的な屋内土壌とは一線を画するものである。



出土遺物として、壺等の破片がある。

SK-01 〈第71図〉

第70図 SB-07 実測図 [S=1/40]

A区1地点西端付近において検出した、平面プランがやや不整形な長方形を呈する土壌である。SK-02を切っている。長軸方位をN-89°-Eに取る。規模は長軸長1.6m、短軸長0.86m、深さ0.38m

を測る。壁が垂直状に落ちている事から土壇墓の可能性もあるが、判然とはしない。

出土遺物として、甕や壺等の破片がある。

SK-02 〈第72図〉

A区1地点西端付近において検出した土壇である。遺構本体の大半が他遺構に切られており全体像は不明である。規模は長辺0.6m以上、短辺0.6m以上、深さ0.15mを測る。

SK-03 〈第72図〉

A区1地点西端付近において検出した、平面プランが隅丸方形を呈する土壇である。SK-02を切っている。規模は長辺0.64m、短辺0.54m以上、深さ0.47mを測る。

SK-04 〈第65図〉

A区1地点西端付近において検出した、平面プランが隅丸方形を呈する土壇である。規模は長辺0.64m、短辺0.54m以上、深さ0.47mを測る。

出土遺物として、甕の破片がある。

SK-05 〈第73図〉

A区1地点中央付近南端において検出した、平面プランがややいびつな隅丸方形を呈する土壇である。長軸方位をN-75°-Eに取る。規模は長軸長1.26m、短軸長0.9m、深さ0.5mを測る。土壇の最下部に柱圧痕状の窪みが認められる事から、掘立柱建物の柱穴である可能性もあるが、これに続く柱穴跡は確認出来ていない。

SK-06 〈第65図〉

A区1地点中央付近において検出した土壇である。遺構本体の大半が調査区外に出ており全体像は不明である。規模は長辺4.2m、短辺2.0m以上、深さ0.1mを測る。

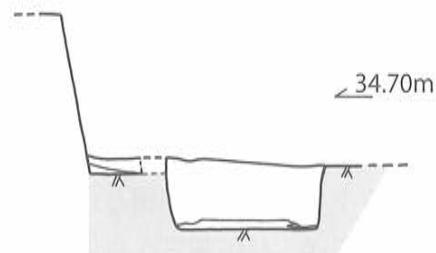
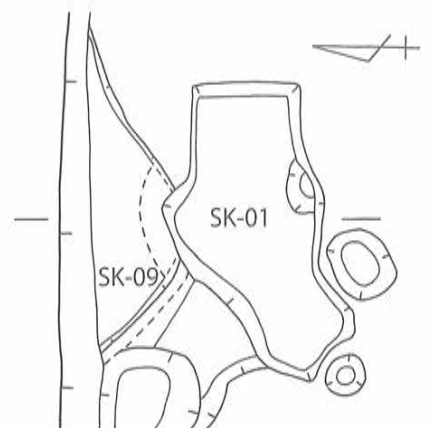
SK-07 〈第65図〉

A区1地点西端付近において検出した土壇である。SB-06に切られている。規模は長辺1.6m、短辺1.45m、深さ0.1mを測る。

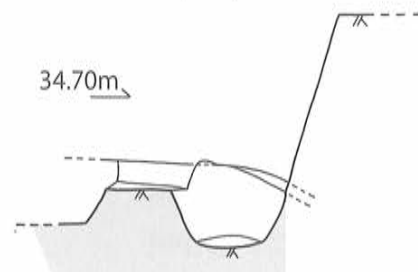
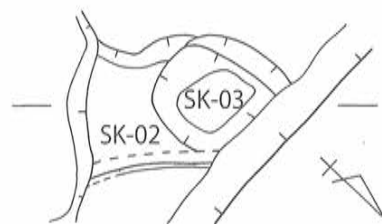
出土遺物として、底部突孔された壺または鉢の破片がある。

SK-09 〈第71図〉

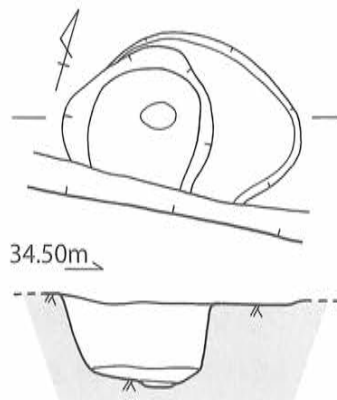
A区1地点東端付近において検出した土壇である。SK-01に切



第71図 SK-01・09
実測図〔S=1/40〕



第72図 SK-02・03
実測図〔S=1/40〕



第73図 SK-05 実測図
〔S=1/40〕

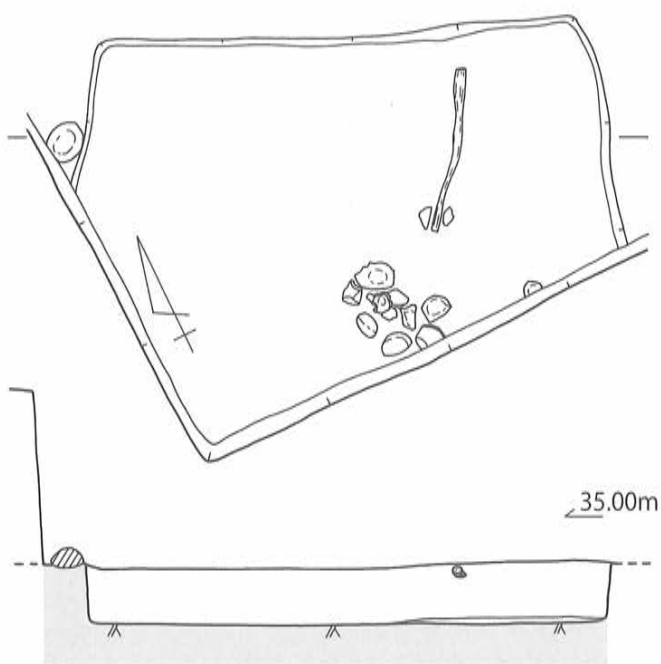
られ、遺構本体の大半が調査区外に出ており全体像は不明である。規模は長辺 1.74m、短辺 0.46m 以上、深さ 0.1m を測る。

栗ノ内遺跡 A 区 2 地点

SB-08 〈第74・84図〉

本住居は A 区 2 地点の西端において検出した竪穴式住居である。遺構本体の約半分が調査区外に出ており詳細は不明であるが、検出規模は長辺 2.94m 以上、短辺 2.14m、深さ 0.35m を測る。検出面直下から 10 数個の小円礫と長さ 87cm の炭化材が出土したが、住居床面からは 25cm 程度浮いている状況でもあり、直接住居に伴うものではないと判断した。支柱穴等については確認出来なかった。

出土遺物として、甕・高坏・器台の破片がある。

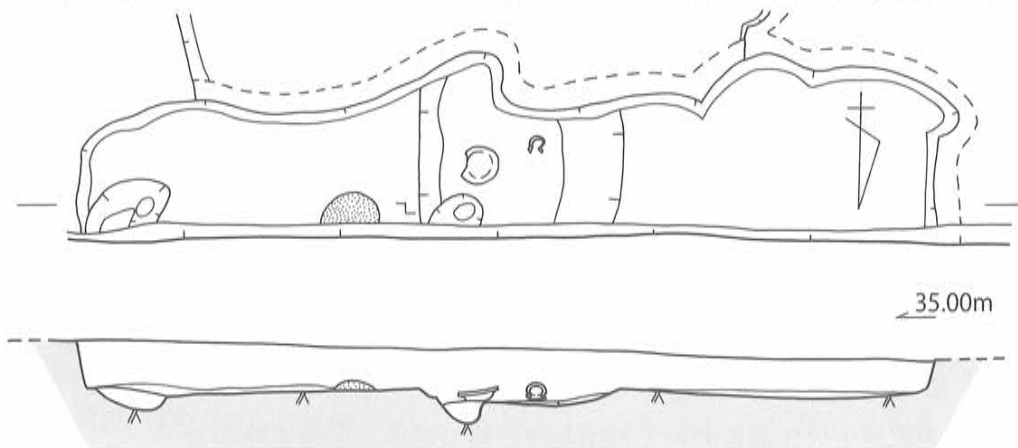


第74図 SB-08 実測図 [S=1/40]

SB-09 〈第75・84図〉

本住居は A 区 2 地点西側の北端において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大部分が調査区外に出ており詳細は不明である。検出規模は長辺 4.68m、短辺 1.0m、深さ 0.35m を測る。住居中央部分に溝状の窪みがあり、出土遺物の多くはこの窪みからのものである。また、窪みの東側には直径 40cm 程の粘土塊が検出されているが用途については不明。支柱穴等については確認出来なかった。

出土遺物として、小型丸底壺・鉢・高坏の破片がある。



第75図 SB-09 実測図 [S=1/40]

SB-10 〈第76・84図〉

本住居は A 区 2 地点西側において検出した竪穴式住居である。遺構本体の半分以上が調査区外、または、他遺構に切られており詳細は不明である。検出規模は長辺 3.12m、短辺 3.02m、深さ 0.2m を測る。支柱穴等について全く確認出来なかったことから、住居機能として若干の疑問が残る。

SB-11 〈第77・84図〉

本住居は A 区 2 地点の西側において検出した竪穴式住居である。遺構本体の約半分程度の部分が SB-

09に切られており詳細は不明であるが、長軸方位をN-19°-Wに取り、検出規模は長軸長2.4m以上、短軸長2.98m、深さ0.25mを測る。SB-10と同様、支柱穴等については全く確認出来なかった。

出土遺物として、鉢がある。

SB-13 〈第78・84図〉

本住居はA区2地点中央北端において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大半が調査区外にあり、詳細は不明である。検出規模は長辺1.5m、短辺0.96m、深さ0.25mを測る。

SB-14 〈第79・84図〉

本住居はA区2地点中央南端において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大半が調査区外にあり、詳細は不明である。検出規模は長辺0.9m、短辺0.8m、深さ0.25mを測る。

SB-15 〈第80・84図〉

本住居はA区2地点中央南端において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大半が調査区外にあり、詳細は不明である。支柱穴は確認出来なかった。検出規模は、長辺2.68m、短辺0.82m、深さ0.1mを測る。

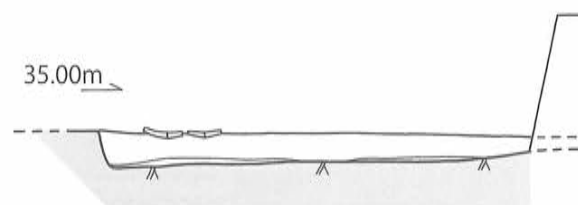
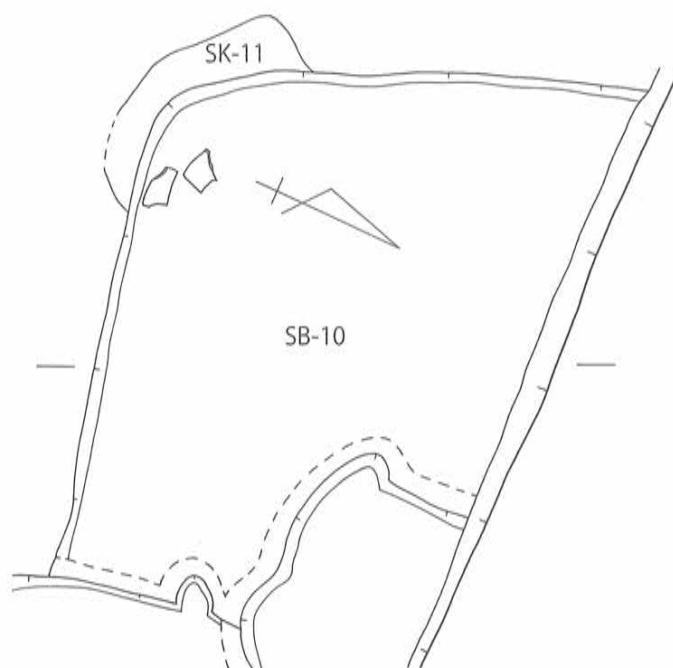
SK-10 〈第81図〉

A区2地点西端付近において検出した土塋である。遺構本体の半分程が調査区外に出ており、詳細は不明である。主軸は東西方向にあるものと思われる。検出規模は長軸長2.38m以上、短軸長0.76m以上、深さ0.3mを測る。

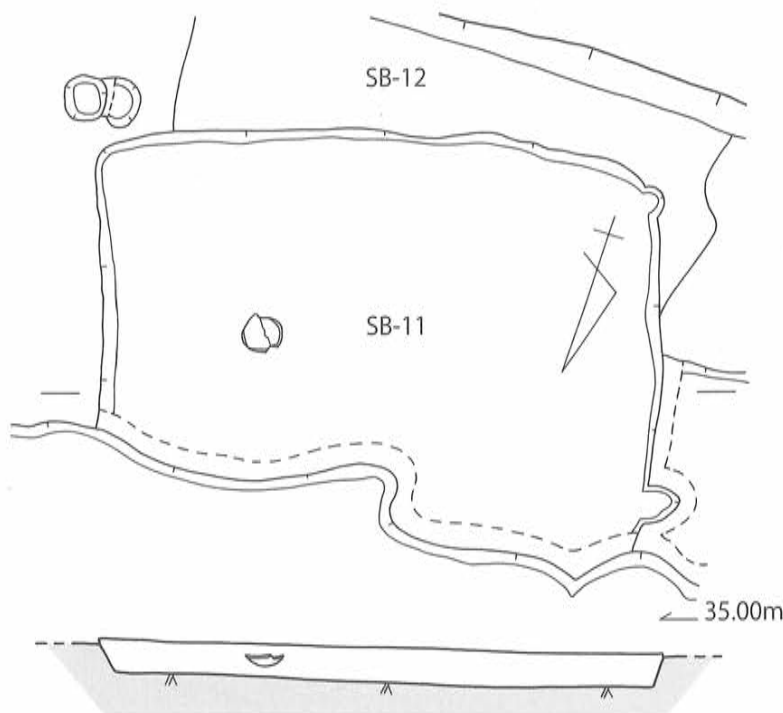
SK-13 〈第82図〉

A区2地点中央北端において検出した、平面プランが隅丸方形を呈する土塋である。SP-12に切られている。長軸方位をN-72°-Wに取り、検出規模は長軸長1.06m、短軸長0.86m、深さ0.15mを測る。

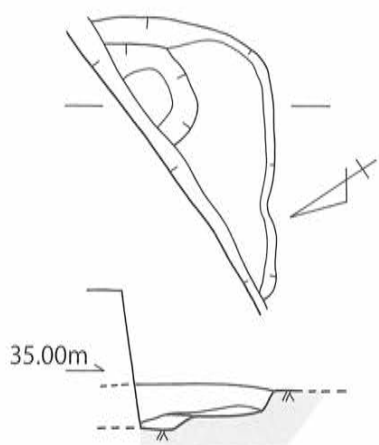
出土遺物として、甕・壺の破片がある。



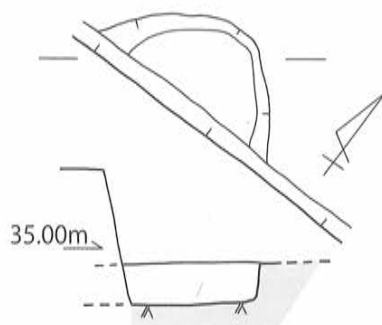
第76図 SB-10 実測図 [S=1/40]



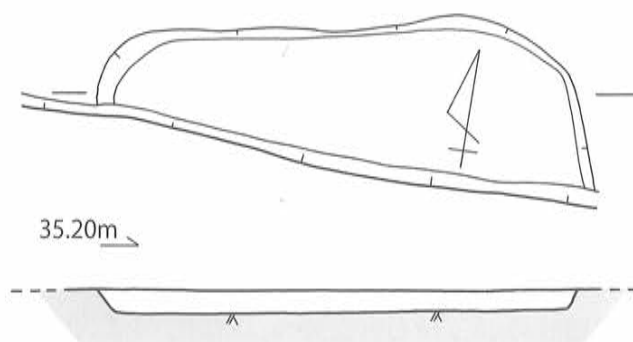
第77図 SB-11 実測図 [S=1/40]



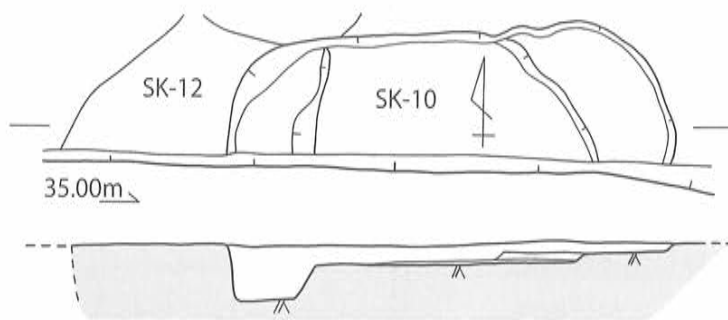
第78図 SB-13 実測図 [S=1/40]



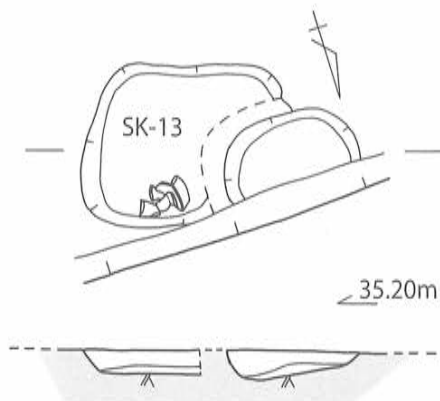
第79図 SB-14 実測図 [S=1/40]



第80図 SB-15 実測図 [S=1/40]



第81図 SK-10 実測図 [S=1/40]



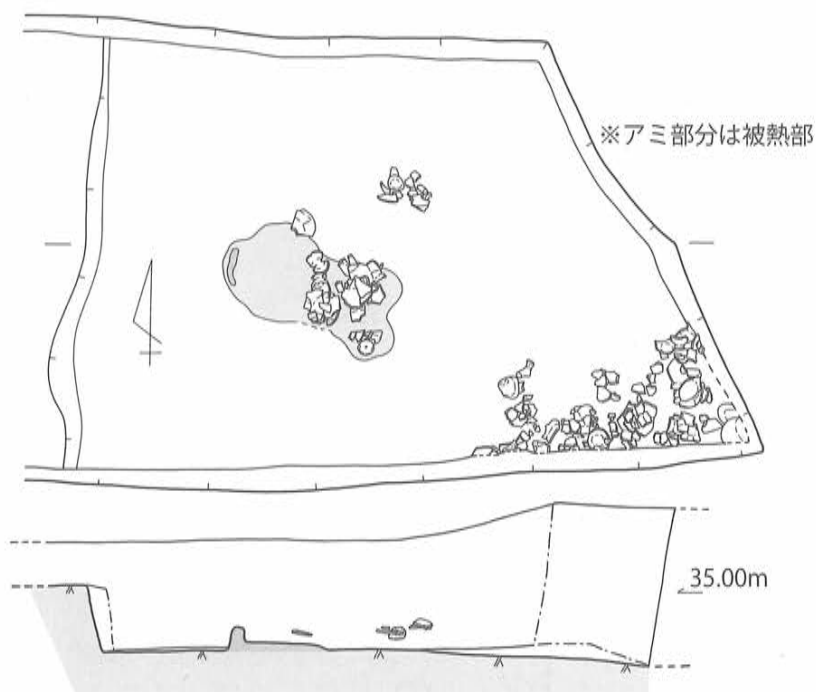
第82図 SK-13 実測図 [S=1/40]

SX-01 〈第83・84図〉

A区2地点東端において検出したもので、不整形形状の遺構であったため不明遺構とした。遺構はかなり広範囲に広がっているものと思われ、本調査において掘削調査が行えた部分のごく僅かであったため、詳細を掴むには至らなかった。しかしながら、検出した遺構の中央部分において幅80cm、長さ150cm、厚さが5cmある暗赤褐色焼土を検出した。また、その西端部には長さ30cm、高さ18cmの炉壁状の高まり（以下、「炉壁状遺構」とする。）が遺存していた。この炉壁状遺構の平面形はやや緩やかに湾曲しており、この湾曲に沿って焼土の西側部分は円形状に広がっている。円形部分の直径は概ね80cm程になるものと思われる。この焼土の東側には多種多様な土器類がおびただしいほど遺構床面に多数密集して出土しており、状況的な判断として本遺構は古墳時代初頭期の土器焼成遺構と結論付けを行った。

検出規模は、長辺5.62m以上、短辺3.46m以上、深さ0.65mを測る。

出土遺物として、甕・壺・鉢、等がある。



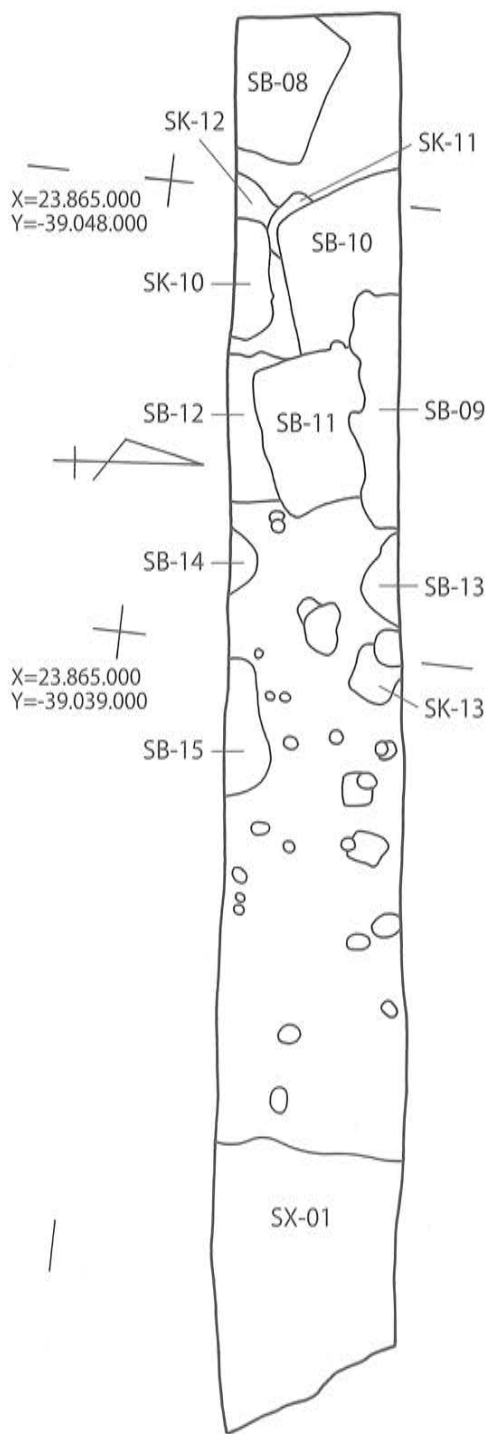
第83図 SX-01 実測図〔S=1/60〕

栗ノ内遺跡 B区

本地区はA区の南東130mにある。近隣には平成9年度に調査が行われた津江八升町遺跡（2次調査）があり、竪穴式住居等の遺構が密集する形で検出される事を予測していたが、結果としては非常に厚みのある包含層を検出したのみであった。現在の地形からも読み取れるが、栗ノ内遺跡A区と津江八升町遺跡との間には水気の多い河川状の窪みがあり、本調査区はこの窪みの南端部分に位置している。したがって、栗ノ内遺跡B区は津江八升町遺跡の北端部にあたるため厚い堆積土と多量の土器群が出土するものと理解したい。

小石原遺跡 A区

本遺跡は上妻小学校の東500mにあり、主要地方道久留米・立花線と旧矢部線跡の交差点角地に所在する八女市上水道配水所より北北東約120mに位置している。本調査区を含む地域は広く祈祷院遺跡群として周知されており、近隣には平成11年度に調査が行われた白石遺跡がある。調査においては



第84図 栗ノ内遺跡A区2地点 遺構配置図 [S=1/150]



第85図 栗ノ内遺跡B区 位置図 [S=1/300]

多量の土師器が検出されたこともあり、当遺跡においても同様の結果を予測していたが、結果としては4条の溝と1軒の竪穴式住居を検出したに留まった。調査は総延長54m、幅3mの範囲で行い、面積は約160㎡である。

SB-01 〈第86図〉

調査区北側において検出した竪穴式住居である。遺構本体の大半が調査区外にあり、詳細は不明である。検出規模は長辺2.1m、短辺0.8m、深さ0.2mを測る。北東隅に深さ40cmある柱穴が穿たれているが、遺構に伴っているか否かは不明。

SD-01 〈第86図〉

調査区南端部で検出した溝で、南西～北東方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は検出長3.7m、幅3.2mを測る。溝断面は凹凸が著しく、自然流路の特徴を示している。

出土遺物として、甕・壺の破片がある。

SD-02 〈第86図〉

調査区北側で検出した溝で、西北西～東南東方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は検出長2.4m、幅1.8m～2.6mを測る。溝断面は急角度を持つ逆台形を成しており、底面はフラットとなっている。自然流路特有の凹凸が全くなく、人工的に掘削された溝であると判断した。

SD-03 〈第86図〉

調査区北側で検出した溝で、西北西～東南東方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は検出長2.5m、幅0.5m～1.0mを測る。溝断面は南から北にかけやや急な斜角を成し、北側底面のレベルがSD-02の底面レベルと合致することから、本来はSD-02と同一の溝であったものと思われる。

SD-04 〈第86図〉

調査区北端部で検出した溝で、西北西～東南東方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は検出長1.8m、幅0.6mを測る。溝断面は緩やかなU字を成している。

小石原遺跡 B区

本遺跡は小石原A区の北110mにある。本調査区に続く黒石遺跡は東西方向の東側延長線上にある。後世の削平が著しいためか、遺存していた遺構は僅かで3条の溝と2基の土壇、不明遺構2基を検出したに留まった。調査は東西方向に総延長102m、幅3.5mの範囲で行い、面積は約360㎡である。

SD-01 〈第86図〉

調査区中央部で検出した溝で、西～東方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は検出長19.1m、幅0.3m～0.7m、深さ5cmを測る。溝断面はフラットで、人工的に掘削された溝と考えられる。

SD - 0 2 〈第 8 6 図〉

調査区東側で検出した溝で、南～北方向の流路を持つ。規模（検出分のみ）は検出長 2.9m、幅 0.3m を測る。溝断面はフラットで、人工的に掘削された溝と考えられる。

出土遺物なし。

SD - 0 3 〈第 8 6 図〉

調査区東側で検出した溝で、蕨手状に屈曲している。規模（検出分のみ）は検出長 2.0m、幅 30cm ～ 40cm を測る。溝断面はフラットであるが、人工的掘削によるものか否かは不明。

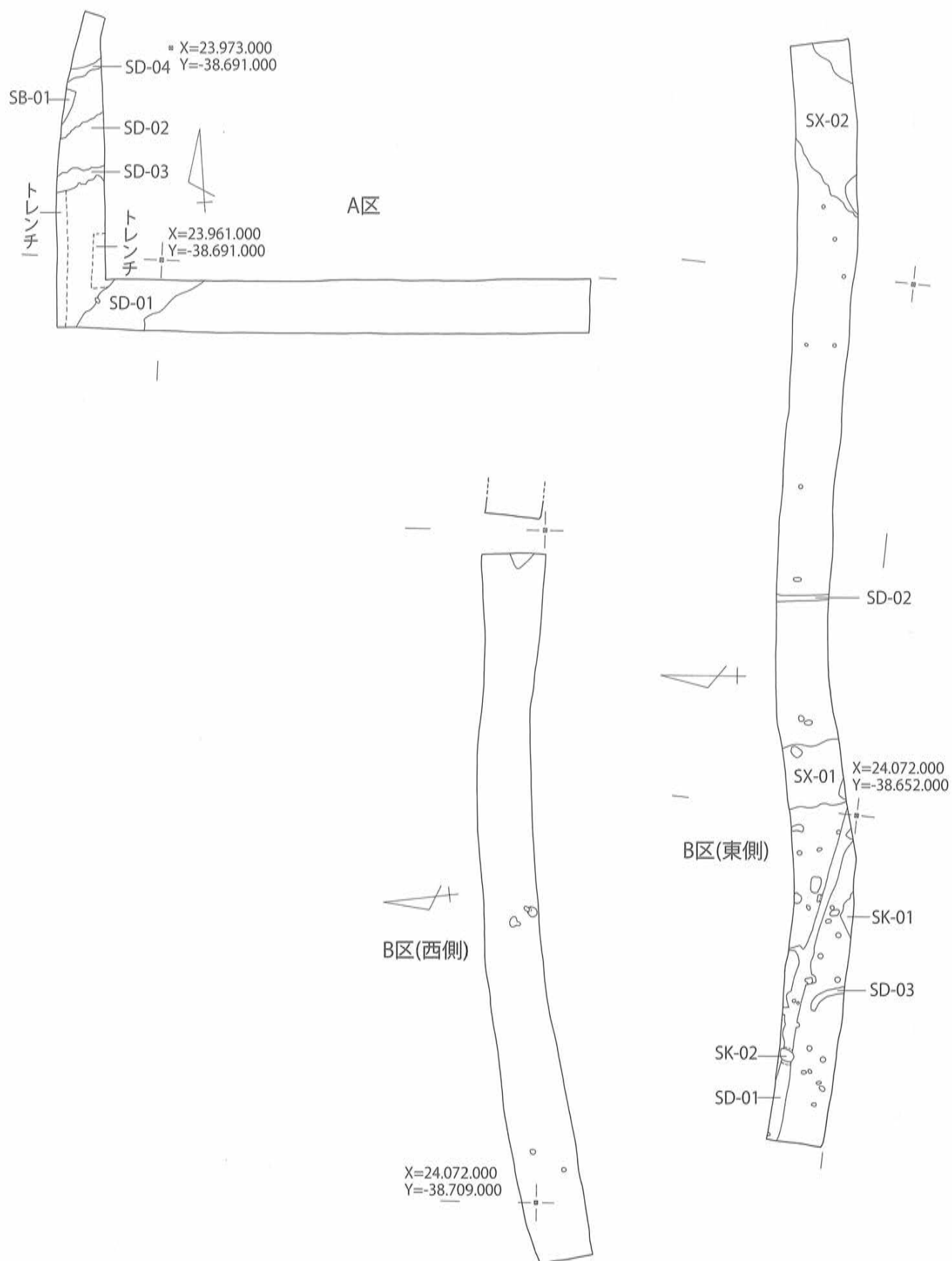
出土遺物なし。

SK - 0 1

調査区中央付近において検出した土壙である。遺構本体の大半が調査区外に出ており、詳細は不明である。検出規模は長辺 2.7m 以上、短辺 0.8m 以上、深さ 0. 1 m を測る。

SK - 0 2 〈第 8 6 図〉

調査区中央付近において検出した土壙である。平面プランはやや不整な楕円形を呈している。長軸方位を N - 51° - E に取り、検出規模は長軸長 0.86m、短軸長 0.64m 以上、深さ 0.25m を測る。



第86図 小石原遺跡A区・B区 遺構配置図 [S = 1 / 300]

黒石遺跡 A 区

本遺跡は小石原遺跡B区の東側隣接地にある。調査は便宜上1・2地点に分け、東西方向に総延長97m、幅4mの範囲で行った。調査面積は約390㎡である。

調査の結果、8条の溝と3基の土壇、2基の不明遺構、多数のピットを検出した。

SD-01 〈第87図〉

1地点の西側で検出した溝。北東に向け直線的に延び調査区外に出る。規模（検出分のみ）は検出長5.8m、幅0.7m～1.0m、深さ0.2mを測る。溝床面はフラットで、人工的に掘削された溝と考えられる。

SD-02 〈第87図〉

1地点の西側で検出した溝。北に向け内湾し、延長部分は調査区外に延び一部はSD-01に切られている。規模（検出分のみ）は検出長9.8m、幅0.5m～1.0m、深さ0.15mを測る。溝床面はフラットであり人工的に掘削された溝と考えられ、SD-03との接続状況や平面形態から著しく削平された円形の周溝墓、または、連続した周溝状遺構と思われるが、推測の域を出ない。

SD-03 〈第87図〉

1地点の西端部で検出した溝。北に向けやや内湾気味に湾曲しSK-01を切りつつ、SD-02に接続しているものと思われる。規模（検出分のみ）は検出長4.8m、幅1.2m、深さ0.13mを測る。溝床面はフラットで、人工的に掘削された溝と考えられる。

SD-04 〈第87図〉

1地点の東側で検出した溝。南西～北東に流路をとる。規模（検出分のみ）は検出長7.5m、幅0.8m～1.4m、深さ0.15mを測る。溝床面はフラットで、人工的に掘削された溝と考えられる。

SD-05 〈第87図〉

1地点の東端部付近で検出した溝。南西～北東に流路をとる。規模（検出分のみ）は検出長3.0m、幅0.4m、深さ6cmを測る。溝床面はフラットで、人工的に掘削された溝と考えられる。

SD-06 〈第87図〉

2地点の西端部付近で検出した溝。南西～北東に流路をとる。規模（検出分のみ）は検出長5.2m、幅0.44m、深さ6cmを測る。溝床面はフラットで、人工的に掘削された溝と考えられる。隣接するSD-07との平均的間隔は1.6mである。

SD-07 〈第87図〉

2地点の西側で検出した溝。南西～北東に流路をとる。規模（検出分のみ）は検出長6.2m、幅0.35m、深さ8cmを測る。溝床面はフラットで、人工的に掘削された溝と考えられる。SD-06とはほぼ同規模であり、等間隔のまま流路方向を維持していることから、単なる平行した溝と考えるよりも道路側溝の一部

と考えたい。しかしながら状況以外の物証はなく、即断は避けたい。

SD－08 〈第87図〉

2 地点の東側で検出した溝。南北方向に流路をとる。規模（検出分のみ）は検出長 4.56m、幅 1.4m、深さ 0.1m を測る。溝床面はフラットで、人工的に掘削された溝と考えられる。

SK－01 〈第87図〉

1 地点西端付近において検出した土壌である。遺構本体の大半が SD－02・03 に切られ、または、調査区外に出ており、詳細は不明である。検出規模は長辺 4.1m 以上、短辺 2.7m 以上、深さ 0.13m を測る。

SK－02

1 地点東端付近において検出した土壌である。検出規模は長辺 3.38m 以上、短辺 1.42m 以上、深さ 0.1m を測る。

SK－03 〈第87図〉

2 地点西側において検出した土壌である。遺構の一部が調査区外に出ているが、平面プランが隅丸長方形を呈するものと考えられる。長軸方位を N－20°－E に取り、規模は長軸長 2.8m 以上、短軸長 1.4m、深さ 0.2m を測る。

出土遺物として、甕・小型丸底壺・高坏等の破片がある。

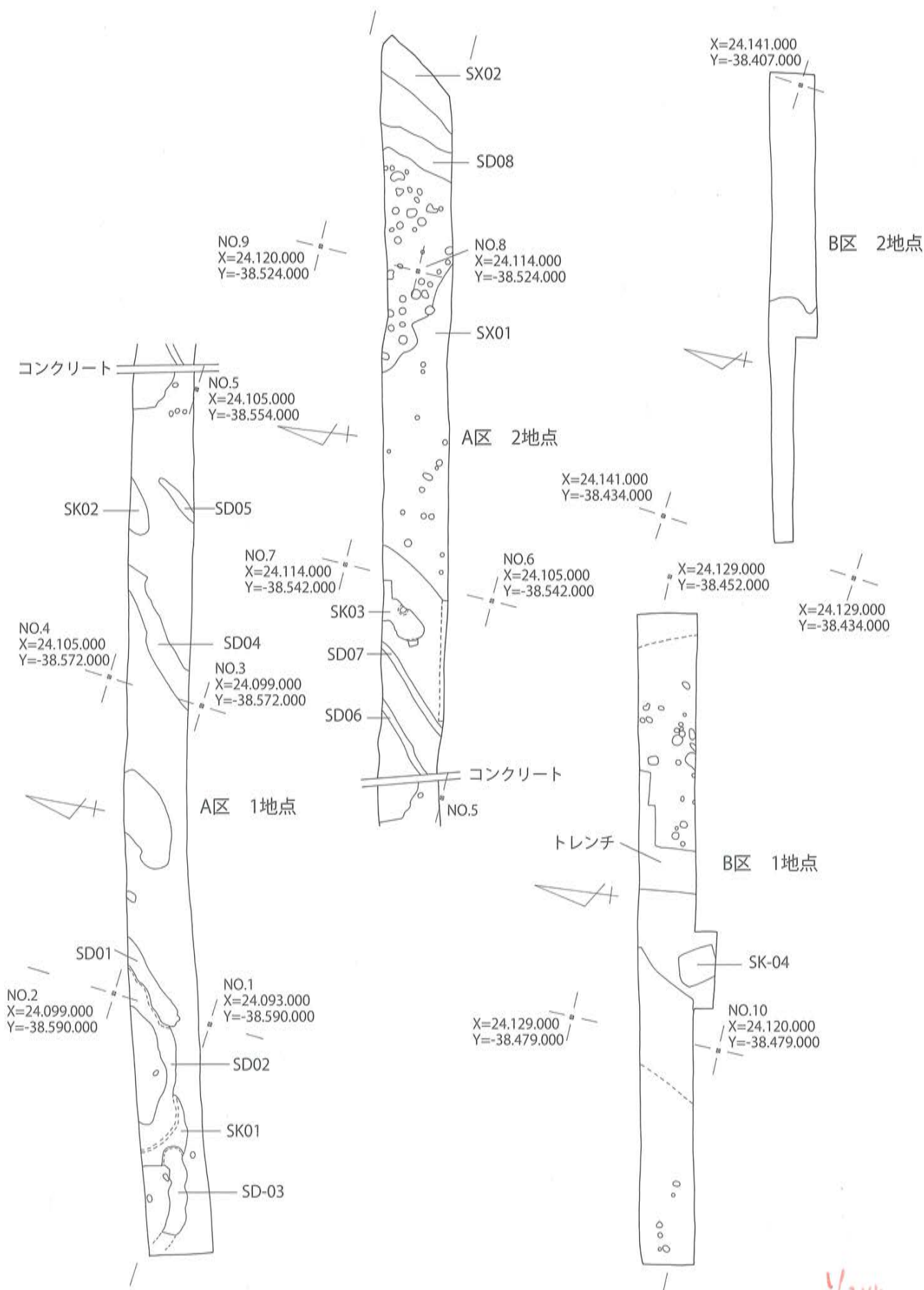
黒石遺跡 B 区

本遺跡は黒石遺跡 A 区の東側隣接地にある。調査は便宜上 1・2 地点に分け、東西方向に総延長 66m、幅 3.5m の範囲で行った。調査面積は約 230㎡である。

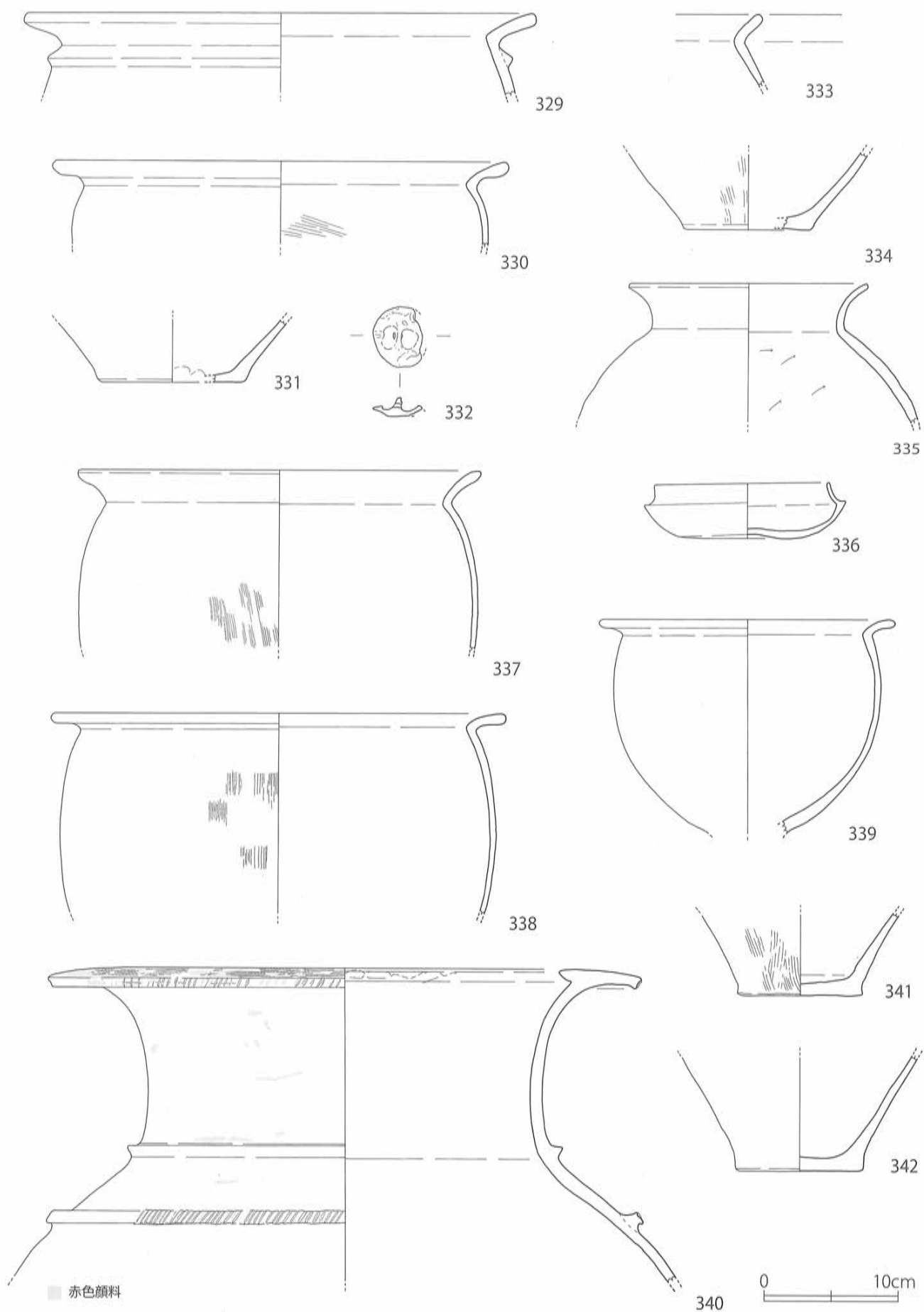
調査の結果、1 基の土壌、多数のピットを検出した。

SK－04 〈第87図〉

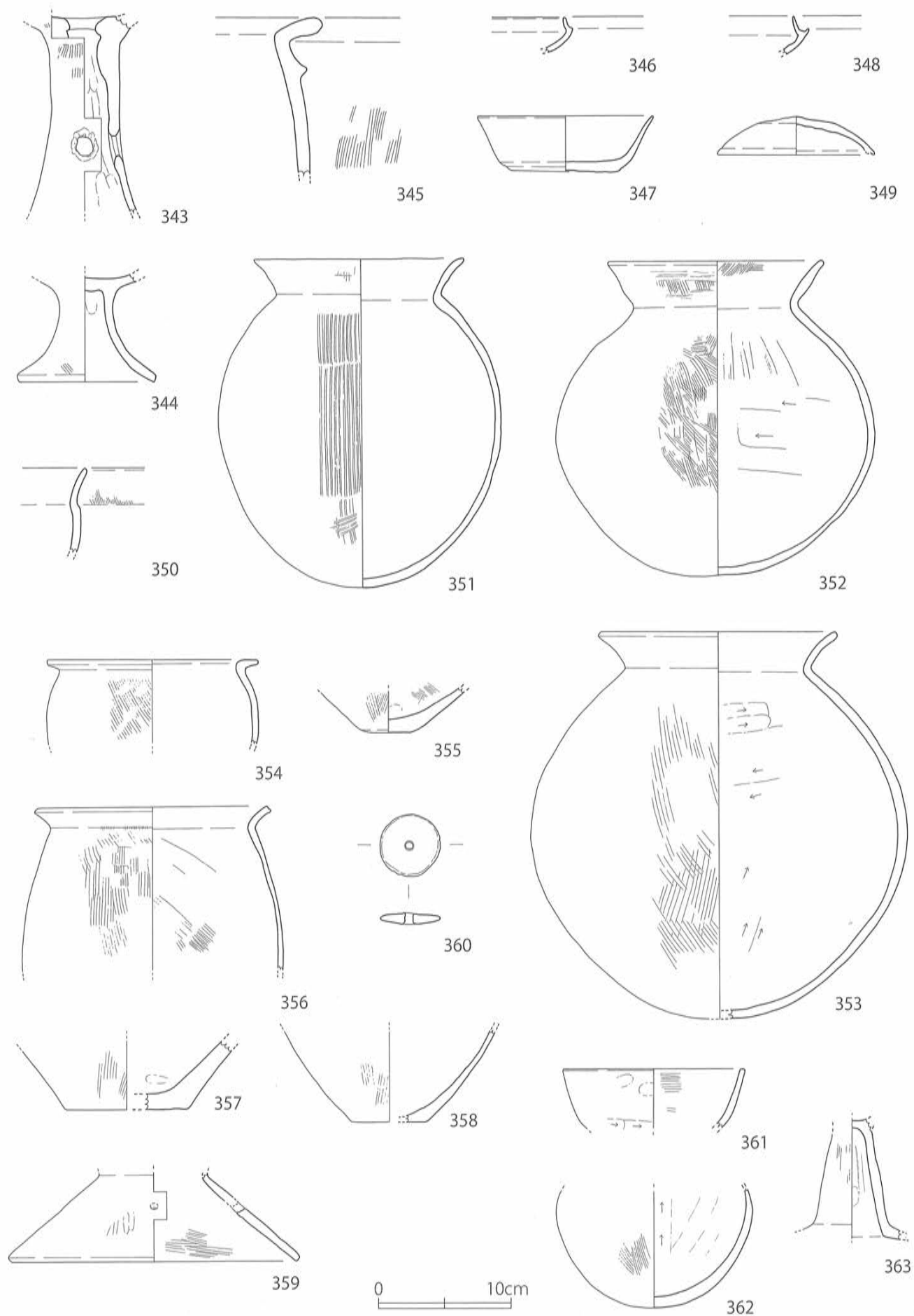
1 地点中央付近において検出した土壌である。遺構の一部が調査区外に出ているが、平面プランが隅丸長方形を呈するものと考えられる。長軸方位を N－30°－W に取り、規模は長軸長 2.64m 以上、短軸長 2.1m、深さ 0.16m を測る。北西側の短辺に沿うように焼土と炭化物が散在していたが、これらは遺構を切っているような状況も呈しており、後世の攪乱の可能性もある。



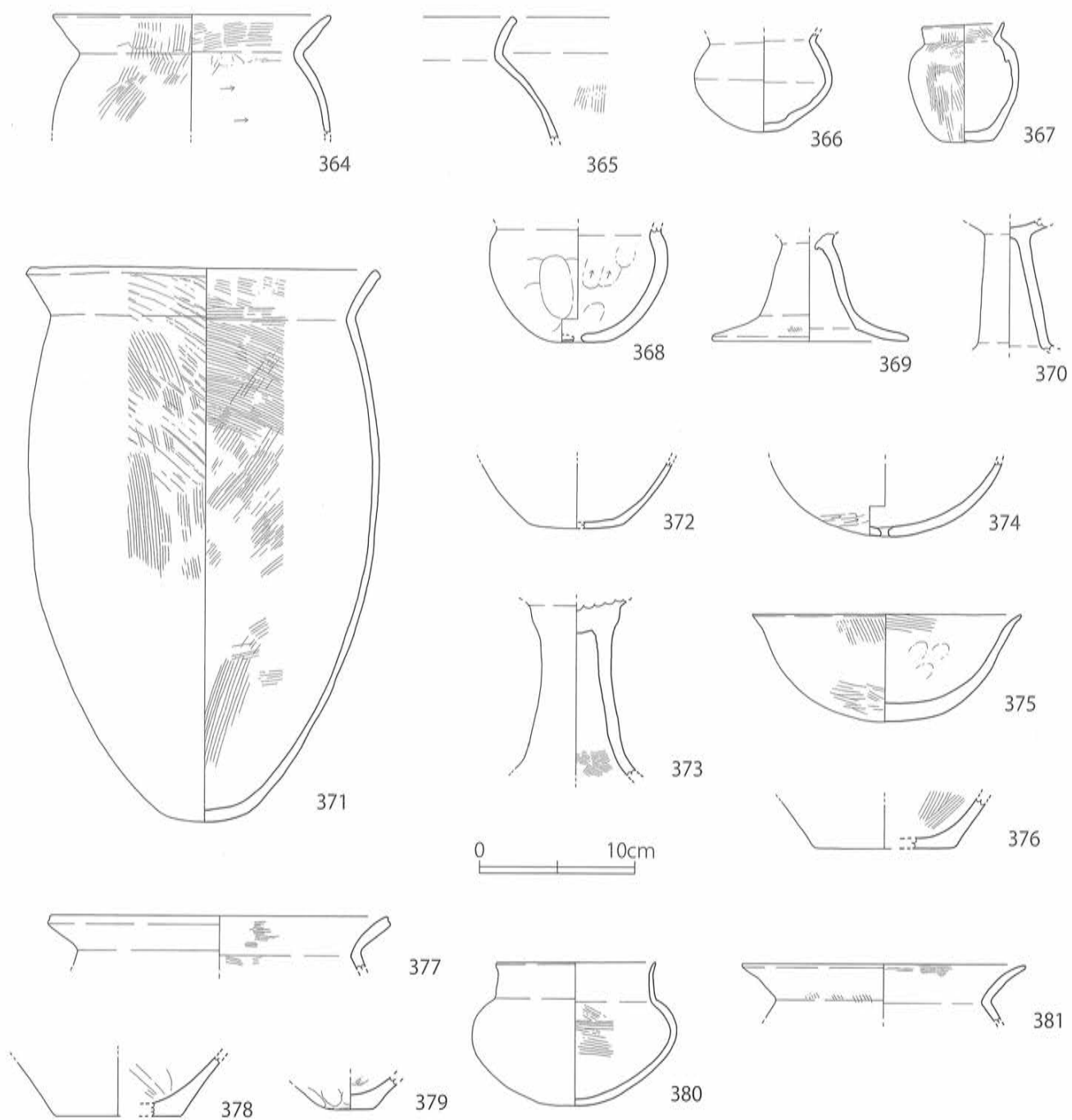
第87図 黒石遺跡 A区1・2地点、B区1・2地点 遺構配置図 [S = 1 / 300]



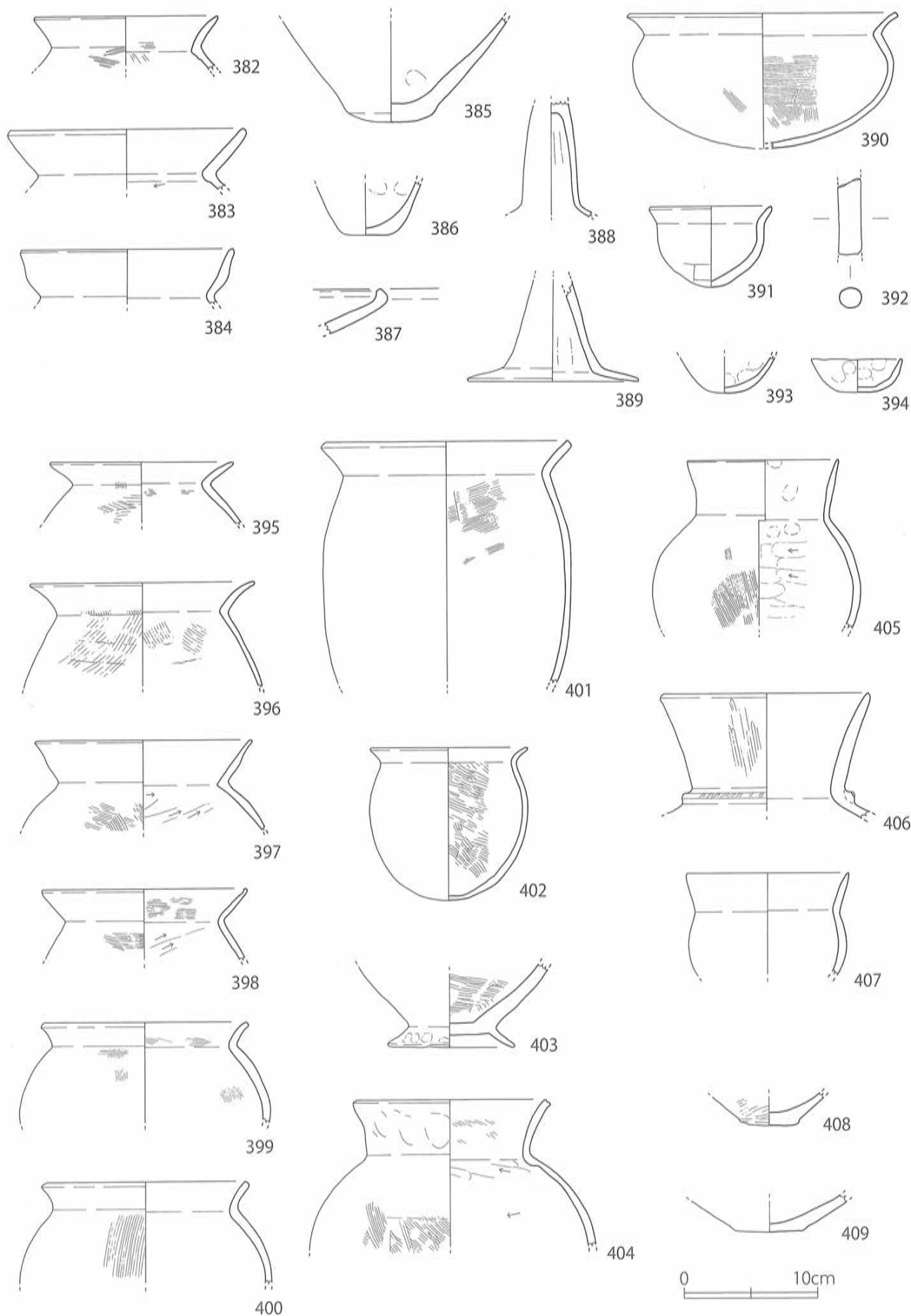
第88図 早水町遺跡 A区 SB-02・04・05、SX-02
出土土器 実測図 [S=1/4]



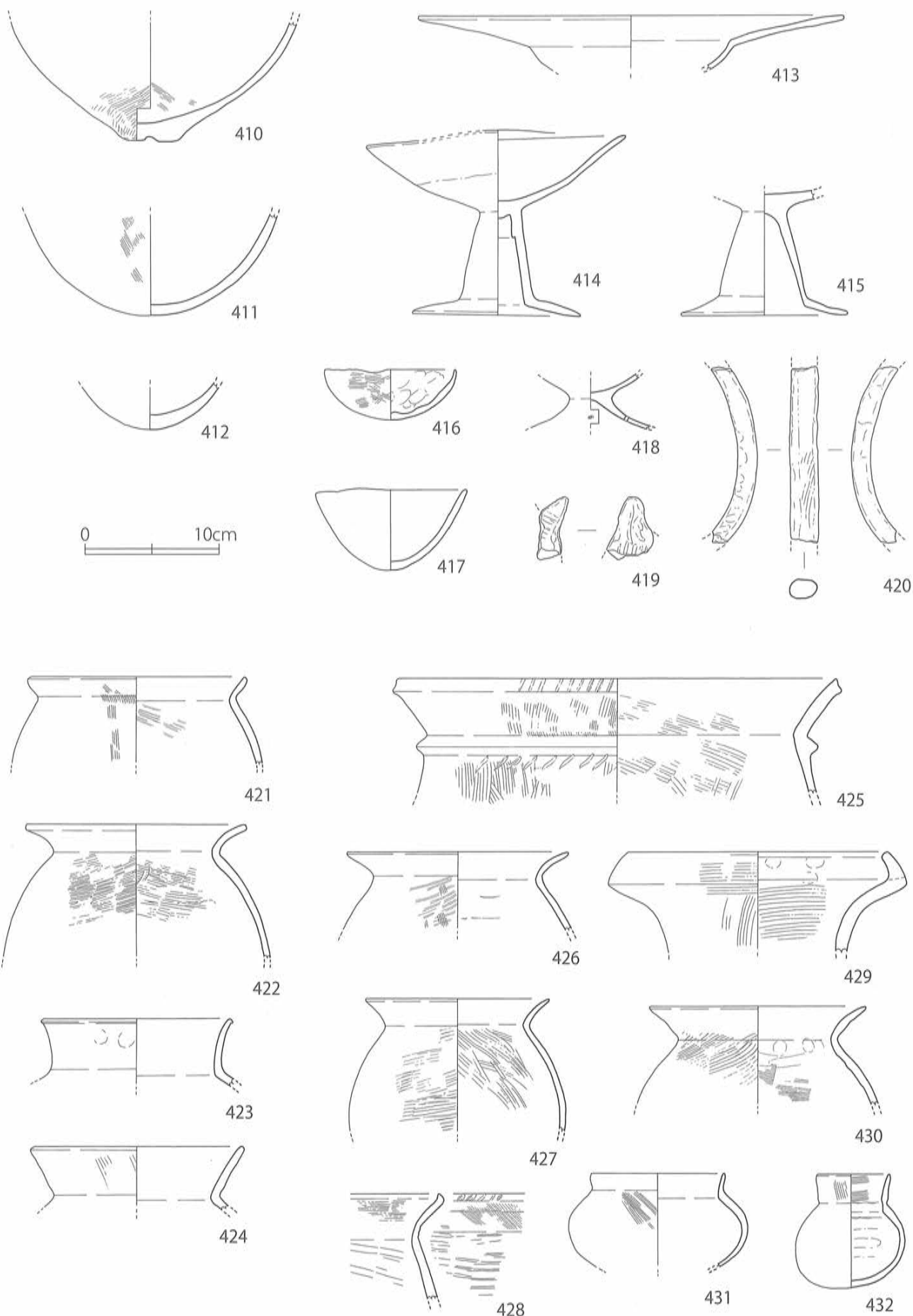
第89図 早水町遺跡 A区 SX-02・03、SK-01、SD-05
 栗ノ内遺跡 A区1地点 SB-01~04・06 出土土器 実測図 [S=1/4]



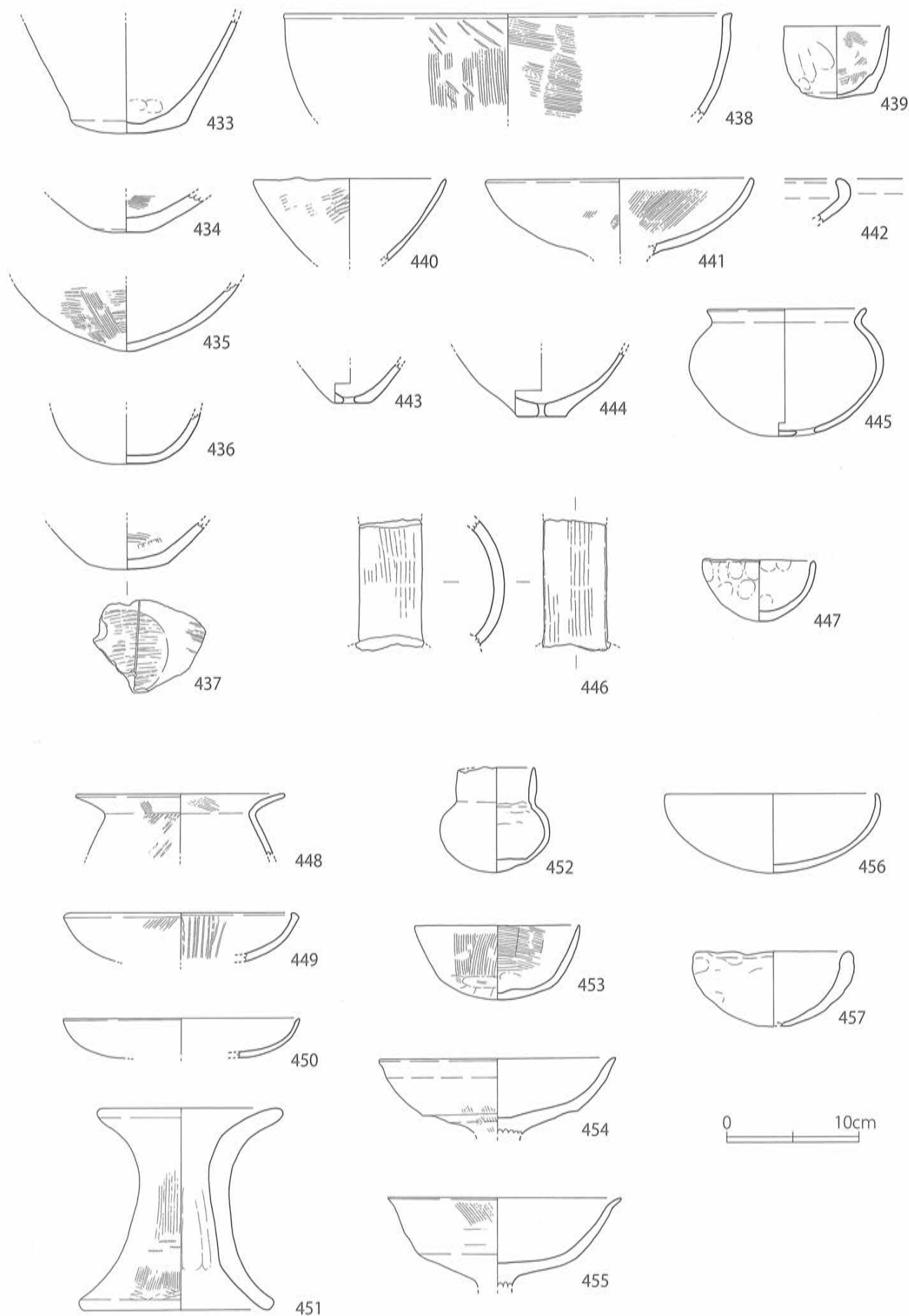
第90図 栗ノ内遺跡 A区1地点 SB-06・07、SK-01・04・07・08
SD-01、SX-01、SP-09 出土土器 実測図〔S=1/4〕



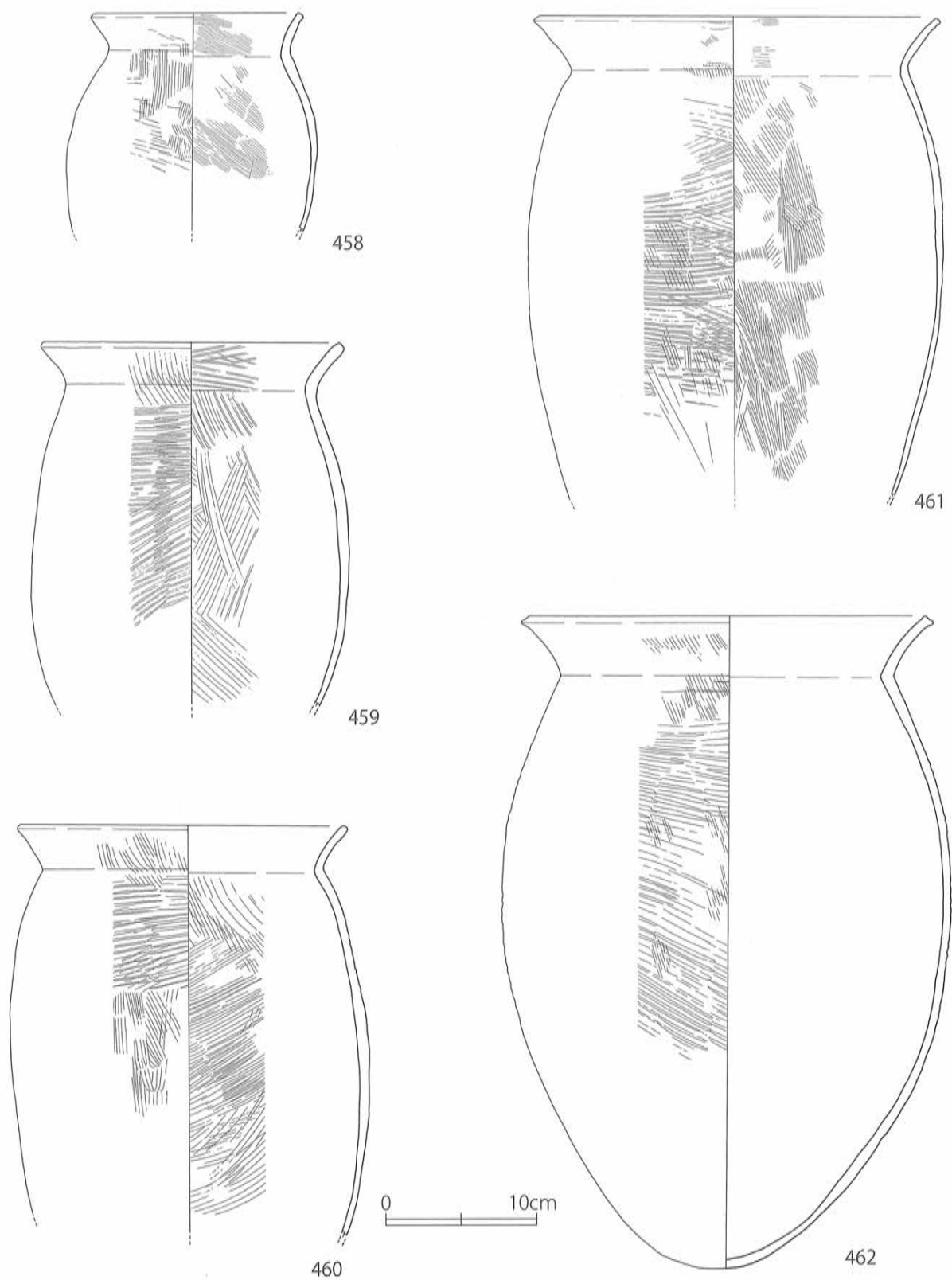
第91図 栗ノ内遺跡 A区1地点 包含層 出土土器 実測図〔S = 1 / 4〕



第92図 栗ノ内遺跡 A区1地点 包含層第1・2層 出土土器 実測図 [S = 1/4]



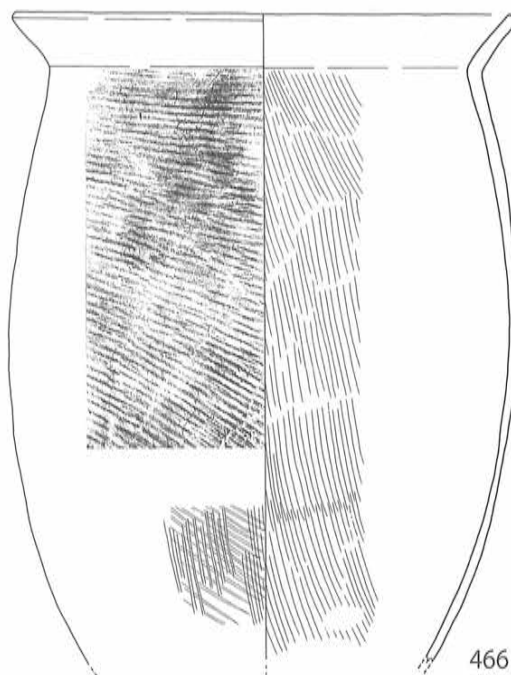
第93図 栗ノ内遺跡 A区1地点 包含層第2層
A区2地点 SB-08・09・11、包含層 出土土器 実測図 [S=1/4]



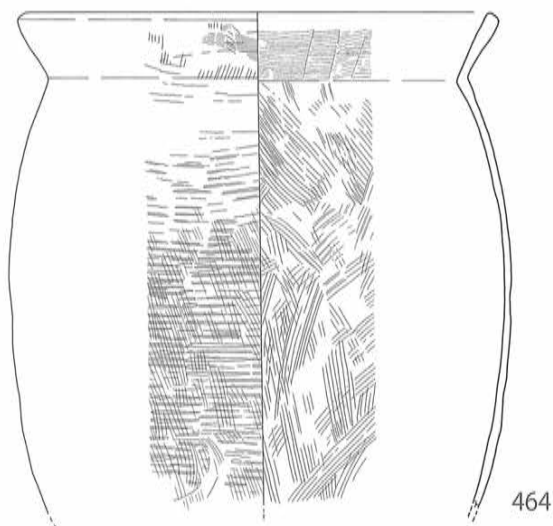
第94図 栗ノ内遺跡 A区2地点 SX-01 出土土器 実測図〔S=1/4〕 (その1)



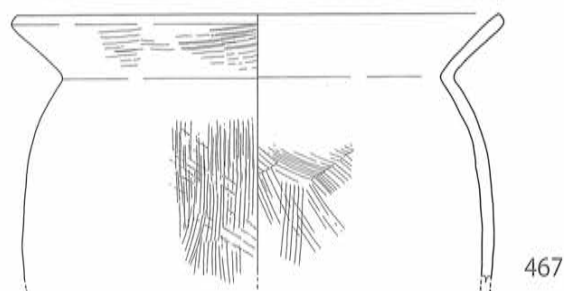
463



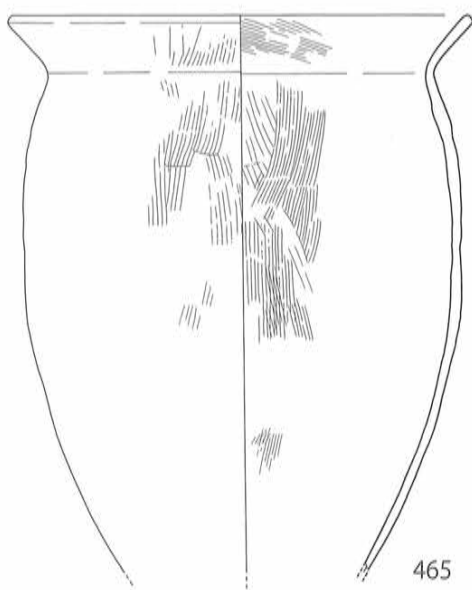
466



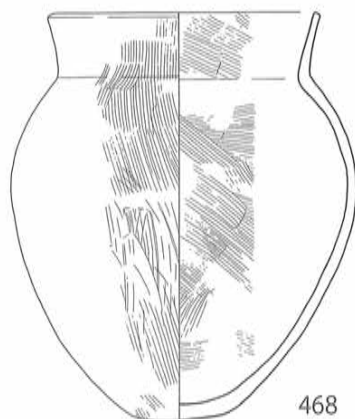
464



467



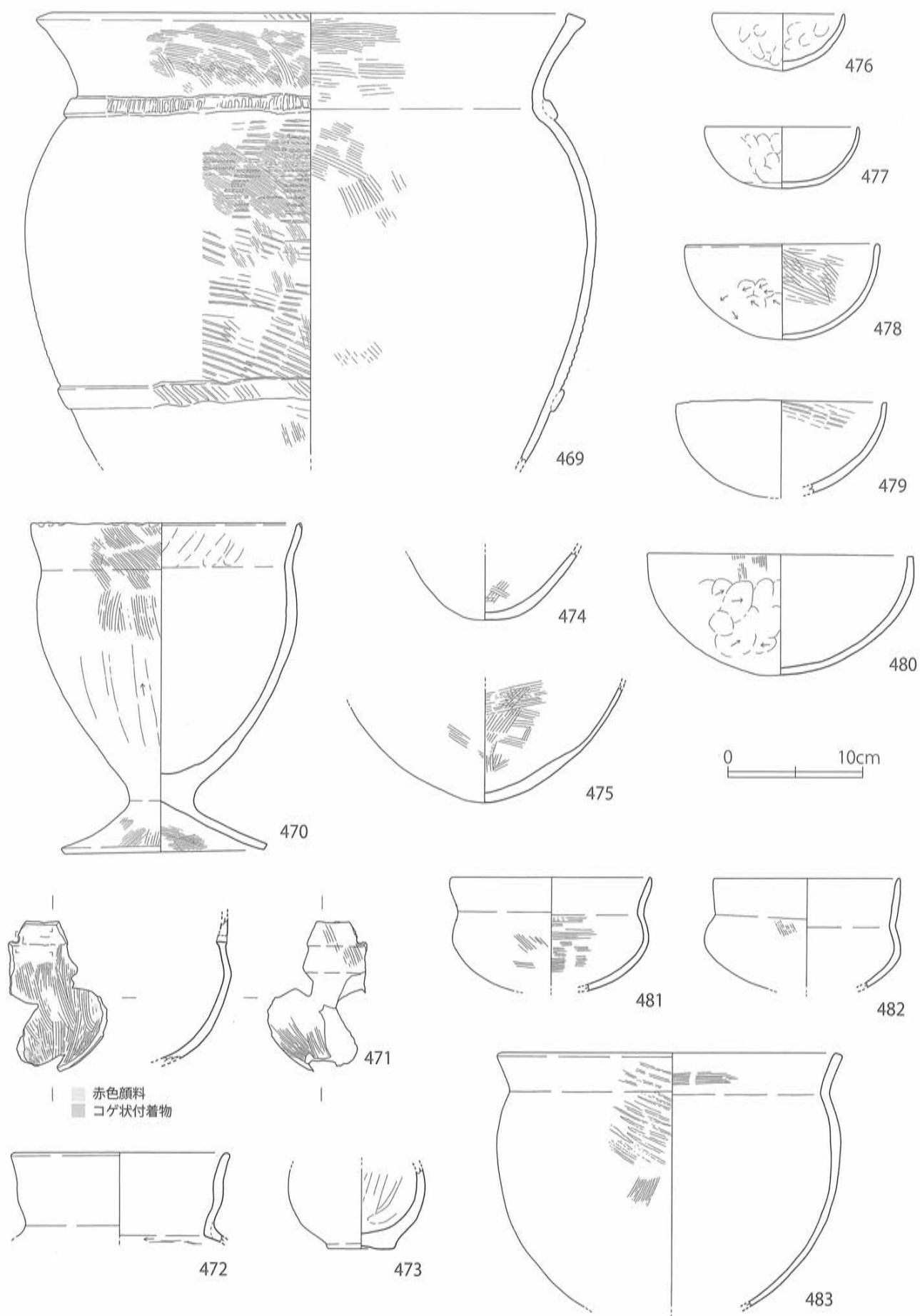
465



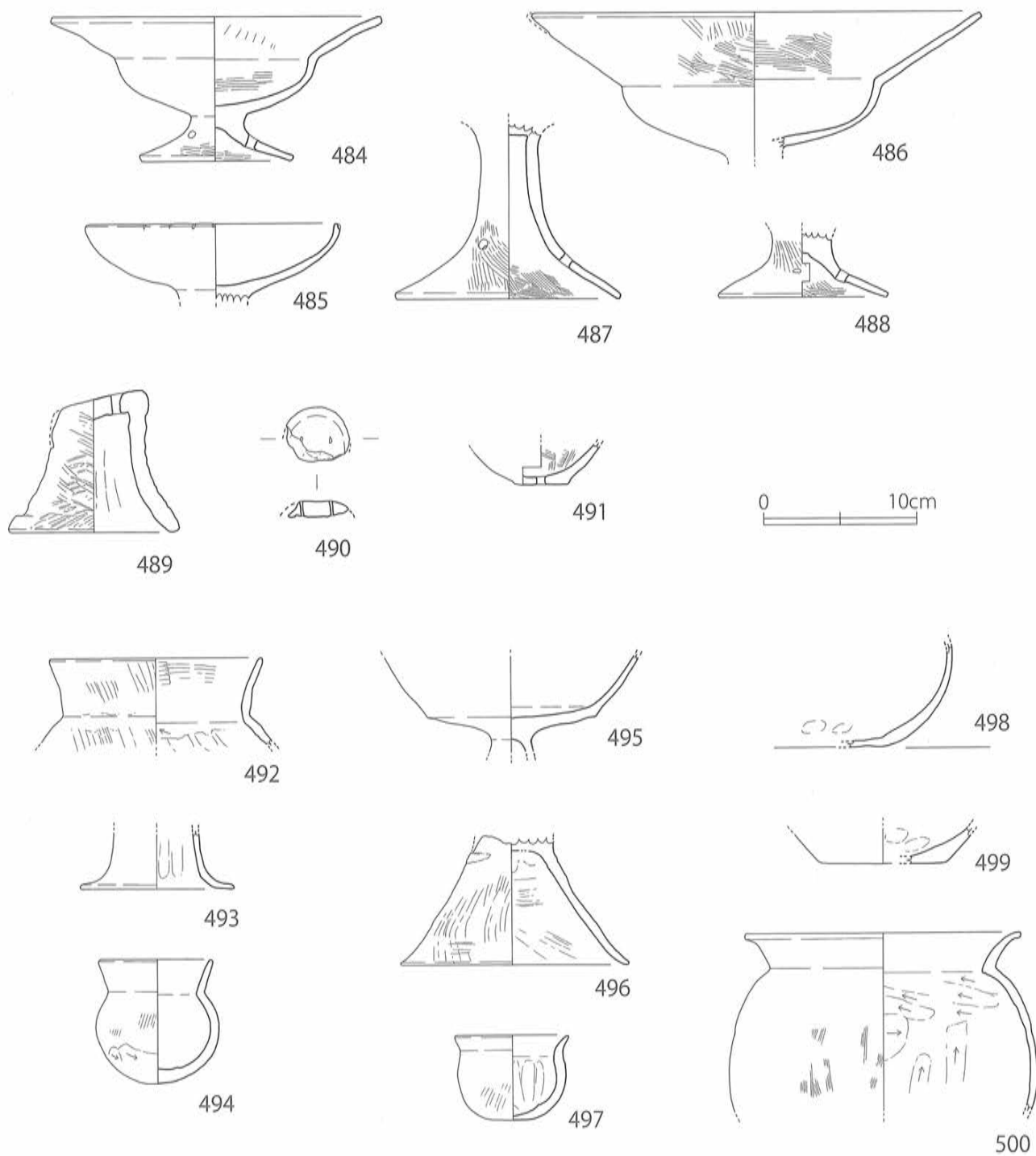
468

0 10cm

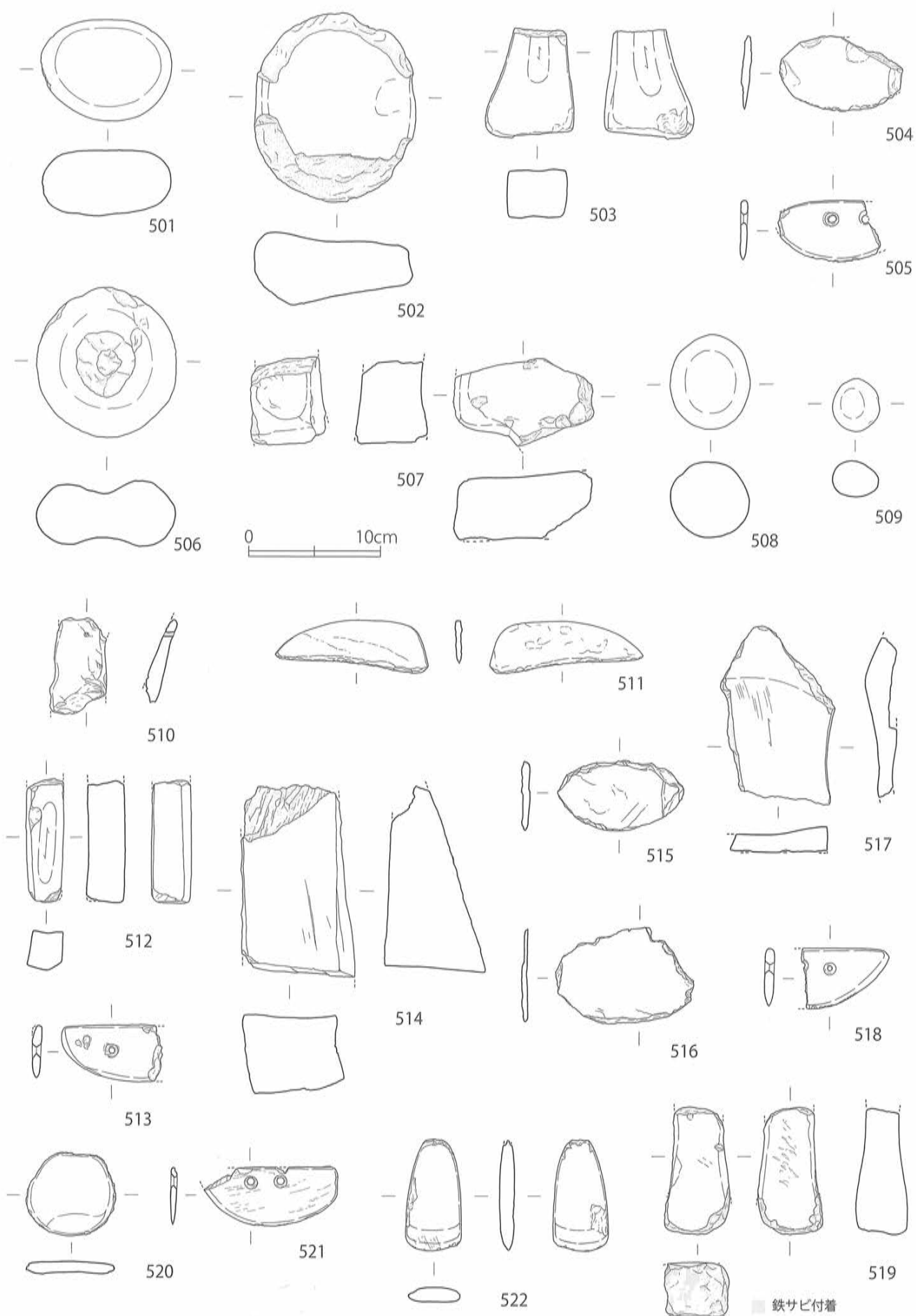
第95図 栗ノ内遺跡 A区2地点 SX-01 出土土器 実測図〔S=1/4〕 (その2)



第96図 栗ノ内遺跡 A区2地点 SX-01 出土土器 実測図〔S=1/4〕 (その3)



第97図 栗ノ内遺跡 A区2地点 SX-01、黒石遺跡A区2地点 SK-02・03、
小石原遺跡 A区 SD-01 出土土器 実測図 [S=1/4]



第98図 八女東部第2地区内 出土石器 実測図 [S = 1 / 4]

〔平成 2 1 年度の調査〕

平成21年度調査

平成21年度は平成20年度事業地の東側延長部分、及び、北東側の地域をその対象地とし、遺跡群で言えば祈祷院遺跡群、及び、井延遺跡群の両遺跡群が接する地域周辺を対象とし調査を行った。

平成19・20年度と同様、排水路計画地のみの調査であるため調査面積は限られているが、総延長240m分の調査を行う事が出来た。

以下、今次調査に係る部分について言及し、全体像については後述する。

1) 高ノ町遺跡における遺構と出土遺物

高ノ町遺跡は平成20年度事業地の東側延長部分にあり、水路により掘削される部分について調査を行った。総延長約73m、幅4.5mをその調査対象区とした。

調査は便宜上1～4地点を設定して掘削を始めた。検出した遺構は竪穴式住居(SB)2軒、溝(SD)4条、土壇(SK)1基、道路状遺構(SA)1基、ほかピット多数を確認した。

高ノ町遺跡 1地点〈第99図〉

高ノ町遺跡1地点は平成20年度に実施した黒石遺跡B区2地点の東側隣接地にあたる。

調査の結果、区内西側は前年度の調査同様遺構の検出は見られず、広く礫層・砂利層が展開している状況であった。東端部付近になると粘質土が礫層直上に乗り、基盤層が変化すると共に遺構が出現するようになる。ピットが主体であったが、一部に大きな遺構も見られた。

SK-01 (SD-04) 〈第99図〉

本遺構は調査区東端において検出したもので、平面プランが半月状を成す。遺構大半は調査区外に出ており詳細は不明であるが、高ノ町遺跡4地点に続く溝(自然河川)の一部であると考えられる。

出土遺物として、土師器等の遺物が見られたが極小破片でもあり図化していない。

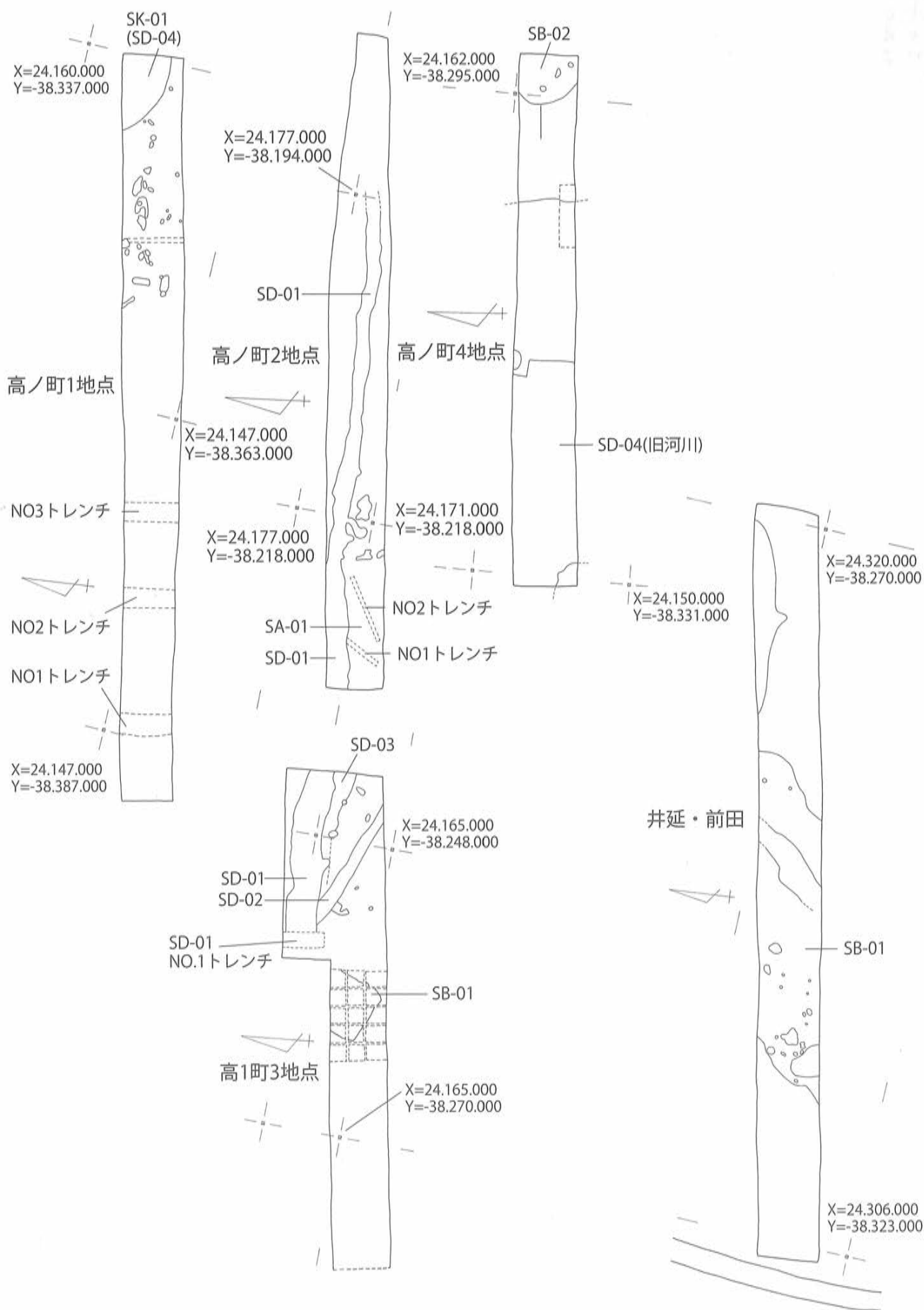
高ノ町遺跡 2地点〈第99図〉

高ノ町遺跡2地点は、高ノ町遺跡1地点から東側に計画されている排水路の東端部付近に位置しており、当該発掘調査地区においては最も東に所在する地区である。

調査の結果、区内中央部より東側は広く礫層が展開している状況であった。西側部分では淡黒色粘質土が礫層直上に乗り、基盤層が変化すると共に溝以外の遺構(SA-01)が出現した。

SD-01 〈第99図〉

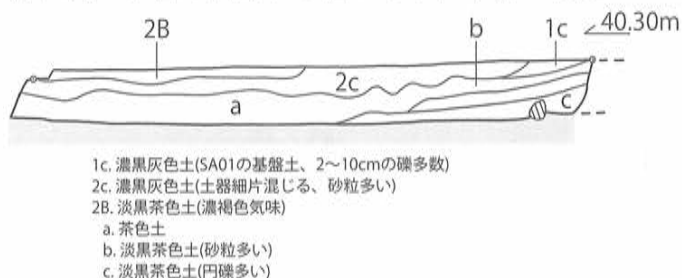
調査区全域において検出した溝で、東～西方向の流路を持つ。規模(検出分のみ)は検出長37m、幅1.0m



第99図 高ノ町遺跡1～4地点、井延・前田遺跡 遺構配置図 [S = 1 / 400]

～1.4mを測る。検出面から約10cm～15cm下部に丸い小石が密集する層があり、本溝が機能していた時期の終わり頃に氾濫があったものと思われる、これにより埋没したものと考えられる。溝断面は凹凸が著しく、自然流路の特徴を示している。

出土遺物として土師器破片があったが、細片のため図化していない。

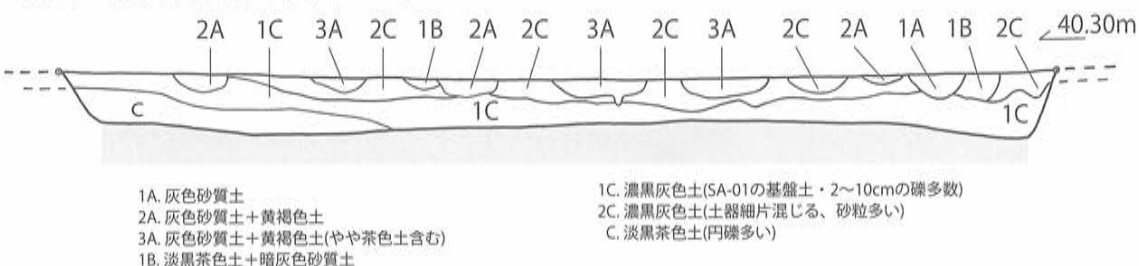


SA-01 <第99図>

第100図 SA-01 No. 1 トレンチ
南側土層実測図 [S=1/60]

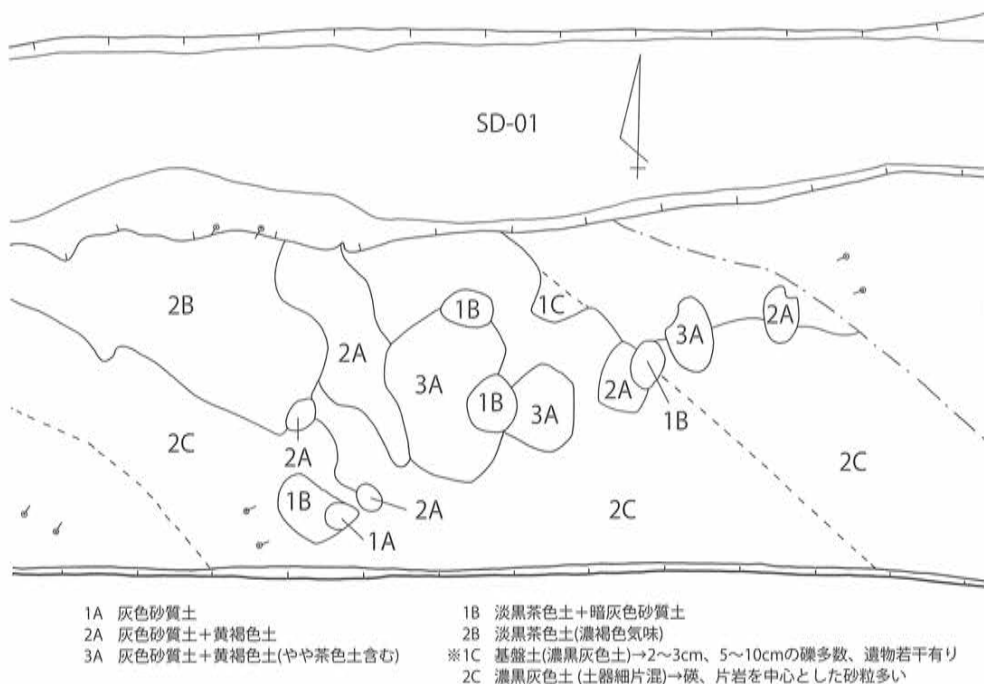
調査区西側で検出した道路状遺構と考えられる遺構であり、複数の波板状遺構を検出した。

波板状遺構は主に灰色砂質土、及び、淡黒茶色土で構成されており、西南西～東北東に向い



第101図 SA-01 No. 2 トレンチ南側土層実測図 [S=1/60]

ている。2列存在し、その切り合いから3時期にまたがる設置・改修が行われたものと想定出来る。規模(波板状遺構検出分のみ)は検出長4.5m、幅0.4m～1.5mを測る。南東～北西方向に溝状に横たわる湿地状の軟弱な基盤土を横切るように設けられた施設であったと思われる。



第102図 SA-01 検出時土質状況 実測図 [S=1/60]

高ノ町遺跡 3地点 <第99図>

高ノ町遺跡3地点は、高ノ町遺跡2地点から西側延長部分に位置しており、高ノ町4地点の東側に位置している。

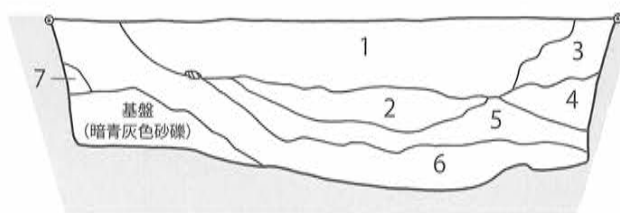
調査の結果、区内全域より広く礫混じりの黒茶色粘質土層が展開している状況であった。この状況は西側部分が非常に顕著であり、竪穴式住居の検出においては慎重を期し1m方眼グリッドを設定し、少しずつ掘削を行い遺構検出面を探し当てた。東側部分は暗黄茶色系の基盤が主で、それらを切り込む形でSD

— 01 ~ 03 が存在している。

40.30m

SD-01 〈第103・104図〉

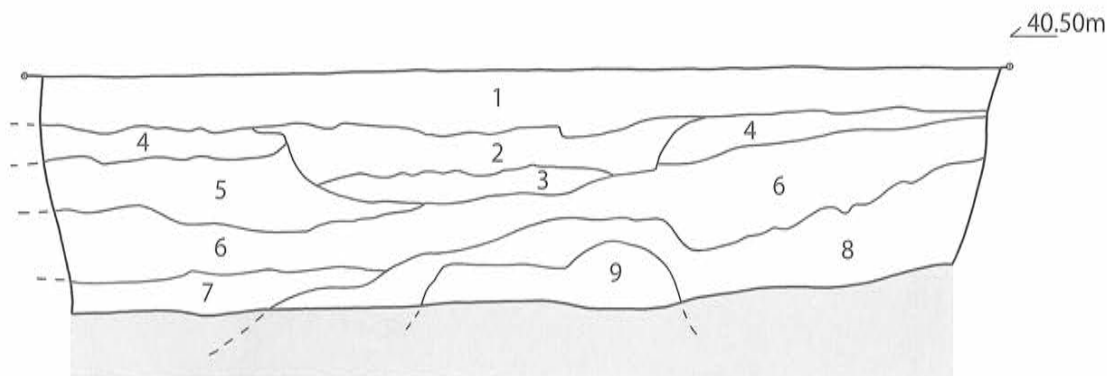
東側隣接地の2地点から続く溝で、SD-03を切っている。規模（検出分のみ）は検出長14m、幅2.4m、深さ0.43mを測る。北側法面に接する状況で複数出土した須恵器破片に塚ノ谷窯跡群2号窯跡資料に類似した高台があり、これを積極的に評価する事が可能ならば、本溝の初現期は7世紀中頃～後半の時期が考えられる。



- | | |
|---------|--------------------------|
| SD-01埋土 | 1. 灰色細砂 |
| | 2. 暗灰色砂+円礫 |
| | 3. 淡黒灰色土(若干粘性有) |
| SD-03埋土 | 4. 淡黒色土+暗灰色砂(互層を成す) |
| | 5. 茶褐色砂礫(少量の円礫、鉄分の沈着) |
| | 6. 暗灰色砂礫(5~6cmの円礫、鉄分の沈着) |
| | 7. 淡茶色粘質土(1~2cmの円礫) |

第103図 SD-01 No. 1 トレンチ

西側土層 実測図 [S = 1 / 40]



- | | |
|---------|---|
| | 1. 耕作土+床土(黄色)→上層:新しい床土 下層:旧耕作土 |
| SD-01埋土 | 2. 灰色細砂 →溝壁面下に須恵器 小田編年 IVb~VIc 7c中~7c後頃 流れ込み? |
| | 3. 暗灰色円礫 |
| | 4. 淡黒灰色土(若干粘性有) |
| | 5. 淡黒色土+暗灰色砂 |
| SD-03埋土 | 6. 暗黒灰色砂礫(5~10cm程の円礫多い) |
| | 7. 暗黒茶色粘質土(下層部に20cm程の大円礫有り) |
| | 8. 茶褐色砂礫(少量の円礫、鉄分沈着) |
| | 9. 暗灰色砂礫(5~10cmの円礫) |

第104図 SD-01 No. 2 トレンチ 東側土層 実測図 [S = 1 / 40]

SD-02 〈第99図〉

調査区の東側で検出した溝。南東～北西に向け流路をとり、延長部分はSD-01に切られている。規模（検出分のみ）は検出長10.5m、幅0.7m～1.1m、深さ0.13m～0.2mを測る。溝床面はフラット、または、半円形であり、人工的に掘削された溝と考えられる。

SD-03 〈第99図〉

調査区の北側で検出した溝で、東西方向に流路をとる。SD-01に切られている。規模（検出分のみ）は検出長14.5m、幅、深さについては不明。下層部分を中心に弥生時代後期を中心とした土器細片が出土する事から、弥生期に発生した自然流路と考えたい。

SB-04 〈第99図〉

本住居は調査区中央付近において検出した竪穴式住居である。遺構本体の一部分が調査区外に出てお

り全体像は不明であるが、長軸方位をN-32°-Wに取り、検出規模は長軸長5.3m、短軸長4.8m、深さ0.3mを測る。主柱は4本であったと思われるが、P-1～3以外主柱穴と思われる柱穴が存在しないため、4本目の主柱については無柱穴であった可能性もある。

住居床面は2時期あり、床面直上にある大小の石材と対応関係にある。住居西辺にある屋内土壌も切り合いを有しており、これを追認している。特記すべきは中央部分に鎮座する石材類で、中でもS1は4つの小石で安定的に設置されており、S2と共に機能していたものと考えられる。S1・S2の配置が主柱を無柱穴とした要因とも思われるが、その用途については判然としない。

出土遺物として、甕・壺等破片がある。

高ノ町遺跡 4地点 〈第99図〉

高ノ町遺跡4地点は、高ノ町遺跡3地点から西側延長部分に位置しており、高ノ町1地点の東側に位置している。調査の結果、区内のほぼ全域にまたがる自然流路(SD-04)が展開している状況であった。

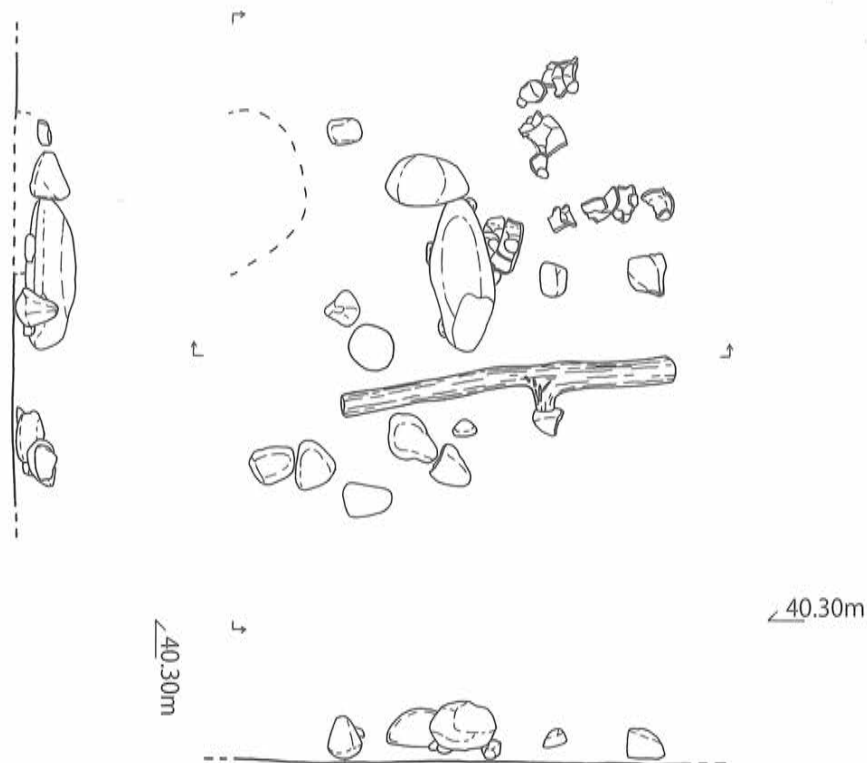
このSD-04は高ノ町遺跡1地点のSK-01と連続する遺構で、埋土等の組成も同一である。

SD-01 〈第99図〉

西側隣接地の1地点から続く溝で、自然流路である。検出した状況が流路を横切りしたような状態であるため、規模については判然としないが、深さについては0.8m～0.9mを測る。溝埋土である灰色砂からは土師



第105図 SB-01 実測図 [S=1/60]



第106図 SB-01 石組部 実測図 [S=1/40]

器高台付椀や黒色土器 A 類の椀、弥生式土器、蛇紋岩製の小型両刃石斧等の出土遺物が見られたが、時期のばらつきが著しいことから自然流路と判断し、本来的に機能した時期を 10 世紀代と考えた。

井延・前田遺跡〈第 99 図〉

井延・前田遺跡は井延遺跡群の南側にあり、高ノ町遺跡 3 地点から北に 170m に位置している。調査の結果、削平著しく、ほぼ遺構は皆無状況であった。しかしながら、調査区中央付近において 4 つの柱穴状の穴を検出した。これらが建物の柱穴であれば掘立柱建物が存在していた事となるが柱穴は非常に浅く、確実に建物跡と判断が出来なかった。出土遺物なし。

第 4 章 まとめ

平成 19 年度より 3 ケ年間にかけて旧八女市南東部に位置している津江遺跡群、祈祷院遺跡群、井延遺跡群の発掘調査を行って来た。当該地区は多数の土器片が地表面において確認される等、古くから大規模な遺跡が埋蔵されている事が予測されており、今回の調査では、その全容を解明するまでには至らなかったが、これまで判然としていなかった当該地区の古代における様相が予測出来るようになった。

平成 19 年度の調査は主に上妻小学校の南側一帯がその範囲となり、予測以上の土器類が多量に出土した。中には遺構内から排出される埋土よりも多くの土器類が充填されている溝もあった。これは集落内で使用されていた雑器の一括廃棄の痕跡であり、ある時期、集落内にある日常品を集落構成員の同意のもと「捨てる」事を選択した証であると考えられる。捨てられたその時期は、出土した土器から弥生時代後期後半頃を中心とした時期と思われる。土器が一括廃棄された理由は定かではないが、遺構周辺にあるこの時期以降のものと思われる包含層から出土する土器群の観察では、外来系土器（布留系土器）を中心に胎土が精製された一群が散見されるようになる。また、2 区の SB-01 からは山陰系の二重口縁壺も出土しており、弥生時代末頃から古墳時代前期後半頃にかけて他地域との交流が活発になってきている事が予測される。第 8 区の SD-03 中層からは数多くのミニチュア土器と共に滑石製紡錘車が出土し、従来の祭祀形態とは若干異なる様相が看取でき、これも他地域との交流の活発化による事象と捉えたい。

また、19 年度から 20 年度にかけて調査を行った上妻小学校東側一帯の調査では、調査前に行った踏査においても多量の須恵器片が見つかったが、8 区 SD-03 上層からは円面硯の破片が出土した。八女地区において円面硯が出土するのは、主に須恵器窯跡や古代の役所と考えられる官衙跡などの特殊な遺跡であり、その発見例も非常に少ない。今回出土した円面硯の破片は、現上妻小学校近辺に奈良時代の官衙に関係した建物跡が今後発見される可能性を示唆している。

これまで、当該地区においては発掘調査例も少なく、八女市内においても空白の地帯となっていたが、今回の調査で少なくとも弥生時代後期から古墳時代前期における様相、奈良時代前期頃の様相が予測出来るようになった。今後はここで出し得た結果を周辺地域の開発や、それに伴う発掘調査の一指針として活用して行きたいと考えている。

第5章

放射性炭素年代測定結果 報告書

(AMS 法及び β 線による放射性炭素年代測定)

八女市 早水町遺跡

応用地質株式会社九州支社

早水町遺跡における放射性炭素年代測定結果報告 (AMS 測定)

応用地質 (株) 九州支社

1 測定対象試料

測定対象試料は、早水町遺跡から出土した炭化米 2 点 (1 : IAAA-83266、2 : IAAA-83267) である。

2 測定の意義

発掘の際に、土器等が出土していないため、その年代を明らかにしたい。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA : Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液 (80°C) を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°C で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°C で 30 分、850°C で 2 時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO_2) を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4 測定方法

測定機器は、加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用する。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOxII) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polash 1977)。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。 ^{14}C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。
- (5) 暦年校正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた校正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C

濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年校正年代は、 ^{14}C 年代に対応する校正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年校正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、校正曲線および校正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年校正年代の計算に、IntCal04 データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCal v4.0 校正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

6 測定結果

炭化米の ^{14}C 年代は $2100 \pm 40\text{yrBP}$ と $2090 \pm 40\text{yrBP}$ である。2点は誤差範囲内で一致し、同時期の試料と考えられる。試料の炭素含有率はともに70%近くに達し、化学処理・測定内容にも問題が無いことから、妥当な年代と判断される。

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-83266	1	福岡県八女市早水町遺跡	炭化米	AAA	-22.00 ± 0.78	$2,100 \pm 40$	77.01 ± 0.35
IAAA-83267	2	福岡県八女市早水町遺跡	炭化米	AAA	-22.92 ± 0.71	$2,090 \pm 40$	77.13 ± 0.35

[#2842]

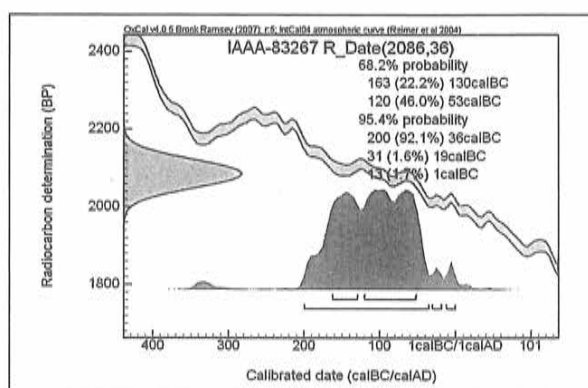
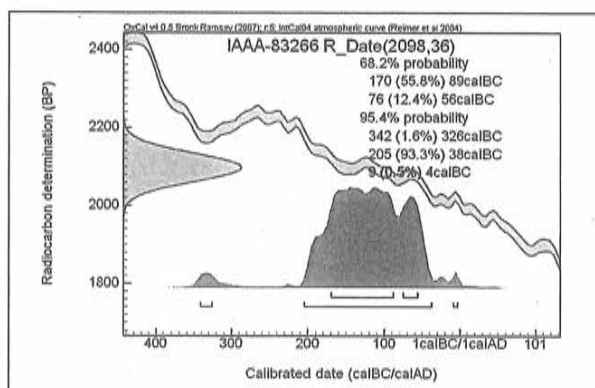
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年校正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-83266	$2,050 \pm 30$	77.48 ± 0.33	$2,098 \pm 36$	170BC - 89BC (55.8%) 76BC - 56BC (12.4%)	342BC - 326BC (1.6%) 205BC - 38BC (93.3%) 9BC - 4BC (0.5%)
IAAA-83267	$2,050 \pm 40$	77.46 ± 0.34	$2,086 \pm 36$	163BC - 130BC (22.2%) 120BC - 53BC (46.0%)	200BC - 36BC (92.1%) 31BC - 19BC (1.6%) 13BC - 1BC (1.7%)

[参考値]

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389

Reimer, P. J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0–26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029–1058



[参考]暦年較正年代グラフ

出土遺物觀察表

挿図	土器 番号	実測 番号	出土遺構	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調、胎土、焼成	備 考
1	1	8	1区1層	カメ	16			黄茶色、片岩・石英粒含む、良好	
	2	137	1区1層	カメ	18.2			暗黄褐色、片岩砂粒含む、良好	
	3	131	1区1層	カメ	16.2			淡黄褐色、片岩・赤色微粒子含む、良好	
	4	106	1区1層	カメ	17.5			暗灰茶色、片岩・石英粒子含む、良好	
	5	2	1区1層	カメ	26.6			淡灰色、片岩・赤色微粒子含む、良好	
	6	94	1区1層	カメ	28			淡灰褐色、変岩粒子多い、良好	
	7	42	1区1層	カメ	18.6			淡黄茶褐色、片岩・赤色微粒子含む、良好	
	8	130	1区1層	カメ				暗灰茶色、片岩粒子含む、良好	
	9	150	1区1層	カメ				淡黄茶色、片岩・赤色微粒子含む、良好	
	10	112	1区1層	カメ底部		7.5		淡黄茶色、片岩微粒子含む、良好	
	11	39	1区1層	ツボ底部		5.4		淡灰褐色、片岩粒子多い、良好	
	12	117	1区1層	ツボ底部		7.3		淡黄色、片岩・石英・赤色微粒子含む、良好	
2	13	164	1区1層	底部		9		淡黄茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	14	111	1区1層	底部		7		淡黄茶色、片岩・石英粒子含む、良好	
	15	30	1区1層	底部				黄茶褐色、片岩多く赤色粒子含む、良好	
	16	38	1区1層	底部		9.4		茶灰褐色、片岩多く赤色粒子含む、良好	脚付甕
	17	122	1区1層	ツボ	10			淡黄茶色、片岩粒子含む、良好	胎土精緻
	18	13	1区1層	ツボ	8.4			明茶褐色、僅かに片岩粒子含む、良好	胎土精緻
	19	121	1区1層	ツボ	12			茶灰褐色、片岩細砂流含む、良好	胎土精緻
	20	6	1区1層	ツボ	12			淡黄茶褐色、僅かに片岩砂粒含む、良好	胎土精緻
	21	9	1区1層	ツボ	19.6			淡灰褐色、片岩粒子多い、良好	
	22	149	1区1層	ツボ	20.1			淡茶褐色、片岩・赤色粒子含む、良好	
	23	119	1区1層	ツボ	20			淡黄茶色、片岩・赤色粒子含む、良好	
	24	104	1区 SD-02	ツボ	10.2		15.2	淡黄茶色、片岩・石英粒子含む、良好	不純物の付着多い
	25	93	1区1層	ツボ	17.5			明黄茶褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	26	109	1区1層	ツボ	19			淡黄茶色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	
	27	147	1区1層	鉢	9		3.9		
	28	113	1区1層	鉢	14.9				
	29	148	1区1層	鉢	16.1				
	30	23	1区1層	高坏		10.8		茶褐色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	胎土精緻、赤色斑点
	31	125	1区1層	高坏				淡黄褐色、僅かに片岩砂粒含む、良好	胎土精緻
	32	114	1区1層	高坏				淡黄褐色、僅かに片岩砂粒含む、良好	胎土精緻
	33	151	1区1層	高坏か				褐色、僅かに片岩砂粒含む、良好	外面にコの字文様
3	34	41	1区1層	支脚				淡黄褐色、片岩粒多く含む、良好	
	35	105	1区1層	匙形土製品	7.5		9	淡灰褐色、片岩・石英粒子多い、良好	柄部分 6 cm
	36	83	1区1層	ミニチュア	4.9		3	暗茶褐色、片岩粒子少量含む、良好	
	37	11	1区1層	ミニチュア	4.8		2.4	淡白茶色、片岩粒子少量含む、良好	
	38	132	1区1層	ミニチュア	6.8		4.7	淡黄褐色、片岩・赤色粒子含む、良好	
	39	101	1区1層	ミニチュア	5.1		3.2	茶褐色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	
	40	102	1区1層	ミニチュア	5.9		3.6		
	41	82	1区1層	ミニチュア	8.2			淡黄褐色、片岩・石英粒子含む、良好	
	42	86	表採	土鍾	3.6	1.2	1.2	淡茶色	4.3g
	43	87	表採	土鍾	3.8	1.3	1.1	淡茶褐色	5 g
	44	107	1区2層	カメ	15.2			淡黄茶色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	黒斑あり
	45	163	1区2層	カメ	24.7		24	褐色、片岩・石英粒子含む、良好	2地点、2-d
	46	162	1区2層	ツボ	11.8		27.9	淡黄茶色、片岩・石英粒子含む、良好	2地点、2-g
	47	92	1区2層	ツボ	22			明茶色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	
	48	10	1区2層	鉢	11.3		4.2	黄茶褐色、やや不良	2地点、2-b
	49	5	1区2層	鉢	11.6		5.7	明茶褐色、僅かに片岩粒子含む、良好	2地点、2-c
	50	161	1区2層	鉢	11.5			黄茶色、片岩・赤色微粒子含む、良好	
	51	17	1区 SD-02	鉢	13.2			淡灰茶褐色、赤色微粒子含む、良好	胎土精緻
	52	108	1区 SD-02	鉢	15.2		5	淡黄褐色、片岩・石英粒子少量含む、良好	胎土精緻
	53	21	1区2層	鉢				淡茶褐色、良好	胎土精緻
	54	63	1区2層	高坏	30.7			明茶褐色、良好	精緻、2地点、2-a
	55	26	1区2層	高坏	32			淡茶褐色、良好	精緻、2地点、2-f
	56	24	1区2層	器台				明茶褐色、片岩粒子含む、良好	
	57	61	1区2層	ミニチュア		2.8		暗灰褐色、良好	胎土精緻
	58	46	1区 SD-02	カメ	16			暗茶褐色、片岩・石英粒子含む、良好	
	59	47	1区 SD-02	カメ	18			暗黄褐色、片岩粒子多く含む、良好	
	60	18	1区 SD-02	カメ	16			暗黒褐色、片岩粒子多く赤色粒子含む、良好	
	61	19	1区 SD-02	カメ	16			淡黄褐色、片岩・赤色粒子・角閃石粒含む、良好	
	62	14	1区 SD-02	ツボ	17			黄茶褐色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	
	63	103	1区 SD-02	小型丸底壺	9.1		7.3	黄褐色、片岩細粒子多く含む、良好	胎土精緻

第1表 出土遺物観察表①

挿図	土器 番号	実測 番号	出土遺構	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調、胎土、焼成	備 考
3	64	40	1区 SD-02	小型丸底壺	11.6		11.5	淡黄茶色、良好	精緻、3地点、3-b
	65	7	1区 SD-02	小型丸底壺	13.7			淡茶色、片岩粒子少量含む、良好	
	66	90	1区 SD-02	ツボ	15			淡白褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	67	91	1区 SD-02	ツボ	16.1			明黄茶褐色、片岩粒子僅かに含む、良好	
	68	44	1区 SD-02	ツボ	17.8		33.8	暗灰褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	3地点、3-h
	69	70	1区 SD-02	ツボ底部		5.1		暗黄茶褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	70	67	1区 SD-02	ツボ底部		7.5		暗茶褐色、片岩・石英粒子含む、良好	
	71	25	1区 SD-02	高坏	18.6			淡茶褐色、良好	胎土精緻
	72	68	1区 SD-02	器台		16		黄茶褐色、片岩・石英粒子含む、良好	
	73	69	1区 SD-02	鉢	12.4		4.8	暗茶褐色、片岩・石英粒子含む、良好	
4	74	66	1区 SD-02	支脚				黄灰褐色、片岩多く赤色粒子含む、良好	
	75	75	1区 SB-01	カメ	12			淡白茶褐色、良好	胎土精緻
	76	16	1区 SB-02	カメ	13.7			淡黄褐色、良好	胎土精緻
	77	143	1区 SP-03	高坏	12.6			茶褐色、片岩微粒子含む、良好	
	78	71	1区 SB-01	高坏		14.6		淡茶褐色、片岩多く赤色粒子少量含む、良好	P-1出土
	79	47	2区1層	カメ	12.6			淡白茶褐色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	
	80	11	2区1層	カメ	18.1			明茶褐色、片岩粒子多く含む、良好	
	81	132	2区1層	カメ	26.3			黄茶褐色、片岩細砂粒含む、良好	
	82	128	2区1層	カメ	25.9			淡茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	83	210	2区1層	カメ底部				暗茶褐色、片岩粒子少量含む、良好	
	84	19	2区1層	カメ底部		6.3		淡灰褐色、片岩・石英粒子多い、良好	
	85	18	2区1層	カメ底部		6.2		淡灰褐色、片岩・石英粒子多い、良好	
	86	30	2区1層	ツボ	16.2			淡茶色、片岩粒子多く含む、良好	
	87	138	2区1層	ツボ	10			淡黄色、片岩・赤色微粒子含む、良好	胎土精緻
	88	60	2区1層	ツボ	11			暗灰褐色、片岩細砂粒多く含む、良好	
	89	53	2区1層	無頸壺	8.4			淡黄褐色、片岩・石英粒子多い、良好	
	90	61	2区1層	ツボ底部				暗茶褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	91	131	2区1層	ツボ底部				淡灰茶色、片岩粒子多い、良好	
	92	17	2区1層	ツボ底部		8		淡茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	93	37	2区1層	ツボ底部		8.5		茶灰褐色、片岩粒子少量含む、良好	
	94	40	2区1層	ツボ?				淡灰色、片岩・石英粒子多い、良好	外面に×の線刻
	95	59	2区1層	ミニチュア?		3.4		茶褐色、片岩細砂粒多く含む、良好	ミニチュアのツボ?
	96	71	2区1層	ミニチュア		3.2		淡茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
5	97	51	2区1層	鉢	11.8		5.2	淡茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	98	62	2区1層	鉢	10			暗灰褐色、片岩粒子多く含む、良好	
	99	28	2区1層	鉢	22			淡白茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	100	140	2区1層	鉢	19			淡茶褐色、片岩砂粒含む、良好	
	101	56	2区1層	鉢	15.9			淡茶褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	102	139	2区1層	高坏				淡黄色、片岩微粒子含む、良好	胎土精緻
	103	50	2区1層	高坏	28.5			淡灰茶褐色、片岩・石英細砂粒含む、良好	丹塗り
	104	65	2区1層	支脚		12.1	10.5	黄茶褐色、片岩粒多く含む、良好	
	105	68	2区1層	支脚		10.9	9.8	黄茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	106	54	2区1層	ミニチュア	5		2.9	淡茶褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	107	52	2区1層	ミニチュア	6.5		4.8	淡灰褐色、片岩細砂粒多く含む、良好	
	108	66	2区1層	ミニチュア	5.4			茶褐色、片岩・石英粒子含む、良好	
	109	55	2区1層	ミニチュア	7.1	2.8	4.2	淡茶色、良好	胎土精緻
	110	179	2区1層	匙形土製品				淡黄茶色、片岩微粒子含む、良好	1/2残存
	111	180	2区1層	匙形土製品				淡黄茶色、片岩微粒子含む、良好	1/2残存
	112	178	2区1層	円盤形土製品				淡黄褐色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	
	113	83	2区2層	カメ	16.4	6.1	16.2	黄茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	114	32	2区2層	カメ底部		8.6		黄茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	115	207	2区2層	無頸壺	16.9			淡黄褐色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	
	116	109	2区2層	ツボ底部		8.8		淡黄褐色、片岩・赤色粒子含む、良好	
	117	85	2区2層	器台	18.1	13.4	19.3	淡黄褐色、片岩・赤色粒子含む、良好	
	118	100	2区2層	ミニチュア	6.6			黄茶褐色、片岩・石英粒少量含む、良好	
	119	89	2区2層	ミニチュア	5	2.3	2.3	淡黄褐色、片岩・石英粒子少量含む、良好	
	120	87	2区2層	ミニチュア				淡黄褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	121	88	2区2層	ミニチュア?		4.2		茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	122	204	2区2層	鐔形土製品				茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	123	42	2区2層	土鍾	3.9	1.2	1	淡灰褐色	
	124	48	2区3層	カメ	25.4			暗茶褐色、片岩・石英粒子含む、良好	
	125	151	2区3層	カメ	28			茶色、片岩細砂粒含む、良好	
	126	49	2区3層	カメ	29.5			黄茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	

第1表 出土遺物観察表②

挿図	土器 番号	実測 番号	出土遺構	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調、胎土、焼成	備 考
5	127	164	2区3層	カメ?		7.5		淡黄褐色、片岩細砂粒多く含む、良好	
	128	102	2区3層	支脚	7	10.3	8.6	淡黄褐色、片岩砂粒多く含む、良好	
	129	163	2区3層	ミニチュア				褐色、片岩微粒子含む、良好	
	130	162	2区3層	ミニチュア	7.2		2.7	淡黄褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	131	201	2区3層	鉢		2.2		灰褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	132	96	2区3層	鉢	9.2		6.6	茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、やや不良	
	133	94	2区3層	鉢	9.1		4.7	黄茶褐色、片岩・石英粒少量含む、良好	
	134	99	2区3層	鉢	9.2			黄茶褐色、片岩粒子少量含む、良好	
	135	130	2区4層	カメ	27.2			淡茶褐色、片岩・石英・赤色微粒子含む、良好	
	136	154	2区4層	カメ底部		5		淡茶褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	137	153	2区4層	カメ底部		6		淡茶灰色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	138	155	2区4層	カメ底部		2.8		褐色、片岩微粒子少量含む、良好	胎土精緻
	139	126	2区4層	ツボ	13.6			淡茶褐色、片岩砂粒多く含む、良好	
	140	135	2区4層	ツボ底部		5		淡黄褐色、片岩・石英・角閃石多く含む、良好	
	141	181	2区4層	無頸壺	7.5		10.5	淡茶褐色、片岩微粒子含む、良好	
	142	134	2区4層	鉢	18			淡黄茶色、片岩・石英細砂粒含む、良好	
6	143	29	2区SB-01	カメ	13.5	3.2	20.3	暗茶褐色、片岩・石英細砂粒多く含む、良好	
	144	113	2区SB-01	ツボ	13.9			淡茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	145	105	2区SB-01	ツボ		1.5		淡黄褐色、片岩細砂粒含む、良好	
	146	114	2区SB-01	ツボ		4.3		茶灰褐色、片岩砂粒含む、良好	
	147	212	2区SB-01	ツボ	19.2			黄茶褐色、良好、山陰系二重口縁壺	胎土精緻
	148	117	2区SB-01	脚付高坏	21.5			淡灰黄茶色、多量の片岩・石英粒含む、良好	
	149	43	2区SB-01	器台				淡茶褐色、良好、脚部に10以上の孔あり	胎土精緻
	150	148	2区SB-02	高坏		13.2		淡黄褐色、片岩・赤色砂粒多く含む、良好	
	151	150	2区SB-03	カメ底部		4.6		淡茶色、片岩細砂粒含む、良好	
	152	127	2区SB-03	カメ	24.3			淡黄茶褐色、片岩・角閃石砂粒多く含む、良好	
	153	77	2区SK-01	鉢	9.2			黄茶褐色、良好	胎土精緻
	154	125	2区SK-03	鉢	9.7			淡茶色、片岩・角閃石砂粒多く含む、良好	
	155	41	2区SX-02	高坏?		11.8		淡茶褐色、良好	胎土精緻
	156	121	2区SX-02	鉢	14			淡黄褐色、片岩細砂粒含む、良好	土器No. 1
	157	174	2区SX-01	カメ	22			黄褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	158	176	2区SX-01	カメ	28.1			黄褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
	159	206	2区SX-01	カメ底部				暗茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
7	160	12	2区SX-01	カメ	25			暗茶灰褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	土器No. 1
	161	175	2区SX-01	カメ	24			淡黄茶色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	162	173	2区SX-01	ツボ	12.1			淡茶褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
	163	205	2区SX-01	ツボ	17.2			淡黄褐色、片岩粒子多く含む、良好	
	164	169	2区SX-01	ツボ	19.3			淡黄茶褐色、片岩砂粒多く含む、良好	
	165	40	5区SD-02	カメ	21			淡黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	166	7	5区SD-02	カメ	26.4			茶灰色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
	167	5	5区SD-02	カメ	27.2			淡茶褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
8	168	133	5区SD-02	カメ	13.7			暗茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	169	106	5区SD-02	カメ	15.1	4.9	33.6	黄茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	170	9	5区SD-02	カメ	23.7			淡黄茶色、片岩・石英・角閃石粒子含む、良好	
	171	33	5区SD-02	カメ	30			暗灰茶色、片岩・角閃石砂粒多く含む、良好	
	172	101	5区SD-02	カメ	17.2	5.4	24.5	淡黄灰褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	173	175	5区SD-02	カメ	15.7			暗茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	174	2	5区SD-02	カメ	14.7	6.8	26.1	淡黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	175	58	5区SD-02	カメ	18.5			淡黄茶色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	176	48	5区SD-02	カメ	22.5			淡黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	177	104	5区SD-02	カメ	32.2	7.8	35	黄茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	178	45	5区SD-02	ツボ				淡黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	179	8	5区SD-02	ツボ	21.7			淡黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
9	180	59	5区SD-02	ツボ	15.3			淡黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	181	37	5区SD-02	ツボ	16.5			淡黄褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
	182	4	5区SD-02	ツボ	20.5			黄褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
	183	43	5区SD-02	ツボ	16.7			淡黄褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
	184	11	5区SD-02	ツボ	26.5			黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	185	141	5区SD-02	ツボ	14.3			淡白茶色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	186	143	5区SD-02	ツボ	11.2			暗黒灰褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	187	116	5区SD-02	ツボ	19.3			茶褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	188	10	5区SD-02	ツボ	18.5	5.3	31.1	淡黄褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	底部外面に「×」
	189	132	5区SD-02	ツボ底部				淡黄灰褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	底部外面に「×」

第1表 出土遺物観察表③

挿図	土器 番号	実測 番号	出土遺構	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調、胎土、焼成	備 考
9	190	32	5区SD-02	ツボ	16.3			淡黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	191	17	5区SD-02	ツボ	16.8			淡茶灰色、片岩・赤色・角閃石砂粒含む、良好	
	192	105	5区SD-02	ツボ	16.2			淡黄灰褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
10	193	121	5区SD-02	カメ底部		7.8		淡灰褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	194	3	5区SD-02	カメ底部		6.5		茶灰色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	195	140	5区SD-02	カメ底部		6		明黄茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	196	102	5区SD-02	カメ底部		9.6		暗灰褐色、片岩・石英砂粒含む、やや不良	
	197	117	5区SD-02	カメ底部		7.8		茶灰褐色、片岩粒多い、良好	
	198	118	5区SD-02	カメ底部		8.2		茶褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	199	55	5区SD-02	カメ底部		5		淡灰褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
	200	125	5区SD-02	カメ底部		7.4		黄茶褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	201	122	5区SD-02	カメ底部		4.2		茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	202	23	5区SD-02	カメ底部		5.6		茶褐色、片岩粒多い、良好	
	203	123	5区SD-02	ツボ底部		4		暗灰褐色、片岩・石英砂粒含む、やや不良	
	204	51	5区SD-02	ツボ底部		8.5		淡茶灰色、片岩・石英細砂粒含む、良好	
	205	158	5区SD-02	ツボ底部				黄茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	206	147	5区SD-02	ツボ底部				淡茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	207	12	5区SD-02	器台	15.2	14.2	19.5	灰茶色、片岩砂粒含む、良好	ほぼ完形品
	208	107	5区SD-02	器台	15	15.4	19.9	暗灰褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	ほぼ完形品
	209	16	5区SD-02	器台	16.1	16	20.4	淡茶褐色、片岩・角閃石細砂粒含む、良好	
11	210	114	5区SD-02	器台	15.2	14.3	20.8	暗茶褐色、片岩・石英細砂粒含む、良好	ほぼ完形品
	211	15	5区SD-02	器台	16.7	15.1	20.4	淡茶褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	212	111	5区SD-02	器台	16.6	17	21.2	淡黄茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	213	109	5区SD-02	器台	17.2	16.9	21	暗茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	214	108	5区SD-02	器台	13.6	15.3	21.3	黄茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	ほぼ完形品
	215	115	5区SD-02	器台	14.9	14.9	20.7	黄茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	ほぼ完形品
	216	112	5区SD-02	器台	16.8	19.8	22.7	黄茶褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	内面内側に帯状突起
	217	18	5区SD-02	器台	16.5	18.8	24.4	黄茶褐色、片岩・赤色砂粒・角閃石含む、良好	ほぼ完形品
	218	13	5区SD-02	器台	20.7	20.1	24.1	淡黄褐色、片岩・石英・赤色細砂粒含む、良好	
	219	113	5区SD-02	器台	19.2	16.1	23.6	黄茶褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	220	148	5区SD-02	鉢	12.5		5	暗茶灰褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	221	149	5区SD-02	鉢	15.9		5.9	黒褐色、良好	胎土精緻
	222	27	5区SD-02	鉢	13.3		7.4	淡黄褐色、片岩・石英・角閃石砂粒含む、良好	
	223	35	5区SD-02	鉢	20.8	4.4	10.7	淡灰茶色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	224	130	5区SD-02	鉢	22.1			暗茶褐色、片岩・石英細砂粒多く含む、良好	
	225	135	5区SD-02	鉢	21.8			黄茶褐色、片岩・石英粒少量含む、良好	
	226	134	5区SD-02	鉢	14.4			淡黄褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
12	227	25	5区SD-02	高坏	24			淡灰色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	228	154	5区SD-02	高坏	28			淡茶褐色、片岩・石英粒子含む、やや不良	
	229	155	5区SD-02	高坏	32			淡白茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	230	127	5区SD-02	高坏脚部		21.8		淡灰茶褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	231	31	5区SD-02	高坏脚部		19.1		淡黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	232	6	5区SD-02	甗	17.7	4	13.8	淡黄褐色、片岩砂粒多く含む、良好	焼成後突孔
	233	34	5区SD-02	甗	18.3		13.5	淡黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	234	24	5区SD-02	甗		5		淡黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	焼成前突孔
	235	156	5区SD-02	支脚	11.3		8.9	淡茶褐色、良好	胎土精緻
	236	145	5区SD-02	支脚		10.8	9	淡黄茶褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	ほぼ完形品
	237	54	5区SD-02	支脚		13.3	9.5	淡灰茶色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	238	153	5区SD-02	支脚		11.5	10	黄茶褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	ほぼ完形品
	239	69	5区SD-05	須恵器坏身				淡灰色、良好	第6・7層中
	240	71	5区SD-05	須恵器蓋				黄褐色、片岩粒子少量含む、良好	第6・7層中
	241	65	5区SD-05	カメ				茶色、片岩細砂粒含む、良好	第7層中
	242	66	5区SD-05	カメ底部				黄茶色、片岩細砂粒含む、良好	第7層中
	243	67	5区SD-05	坏				淡灰褐色、片岩砂粒少量含む、良好	瓦器?第7d層中
13	244	68	5区SD-05	須恵器坏身				淡褐色、良好	胎土精緻
	245	169	5区SD-06	カメ	27.6			黄茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	246	74	5区SD-06	カメ底部?		7		淡黄茶色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	247	76	5区SD-06	青磁碗				釉調:光沢ある淡茶灰色	
	248	63	5区SB-01	カメ	26			茶褐色、片岩細砂粒多く含む、良好	
	249	163	5区SB-01	カメ	13.9			茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	250	162	5区SB-01	カメ				淡黄褐色、片岩細砂粒多く含む、良好	
	251	166	5区SB-01	カメ底部		7.6		淡黄褐色、片岩・石英砂粒僅かに含む、良好	
	252	164	5区SB-01	ツボ?				茶褐色、片岩・石英細砂粒含む、良好	

第1表 出土遺物観察表④

挿図	土器 番号	実測 番号	出土遺構	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調、胎土、焼成	備 考
13	253	167	5区SB-01	鉢	24.3			明黄茶褐色、片岩・石英・赤色微粒含む、良好	
	254	161	5区SB-01	高坏				黄茶褐色、良好	胎土精緻
	255	168	5区SB-01	匙形土製品	長4.9	幅3.5		淡茶褐色、片岩・石英粒少量含む、良好	
	256	64	5区SK-02	器台	20.8			淡黄褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	257	172	5区SX-01	カメ底部		7.8		暗茶褐色、片岩・石英粒多く含む、良好	
	258	171	5区SX-01	カメ底部		7		淡茶褐色、片岩砂粒多く含む、良好	
	259	174	5区SX-01			8.6		釉調：光沢有り、透明度無し、緑灰色	青磁
	260	1	6区表探	椀				釉調：光沢ある青白色	染付
	261	2	6区1T	椀				釉調：光沢有り、透明度低い、青白色	染付
	262	7	7区SD-02	須恵器坏蓋				灰色、良好	胎土精緻
	263	53	7区SD-02	須恵器坏身		9.3		淡灰色、黒色粒子あり、良好	高台付
	264	56	7区SD-02	須恵器坏身				淡灰色、片岩細砂粒少量含む、良好	高台付
	265	55	7区SD-02	須恵器坏身				淡灰色、片岩細砂粒少量含む、良好	高台付
14	266	51	7区SD-02	坏身	15			淡茶褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	模倣須恵器
	267	8	7区SD-02	須恵器坏身				淡青灰色、良好	胎土精緻
	268	52	7区SD-02	提瓶?		12.7		灰色、片岩砂粒少量含む、良好	
	269	1	7区SK-02A	須恵器坏蓋	14			暗灰色、良好	胎土精緻
	270	2	7区SK-02B	須恵器坏蓋				青灰色、黒色粒子あり、良好	
	271	3	7区SK-02B	須恵器坏蓋				淡灰色、良好	胎土精緻
	272	4	7区SX-02	須恵器坏身		10		淡青灰色、良好	胎土精緻
	273	11	7区Aトレンチ	須恵器坏蓋	8			淡灰色、黒色粒子あり、良好	胎土精緻
	274	4	7区Aトレンチ上層	須恵器坏身				淡青灰色、少量の砂粒、良好	高台付
	275	76	8区SD-03中層	カメ	14.4			淡褐色、片岩・石英粒少量含む、良好	
	276	20	8区SD-03中層	カメ	15.6			暗茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	277	78	8区SD-03中層	カメ	19			淡白褐色、片岩、赤色砂粒少量含む、良好	
	278	64	8区SD-03中層	カメ	13.7	4	11.5	暗茶褐色、片岩砂粒含む、良好	
	279	9	8区SD-03中層	カメ	14.7		16.5	淡茶灰褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	280	54	8区SD-03中層	カメ	15.8			淡茶色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	281	77	8区SD-03中層	カメ	15.8			淡黄茶色、片岩細砂粒含む、良好	
	282	10	8区SD-03中層	ツボ	10.7		20.5	暗茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	283	26	8区SD-03中層	ツボ	18.1		27.7	淡白茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	284	56	8区SD-03中層	ツボ	12.8		14.4	茶灰色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	285	73	8区SD-03中層	ツボ	13			淡茶色、片岩砂粒少量含む、良好	
15	286	15	8区SD-03中層	ツボ	12.7			淡茶褐色、良好	胎土精緻
	287	55	8区SD-03中層	ツボ	12.8		21.6	褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	288	66	8区SD-03中層	ツボ				淡褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	289	59	8区SD-03中層	小型丸底壺	7.6		6.7	淡褐色、片岩砂粒少量含む、良好	
	290	28	8区SD-03中層	小型丸底壺				淡茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	291	11	8区SD-03中層	高坏	12.5			明茶褐色、良好	胎土精緻
	292	16	8区SD-03中層	高坏脚部		9		明茶褐色、良好	胎土精緻
	293	12	8区SD-03中層	高坏脚部		9		黄茶褐色、砂粒少量含む、良好	
	294	27	8区SD-03中層	高坏脚部		10.1		明茶褐色、片岩・石英砂粒少量含む、良好	
	295	24	8区SD-03中層	高坏脚部		9.1		黄茶褐色、片岩砂粒少量含む、良好	
	296	25	8区SD-03中層	小型器台		7.5		明茶色、赤色粒子少量含む、良好	胎土精緻
	297	71	8区SD-03中層	鉢	13		4.7	褐色、片岩微粒子・赤色砂粒含む、良好	
	298	63	8区SD-03中層	鉢	12.5			淡褐色、片岩砂粒・赤色細砂粒含む、良好	
	299	67	8区SD-03中層	鉢	12.2			淡黄褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	300	18	8区SD-03中層	鉢	14.5			明茶褐色、良好	胎土精緻
	301	60	8区SD-03中層	鉢	16.2			褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	302	61	8区SD-03中層	鉢	18.4		6.5	明褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
	303	29	8区SD-03中層	鉢	12			茶褐色、片岩粒子少量含む、良好	
	304	70	8区SD-03中層	鉢	12.8		5.4	淡茶褐色、片岩・赤色砂粒少量含む、良好	
	305	62	8区SD-03中層	鉢	13.4			明褐色、片岩・赤色砂粒少量含む、良好	
16	306	51	8区SD-03中層	鉢	15		6.1	淡黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	ほぼ完形品
	307	52	8区SD-03中層	鉢	16.6		6.1	黄茶褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	308	72	8区SD-03中層	鉢	15.8		4.9	黄茶色、片岩細砂粒含む、良好	
	309	65	8区SD-03中層	鉢	8.6		7.8	淡褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	310	57	8区SD-03中層	鉢	11.3		7	淡黄褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	311	19	8区SD-03中層	鉢	14.3		8.7	明茶褐色、片岩・石英粒子多く含む、良好	
	312	58	8区SD-03中層	鉢	10.2	4.5	5.8	茶灰色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	313	23	8区SD-03中層	鉢	15.8			淡白褐色、赤色粒子含む、良好	
	314	68	8区SD-03中層	脚付鉢	13.8	9	10	茶褐色、片岩砂粒含む、良好	
	315	4	8区SD-03第3層	ミニチュア	5.2			明茶色、片岩砂粒・石英粒含む、良好	

第1表 出土遺物観察表⑤

挿図	土器 番号	実測 番号	出土遺構	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調、胎土、焼成	備 考
16	316	69	8区SD-03第3層	ミニチュア	7.6			淡黄褐色、片岩砂粒含む、良好	
	317	2	8区SD-03第3層	ミニチュア	3.5		1.6	淡茶色、良好	胎土精緻
	318	3	8区SD-03第3層	ミニチュア	4		1.8	片岩・石英粒少量含む、良好	黒斑あり
	319	5	8区SD-03第3層	ミニチュア	3.8		2	黄茶色、良好	胎土精緻
	320	1	8区SD-03第3層	ミニチュア	4.5	2.8	2.9	淡黄茶色、片岩・石英粒子少量含む、良好	
	321	6	8区SD-03第3層	ミニチュア	4.2			淡茶色、良好	胎土精緻
17	322	7	8区SD-03第3層	土製模造鏡	3.4		1.5	淡茶色、片岩・石英粒少量含む、良好	
	323	53	8区SD-03第3層	鉢	9.7	4.3	5.6	明黄褐色、石英砂粒多く含む、良好	外底面に木の葉文様
	324	8	8区SD-03第3層	石製紡錘車	4		1.2	重さ40g	
	325	31	8区SP-02	土製丸玉	1.9		1.6	淡茶色	
18	326	79	8区SD-03上層	須恵器坏蓋				灰色、黒色・赤色微粒子あり、良好	胎土精緻
	327	81	8区SD-03上層	須恵器高坏				灰色、黒色・赤色微粒子あり、良好	胎土精緻
	328	82	8区SD-03上層	円面硯				灰色、黒色・赤色微粒子あり、良好	胎土精緻
19	329	4	早水町A区SB-02	カメ	37.5			淡白黄褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	No. 1
	330	3	早水町A区SB-02	カメ	33.9			淡黄茶褐色、片岩砂粒含む、良好	
	331	2	早水町A区SB-02	カメ底部		11.1		黄茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	332	14	早水町A区SB-02	土製模造鏡	4.5		1.4	淡黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	P-1出土
	333	7	早水町A区SB-04	カメ				淡黄褐色、微砂粒含む、良好	
	334	6	早水町A区SB-04	カメ底部		9.3		淡黄茶色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	K-1出土
	335	11	早水町A区SB-05	ツボ	17.8			淡黄褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	焼土検出面出土
	336	9	早水町A区SB-05	須恵器坏身	12.9		4.1	淡灰色、片岩砂粒含む、良好	焼土検出面出土
	337	15	早水町A区SX-02	カメ	30			淡茶色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	No. 1
	338	18	早水町A区SX-02	カメ	33.9			茶色、片岩細砂粒含む、良好	下層出土
	339	16	早水町A区SX-02	カメ	22			淡黄茶色、片岩・石英細砂粒含む、良好	中層出土
	340	28	早水町A区SX-02	ツボ	44			淡褐色、片岩・角閃石細砂粒含む、良好	中層出土、丹塗り
	341	20	早水町A区SX-02	カメ底部		9.3		淡黄茶色、片岩砂粒多く含む、良好	下層出土
	342	13	早水町A区SX-02	カメ底部		9.5		黄茶褐色、微砂粒含む、良好	下層出土
20	343	24	早水町A区SX-02	高坏脚部				淡黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	No. 1、焼成後突孔
	344	12	早水町A区SX-02	高坏脚部		10.5		明茶褐色、良好	胎土精緻
	345	10	早水町A区SK-01	カメ				暗茶褐色、微砂粒含む、良好	
	346	23	早水町A区SX-03	坏身				淡茶色、片岩微粒子・赤色細砂粒含む、良好	模倣須恵器
	347	21	早水町A区SX-03	須恵器坏身	13.3	8.1	4.1	淡灰茶色、片岩砂粒含む、良好	No. 1
	348	26	早水町A区SD-05	須恵器坏身				淡青灰色、良好	胎土精緻
	349	27	早水町A区SD-05	須恵器坏蓋	11.9			淡青灰色、良好	胎土精緻
	350	156	栗ノ内A区SB-01	鉢?				黄茶褐色、片岩・赤色粒子多く含む、良好	
	351	113	栗ノ内A区SB-02	カメ	15.8		24.7	黄茶褐色、片岩・石英粒少量含む、良好	No. 2
	352	4	栗ノ内A区SB-02	カメ	16.3		23.5	淡茶灰色、片岩細砂粒含む、良好	No. 1
	353	101	栗ノ内A区SB-02	カメ	17.6		29.2	淡茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	No. 1
	354	169	栗ノ内A区SB-03	カメ	16			暗茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	355	168	栗ノ内A区SB-03	カメ底部		4.4		黄茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	356	10	栗ノ内A区SB-04	カメ	17.9			黄茶色、片岩・赤色砂粒含む、良好	P-2出土
	357	178	栗ノ内A区SB-04	カメ底部		9.3		淡白褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	No. 2
	358	11	栗ノ内A区SB-04	カメ底部		5.7		暗黄褐色、片岩砂粒含む、良好	P-2出土
	359	64	栗ノ内A区SB-04	高坏脚部		22		褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	360	65	栗ノ内A区SB-04	土製紡錘車	4.6		0.8	黄褐色、片岩細砂粒含む、良好	
	361	172	栗ノ内A区SB-06	鉢	13.8			茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	No. 1
	362	171	栗ノ内A区SB-06	鉢?				黄茶褐色、片岩・石英砂粒少量含む、良好	No. 1
	363	173	栗ノ内A区SB-06	高坏脚部				黄茶褐色、良好	胎土精緻、No. 1
21	364	45	// SB-06,SK-07	カメ	18			暗茶色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	365	49	// SB-06,SK-07	カメ				淡黄茶色、片岩細砂粒含む、良好	
	366	46	// SB-06,SK-07	小型丸底壺				黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	367	47	// SB-06,SK-07	ツボ	5.3	3.5	7.5	黄茶色、片岩細砂粒含む、良好	
	368	177	// SB-06,SK-07	甗?				黄灰褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	369	48	// SB-06,SK-07	高坏脚部		12.7		褐色、片岩・赤色粒子少量含む、良好	胎土精緻
	370	176	// SB-06,SK-07	高坏脚部				暗茶褐色、良好	胎土精緻
	371	1	栗ノ内A区SK-01	カメ	22.8	5.5	35.5	淡茶褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	372	62	栗ノ内A区SK-04	カメ底部		6		淡黄褐色、片岩砂粒多く含む、良好	
	373	63	栗ノ内A区SK-04	高坏脚部				灰茶色、片岩細砂粒含む、良好	
	374	61	栗ノ内A区SK-07	甗				黄褐色、片岩・赤色・角閃石細砂粒含む、良好	
	375	170	栗ノ内A区SK-08	鉢	17.9		6.95	黄茶褐色、良好	胎土精緻
	376	190	栗ノ内A区SK-08	カメ底部		9		明茶褐色、片岩・石英砂粒少量含む、良好	
	377	58	栗ノ内A区SD-01	カメ	21.9			暗茶色、片岩砂粒多く含む、良好	
	378	57	栗ノ内A区SD-01	カメ底部				淡黄茶色、片岩・赤色砂粒多く含む、良好	

第1表 出土遺物観察表⑥

挿図	土器 番号	実測 番号	出土遺構	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調、胎土、焼成	備 考
21	379	59	栗ノ内A区SD-01	カメ底部		3		淡茶色、片岩細砂粒含む、良好	
	380	203	栗ノ内A区SX-01	ツボ	10.3		9.2	茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	C群
	381	37	栗ノ内A区SP-09	カメ	18.4			淡黄褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
22	382	126	栗ノ内A区包含層	カメ	13.7			茶灰褐色、微砂粒僅かに含む、良好	
	383	117	栗ノ内A区包含層	カメ	17.6			淡灰褐色、良好	胎土精緻
	384	127	栗ノ内A区包含層	カメ	15.8			暗茶褐色、片岩粒子少量含む、良好	
	385	110	栗ノ内A区包含層	カメ底部		6.4		暗茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	386	120	〃 包含層第2層	鉢?		4		黒色、細砂粒少量含む、良好	
	387	128	栗ノ内A区包含層	高坏				茶褐色、片岩粒子少量含む、良好	
	388	137	栗ノ内A区包含層	高坏脚部				明茶褐色、良好	胎土精緻
	389	138	栗ノ内A区包含層	高坏脚部		12.9		淡茶褐色、良好	胎土精緻
	390	107	栗ノ内A区包含層	鉢	20			淡白黄褐色、片岩・赤色砂粒少量含む、良好	
	391	118	栗ノ内A区包含層	小型丸底壺	9			黒褐色、片岩砂粒少量含む、良好	
	392	41	栗ノ内A区包含層	把手				淡茶色、片岩・角閃石微粒子含む、良好	
	393	135	栗ノ内A区包含層	ミニチュア				黄茶褐色、良好	胎土精緻
	394	136	栗ノ内A区包含層	ミニチュア				淡白褐色、片岩・石英粒子僅かに含む、良好	
	395	29	〃 包含層第1層	カメ	13.7			淡褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	396	27	〃 包含層第1層	カメ	16.9			淡黄褐色、片岩砂粒含む、良好	
	397	28	〃 包含層第1層	カメ	16.3			淡茶色、片岩砂粒含む、良好	
	398	30	〃 包含層第1層	カメ	15.4			淡黄褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
	399	14	〃 包含層第1層	カメ	15.6			黄茶色、片岩砂粒含む、良好	
	400	162	〃 包含層第1層	カメ	15			黄茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	401	165	〃 包含層第1層	カメ	19			茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	402	13	〃 包含層第1層	ツボ	11.8		11.4	淡黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
	403	22	〃 包含層第1層	カメ底部		9.4		淡黄褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
	404	39	〃 包含層第1層	ツボ	14.8			淡黄茶色、片岩・角閃石細砂粒含む、良好	
	405	167	〃 包含層第1層	ツボ	11.3			黄茶褐色、微砂粒少量含む、良好	
	406	139	〃 包含層第1層	ツボ	15.4			淡黄茶褐色、片岩・石英砂粒少量含む、良好	
	407	142	〃 包含層第1層	ツボ	12.2			黄茶褐色、良好	胎土精緻
	408	24	〃 包含層第1層	ツボ底部		4.4		淡黄茶色、片岩砂粒含む、良好	
	409	23	〃 包含層第1層	ツボ底部		5		黄褐色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	
23	410	42	〃 包含層第1層	ツボ底部		4.3		淡茶褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	411	166	〃 包含層第1層	ツボ底部				黄茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	412	25	〃 包含層第1層	ツボ底部				淡黄茶色、片岩・角閃石砂粒含む、良好	
	413	163	〃 包含層第1層	高坏	31.8			茶褐色、良好	胎土精緻
	414	38	〃 包含層第1層	高坏	19.4	12.6	13.7	淡黄褐色、片岩・赤色砂粒含む、良好	
	415	43	〃 包含層第1層	高坏脚部		12.5		黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	416	12	〃 包含層第1層	鉢	9.8		3.8	褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	417	9	〃 包含層第1層	鉢	11.3		6	褐色、片岩・赤色砂粒少量含む、良好	
	418	33	〃 包含層第1層	高坏脚部				褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	直径2mmの突孔あり
	419	35	〃 包含層第1層	把手状土製品				黄茶褐色、片岩砂粒多く含む、良好	
	420	34	〃 包含層第1層	把手状土製品				淡黄褐色、片岩・角閃石・赤色砂粒含む、良好	
	421	151	〃 包含層第2層	カメ	16			淡茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	422	52	〃 包含層第2層	カメ	16.3			茶褐色、片岩砂粒含む、良好	
	423	149	〃 包含層第2層	カメ	13.9			淡黄茶褐色、片岩・赤色砂粒少量含む、良好	
	424	105	〃 包含層第2層	カメ	15.4			淡茶褐色、片岩砂粒少量含む、良好	
	425	51	〃 包含層第2層	カメ	32.8			淡茶褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	426	114	〃 包含層第2層	カメ	16.4			暗茶褐色、片岩・石英砂粒少量含む、良好	
	427	7	〃 包含層第2層	カメ	13.8			淡黄茶色、片岩・角閃石細砂粒含む、良好	
	428	54	〃 包含層第2層	カメ				淡黄茶色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	429	104	〃 包含層第2層	ツボ	19.5			淡白黄褐色、片岩・赤色粒子少量含む、良好	
	430	15	〃 包含層第2層	ツボ	16.2			暗茶色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	431	119	〃 包含層第2層	ツボ	9.9			暗灰褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	432	102	〃 包含層第2層	小型丸底壺	5.4		8.4	茶褐色、赤色粒子少量含む、良好	
24	433	185	〃 包含層第2層	カメ底部		8.8		黄茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	434	148	〃 包含層第2層	ツボ底部		4.5		黄茶褐色、良好	胎土精緻
	435	16	〃 包含層第2層	ツボ底部				暗茶色、片岩・角閃石細砂粒含む、良好	
	436	115	〃 包含層第2層	ツボ底部				黄茶褐色、細砂粒少量含む、良好	
	437	53	〃 包含層第2層	ツボ底部				茶色、片岩細砂粒含む、良好	
	438	189	〃 包含層第2層	鉢	34			暗茶褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	439	3	〃 包含層第2層	鉢	8	5.5	5.5	黄褐色、片岩砂粒含む、良好	不純物の付着多い
	440	17	〃 包含層第2層	鉢	14.6			淡黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	441	188	〃 包含層第2層	高坏	20.5			明茶褐色、片岩・石英砂粒少量含む、良好	

第1表 出土遺物観察表 ㉗

挿図	土器 番号	実測 番号	出土遺構	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調、胎土、焼成	備 考
24	442	21	// 包含層第2層	高坏				明褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	443	184	// 包含層第2層	甌?		2.9		淡茶褐色、良好	胎土精緻
	444	187	// 包含層第2層	甌?		3.7		淡黄茶褐色、良好	胎土精緻
	445	121	// 包含層第2層	ツボ	11.9		9.6	黄茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	底部に突孔
	446	40	// 包含層第2層	把手	長9.6	幅4.8		淡黄褐色、片岩・角閃石細砂粒含む、良好	
	447	183	// 包含層第2層	ミニチュア	8.3		4.6	黄灰褐色、片岩・石英細砂粒含む、良好	ほぼ完形品
	448	209	栗ノ内A区SB-08	カメ	15.7			黄茶褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	449	210	栗ノ内A区SB-08	高坏				暗茶褐色、良好	胎土精緻
	450	211	栗ノ内A区SB-08	高坏				黄茶褐色、良好	胎土精緻
	451	79	栗ノ内A区SB-08	器台	14	14.8	15.2	茶褐色、片岩砂粒多く含む、良好	
	452	81	栗ノ内A区SB-09	小型丸底壺	5.7		7.8	黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	453	213	栗ノ内A区SB-09	鉢	12.4		5.6	黄茶褐色、赤色粒子僅かに含む、良好	
	454	83	栗ノ内A区SB-09	高坏	17.9			褐色、片岩・赤色細砂粒少量含む、良好	胎土精緻
	455	199	栗ノ内A区SB-09	高坏	17.7			明茶褐色、片岩砂粒少量含む、良好	
	456	75	栗ノ内A区SB-11	鉢	16.2		6	褐色、片岩砂粒多く含む、良好	
	457	66	栗ノ内A区包含層	鉢	12			淡黄褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
25	458	67	栗ノ内A区SX-01	カメ	14.2			茶色、片岩細砂粒少量含む、良好	B群
	459	198	栗ノ内A区SX-01	カメ	19.7			茶褐色、片岩・石英・赤色粒子含む、良好	B群
	460	77	栗ノ内A区SX-01	カメ	21.8			淡茶褐色、片岩・赤色砂粒多く含む、良好	B群
	461	93	栗ノ内A区SX-01	カメ	27			黄茶色、片岩・角閃石細砂粒含む、良好	C群
	462	256	栗ノ内A区SX-01	カメ	27.5		43	茶褐色、片岩・角閃石・石英砂粒含む、良好	C群
26	463	68	栗ノ内A区SX-01	カメ	19.7			黄茶色、片岩・赤色細砂粒多く含む、良好	C群
	464	99	栗ノ内A区SX-01	カメ	25.4			暗灰茶色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	465	94	栗ノ内A区SX-01	カメ	24.5			茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	C群
	466	212	栗ノ内A区SX-01	カメ	26.2			淡黄茶褐色、片岩砂粒少量含む、良好	C群
	467	74	栗ノ内A区SK-13	カメ	26			茶褐色、片岩砂粒多く含む、良好	A群
	468	78	栗ノ内A区SX-01	カメ	14.5			淡茶褐色、片岩砂粒含む、良好	C群
27	469	95	栗ノ内A区SX-01	カメ	40.5			黄茶褐色、片岩・角閃石・石英砂粒含む、良好	B群
	470	76	栗ノ内A区SX-01	カメ	20	15.1	24.7	黄褐色、片岩・赤色細砂粒少量含む、良好	B群、胎土精緻
	471	251	栗ノ内A区SX-01	カメ?				黒灰色、内面に赤色顔料が多く付着	5mm程の突孔有り
	472	205	栗ノ内A区SX-01	ツボ				淡茶褐色、片岩・石英砂粒少量含む、良好	
	473	206	栗ノ内A区SX-01	ツボ?		5		暗茶褐色、片岩砂粒少量含む、良好	
	474	201	栗ノ内A区SX-01	カメ底部				暗赤茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	C群
	475	202	栗ノ内A区SX-01	カメ底部				淡黄茶褐色、微砂粒少量含む、良好	C群
	476	70	栗ノ内A区SX-01	鉢	10		4.2	淡茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	B群
	477	252	栗ノ内A区SX-01	鉢	11.5	6	4.5	淡黄茶色、片岩・石英細砂粒含む、良好	片口状の口縁部
	478	98	栗ノ内A区SX-01	鉢	14.5			淡黄茶色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	C群
	479	69	栗ノ内A区SX-01	鉢	15.7			黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	B群
	480	72	栗ノ内A区SX-01	鉢	19.7		8.9	淡黄茶色、片岩・石英・赤色砂粒含む、良好	C群
	481	204	栗ノ内A区SX-01	丸底壺?	14.8			淡黄茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	
	482	200	栗ノ内A区SX-01	丸底壺?				暗茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、不良	C群
	483	193	栗ノ内A区SX-01	カメ?	24.8			淡黄茶褐色、片岩・石英砂粒多く含む、良好	C群
28	484	255	栗ノ内A区SX-01	高坏	21.3	9.9	9.2	淡褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	485	97	栗ノ内A区SX-01	高坏	16.4			褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	486	80	栗ノ内A区SX-01	高坏	29.4			淡黄褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	A群
	487	71	栗ノ内A区SX-01	高坏脚部		14.6		白黄褐色、片岩・赤色微砂粒含む、良好	C群
	488	73	栗ノ内A区SX-01	高坏脚部		11		淡黄茶色、片岩微砂粒含む、良好	C群、胎土精緻
	489	100	栗ノ内A区SX-01	支脚		幅11.2	高9	淡茶褐色、片岩細砂粒含む、良好	
	490	92	栗ノ内A区SX-01	土製有孔円盤		幅4	高1	暗灰色、片岩微砂粒含む、良好	B群、胎土精緻
	491	254	栗ノ内A区SX-01	甌?		3.4		淡茶褐色、片岩・石英砂粒含む、良好	
	492	4	黒石A区SK-02	カメ	13.5			灰茶色、片岩微粒子含む、良好	
	493	3	黒石A区SK-02	高坏脚部?		9.9		明褐色、片岩・赤色細砂粒含む、良好	
	494	1	黒石A区SK-02	小型丸底壺	7.4		8	淡黄茶色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	495	6	黒石A区SK-03	高坏				茶褐色、片岩・石英・赤色細砂粒含む、良好	
	496	2	黒石A区SK-02	高坏脚部		14.6		淡黄茶色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	497	5	黒石A区SK-03	小型壺	7.2		5.5	淡茶褐色、片岩細砂粒少量含む、良好	
	498	3	小石原A区SD-01	ツボ底部				茶褐色、片岩細砂粒含む、良好	
	499	2	小石原A区SD-01	カメ底部		8		淡黄褐色、片岩細砂粒多く含む、良好	
	500	1	小石原A区SD-01	カメ	17.8			淡茶褐色、片岩・角閃石・石英砂粒含む、良好	

第1表 出土遺物観察表⑧

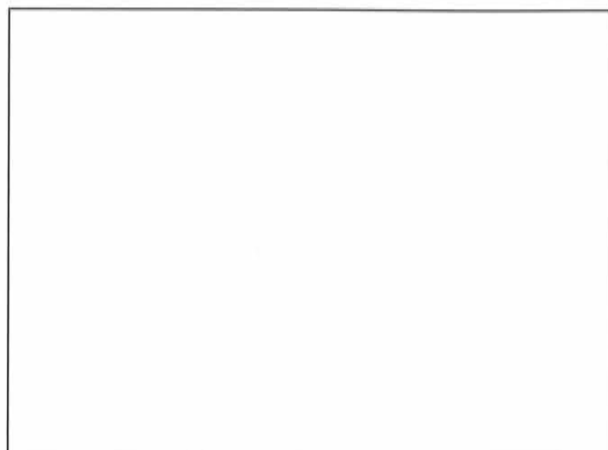
挿図	石器 番号	実測 番号	出土遺構	種 別	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重さ (g)	備 考
29	501	166	第1区1面	摺り石		7.6	9.8	4.9	550	
"	502	182	第2区第2層	摺り石		14.2	12.2	5.2	1,360	
"	503	184	第2区第1層	砥石	砂岩	8.2	6.7	3.7	415	
"	504	185	第2区第1層	石包丁未成品	片岩	5.6	9.3	0.6	52.3	
"	505	183	第2区第1層	石包丁	片岩	4.6	7.3	0.5	33.2	
"	506	77	第5区SD-05	窪み石		11.3	10.5	4.9	710	
"	507	78	第5区SD-05		凝灰岩	10.5	6.3	5.3	345	No.5
"	508	83	第8区SD-03中層	球状石製品		7.1	6	5.7	262	祭具か?
"	509	84	第8区SD-03中層	球状石製品		4	3.6	2.7	48.3	祭具か?
"	510	29	早水町A区SB-02 P-1		チャート?	7.1	4.3	1.2	51.3	用途不明の1孔あり
"	511	32	早水町A区SX-02検出面	石鎌	片岩	11.4	3.6	0.5	31.7	完形品
"	512	30	早水町A区SX-02検出面	砥石	砂岩	9.2	2.9	2.9	130	
"	513	31	早水町A区SX-02下層	石包丁	輝緑凝灰岩	4.2	7.4	0.7	36.7	立岩型石包丁
"	514	33	早水町A区SX-02中層	砥石?	片岩	14	8.5	7.5	1,440	
"	515	259	栗ノ内A区包含層第2層	石包丁未成品	片岩	5.2	9.6	0.6	52.3	
"	516	260	栗ノ内A区包含層第2層	石包丁未成品	片岩	7	10.3	0.4	51.2	
"	517	262	栗ノ内A区包含層第2層	砥石	砂岩	12.8	8	2	285	
"	518	257	栗ノ内A区SK-05	石包丁	泥岩	4.6	6.7	0.7	35.8	白灰色で光沢あり
"	519	261	栗ノ内A区包含層第2層	摺り石?	砂岩	9.4	4.7	3.9	250	下部に赤色顔料付着、石杵?
"	520	264	栗ノ内A区包含層第1層	円盤形石製品	片岩	6.2	6.8	0.9	67.8	
"	521	263	栗ノ内A区包含層	石包丁	片岩	4.4	10	0.5	36.4	
"	522	1	高ノ町4地点	両刃小型石斧	蛇紋岩	8.3	4.2	1.1	75	

第2表 出土遺石器観察表

PLATES

凡例

出土遺物に関する PL の記載は、以下の要領となっている。



遺構名

掲載番号



第1区 発掘調査風景（南より）



第1区 SD-02 完掘状況（北西より）



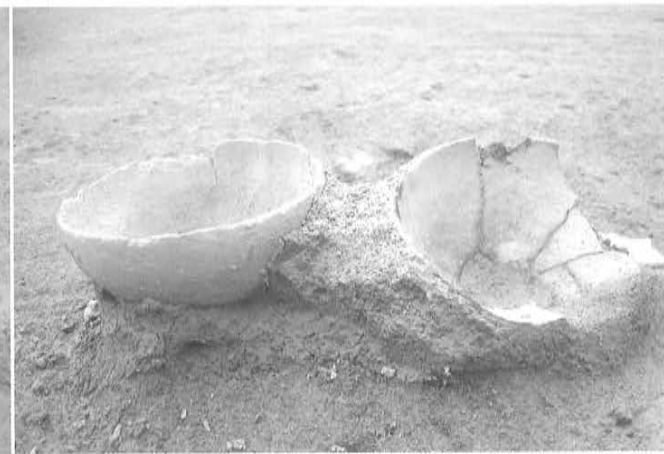
第1区 SD-02 出土遺物状況（北より）



第1区 2・3地点（北より）



第1区 SB-01 出土遺物状況（北西より）



第1区 左写真中央遺物 接写



第2区 発掘体験状況（西より）



第2区 発掘体験状況（東より）



第5区 東側 完掘状況（西より）



第5区 SB-01 完掘状況（西より）



第5区 西側 完掘状況（西より・左天）



第5区 SD-05 完掘状況（東より・左天）



第5区 SD-02 状況（北より）



第5区 SD-02 遺物出土状況（北より）



第4区 西側 完掘状況（東より）



第4区 東側 状況（東より）



第7区 遺構検出状況（西より）



第7区 SD-02 完掘状況（南西より）



第7区 完掘状況（西より）



第8区 SD-03 掘削状況（北西より）



第8区 Aトレンチ 西壁状況（東より）



第8区 SD-03 取上げ遺物状況



早水町遺跡 A区1地点 完掘状況（南より）



早水町遺跡 A区1地点 SX-02（南より）



早水町遺跡 A 区 1 地点 SB-02 (南より)



早水町遺跡 A 区 1 地点 SK-01 (南東より)



早水町 A・1 SB-01・SK-02 (南より)



早水町 A・1 SK-02 西壁断面 炭化米状況



早水町遺跡 A 区 2 地点 SB-04 (南西より)



早水町遺跡 A 区 2 地点 SX-04 断面 (西より)



早水町遺跡 B 区 完掘状況 (西より)



早水町遺跡 B 区 道路状遺構半截状況 (西より)



栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 完掘状況 (東より)



栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-07 (南より)



栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-06 (南東より)



栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-04 (西より)



栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-02 周辺 (南より)



栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SK-01 周辺 (南より)



栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SK-01 (南より)



栗ノ内遺跡 A 区 1 地点 SB-01 (南より)



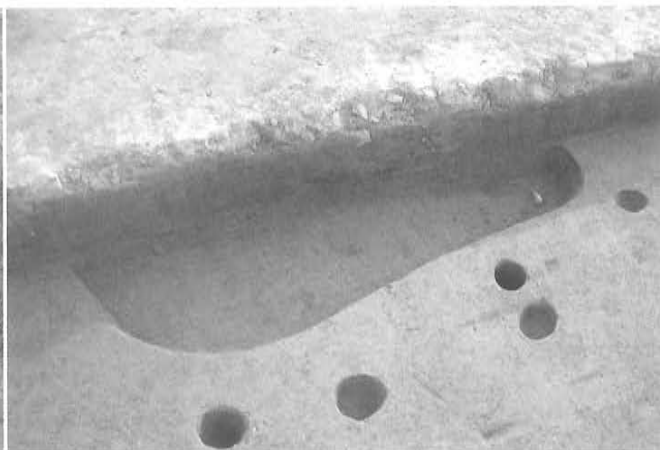
栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SB-08 (北より)



栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 (西より)



栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 (東より)



栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SB-15 (北より)



栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SX-01 (北西より)



栗ノ内遺跡 A 区 2 地点 SX-01 (北より)



栗ノ内 A・2 SX-01 土器焼成遺構 (北東より)



栗ノ内 A・2 SX-01 土器焼成遺構断面



栗ノ内遺跡 B 区 掘削状況 (東より・左天)



栗ノ内遺跡 B 区 掘削状況



小石原遺跡 A 区 SD-01 (南東より)



小石原遺跡 A 区 SD-02・03 (北より)



小石原遺跡 A 区 SB-01・SD-04 (北より)



小石原遺跡 B 区東側 SD-01 (東より)



小石原遺跡 B 区東側 (東より)



小石原遺跡 B 区東側 (東端より)



黒石遺跡 A 区 1 地点 SD-01~03 (西より)



黒石遺跡 A 区 1 地点 SD-04 (東より)



黒石遺跡 A 区 2 地点 (東より)



黒石遺跡 A 区 2 地点 SX-01 (北西より)



黒石遺跡 A 区 2 地点 SD-06・07 (東より)



黒石遺跡 B 区 1 地点 (西より)



黒石遺跡 B 区 1 地点 (東より)



黒石遺跡 B 区 1 地点 SK-04 (南東より)



高ノ町遺跡2地点 SD-01 (西より)



高ノ町遺跡2地点 SA-01 (北東より)



高ノ町遺跡2地点 SA-01 (北より)



高ノ町遺跡3地点 (南東より)



高ノ町遺跡3地点 SD-01 (東より)



高ノ町3 SD-01 No. 2トレンチ (西より)



高ノ町遺跡3地点 発掘体験状況



高ノ町遺跡3地点 SB-01 (南東より)



高ノ町遺跡3地点 SB-01 (東より)



高ノ町3 SB-01 集石部分 (南東より)



SB-01 集石部分接写 (東より)



SB-01 土器出土状況 (南東より)



高ノ町遺跡4地点 掘削状況 (西より)



高ノ町遺跡4地点 遺物状況 (西より)



高ノ町遺跡4地点 遺物状況 (東より)



高ノ町遺跡4地点 完掘状況（東より）



高ノ町遺跡4地点 掘削状況（東より）



高ノ町遺跡4地点 SD-04 掘削状況（東より）



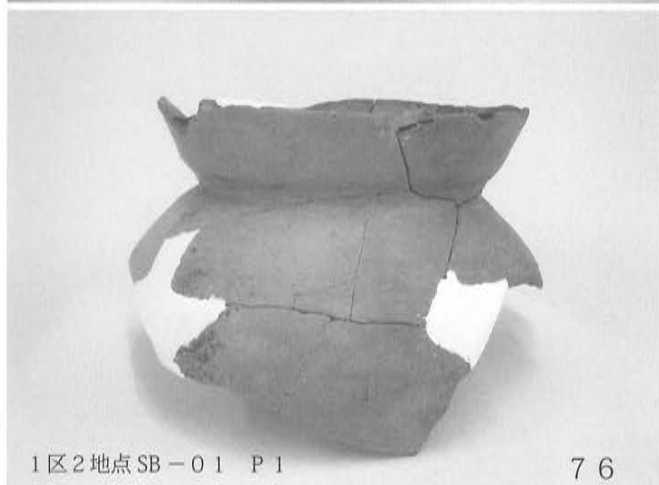
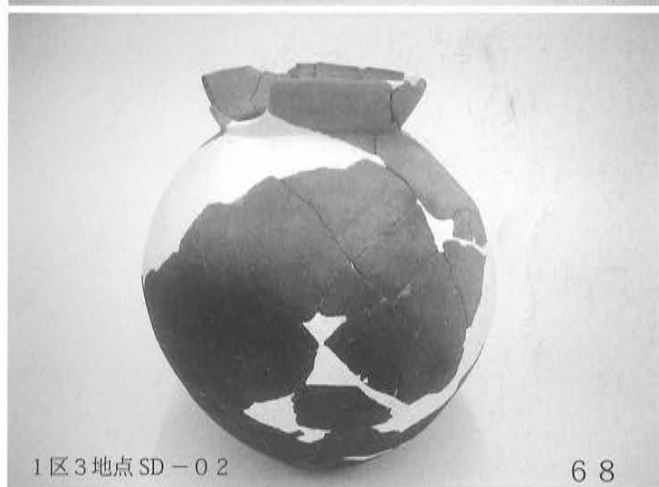
高ノ町遺跡4地点 SD-04 掘削状況（西より）

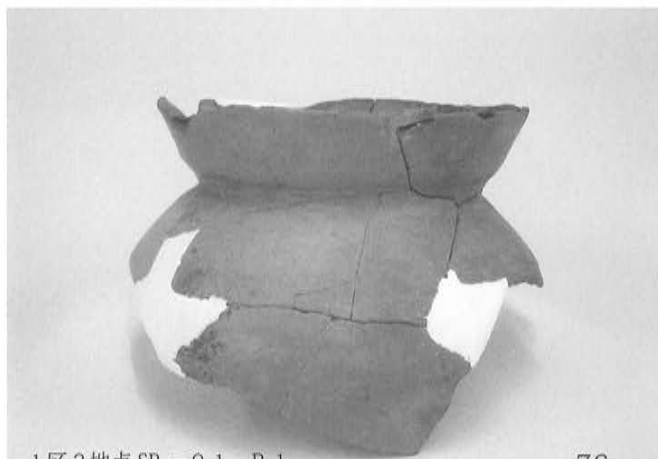


高ノ町遺跡4地点 SD-04 石斧出土状況



高ノ町遺跡4地点 SD-04 石斧接写





1区2地点SB-01 P1

76



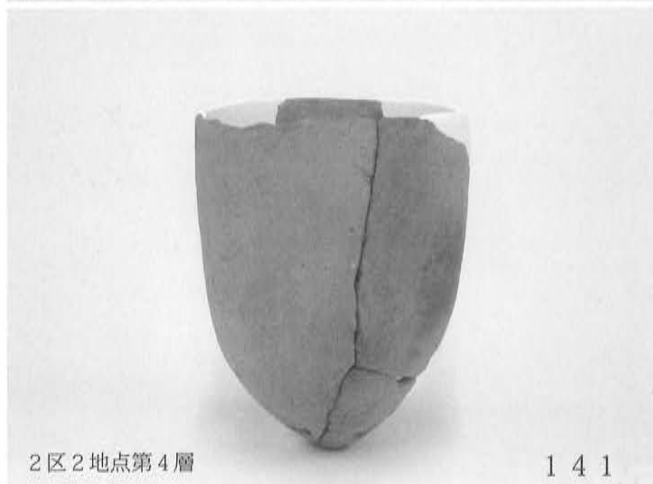
2区1地点第1層

86



2区第1層

110



2区2地点第4層

141



2区2地点第1層

104



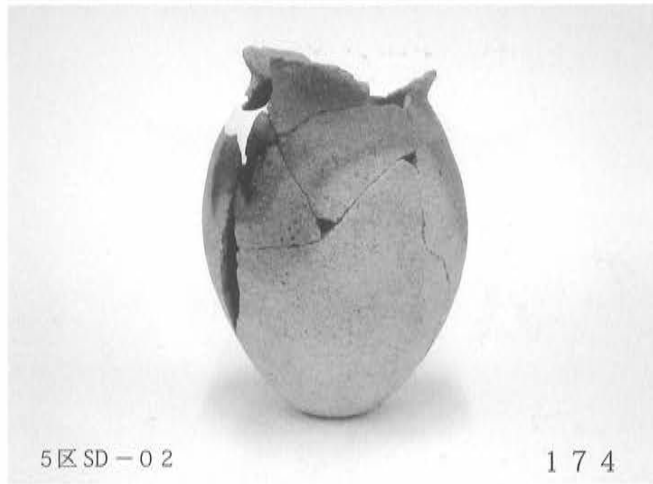
2区SB-01

143



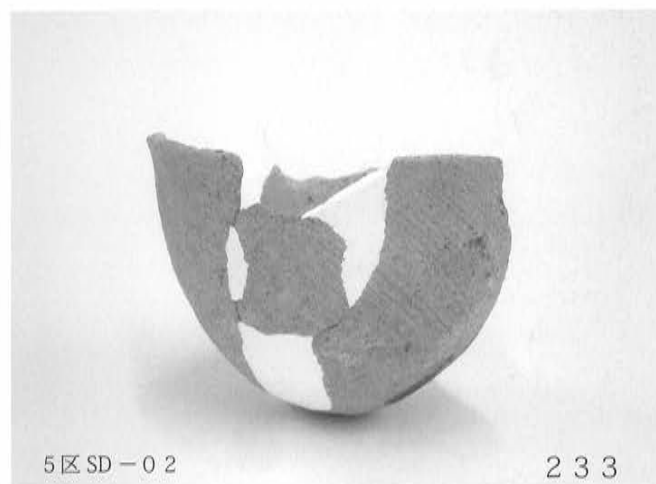
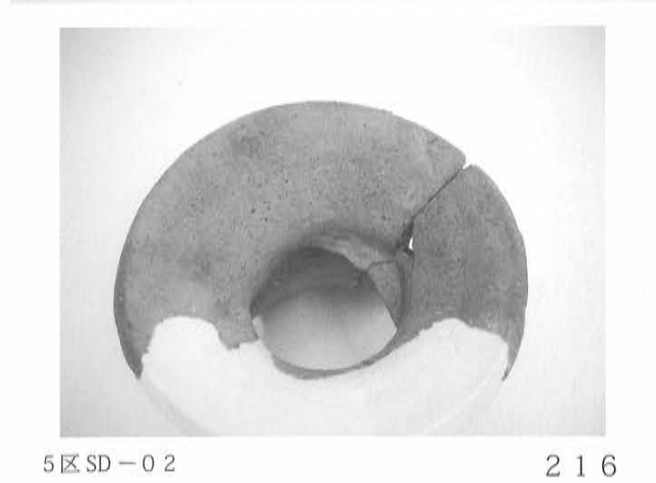
2区1地点SX-01

160



5区SD-02

174







8区SD-03 3層・中層

315~321



8区SD-03 3層

323



8区SD-03 3層

322



8区SD-03 3層

323



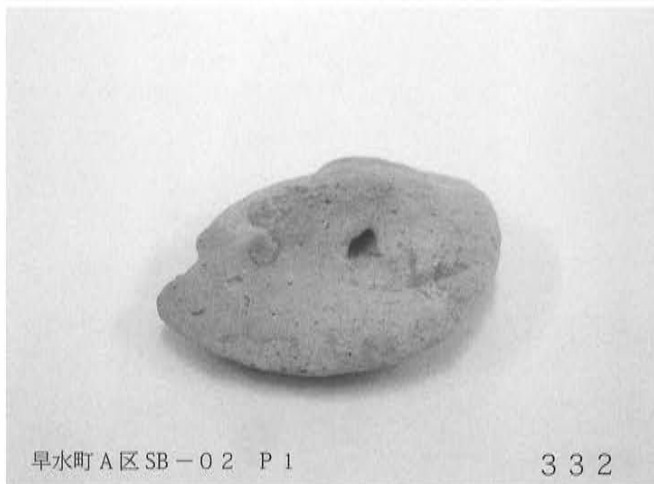
8区SD-03上層

328



8区SD-03上層

328



早水町A区SB-02 P1

332



栗ノ内A区1地点SB-02

353



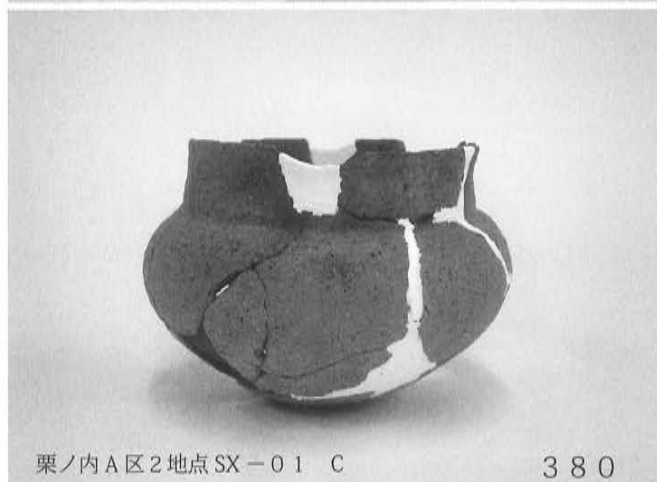
栗ノ内A区1地点SB-02

352



栗ノ内A区1地点SB-02

351



栗ノ内A区2地点SX-01 C

380



栗ノ内A区1地点包含層1層

401



栗ノ内A区1地点包含層1層

402



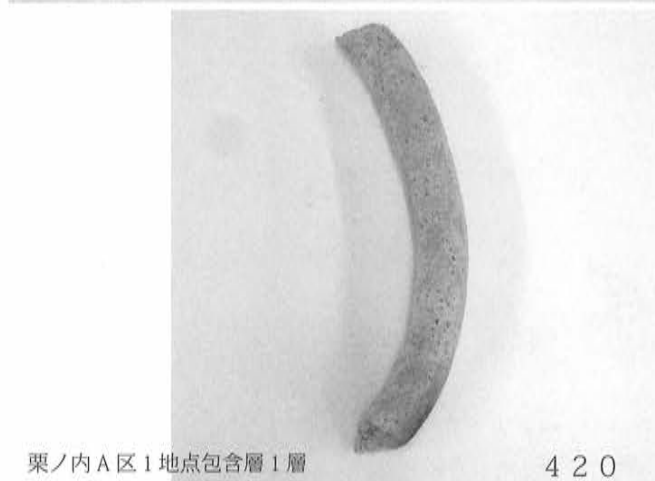
栗ノ内A区1地点包含層2層

427



栗ノ内A区1地点包含層1層

420



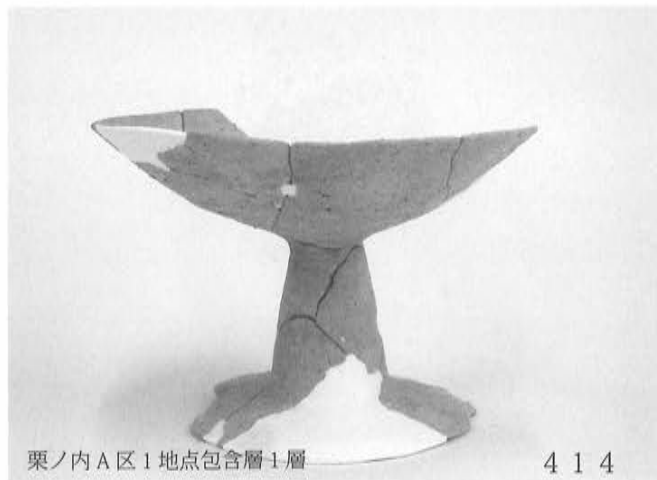
栗ノ内A区1地点包含層1層

420



栗ノ内 A 区 1 地点包含層 1 層

4 1 7



栗ノ内 A 区 1 地点包含層 1 層

4 1 4



栗ノ内 A 区 1 地点包含層 2 層

4 4 6



栗ノ内 A 区 1 地点包含層 2 層

4 4 6



栗ノ内 A 区 2 地点 SB-09A

4 5 2



栗ノ内 A 区 2 地点 SB-09

4 5 3



栗ノ内 A 区 2 地点 SX-01C

4 6 2



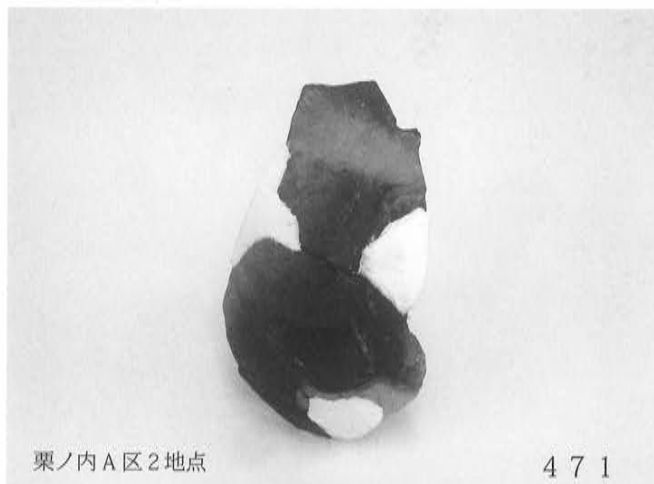
栗ノ内 A 区 2 地点 SB-09

4 5 3



栗ノ内A区2地点SX-01C

468



栗ノ内A区2地点

471



栗ノ内A区2地点SX-01

480



栗ノ内A区2地点

471



栗ノ内A区2地点SX-01

484



栗ノ内A区2地点SX-01B

490



黒石A区2地点SK-03

494



小石原A区SD-01

500



報告書抄録

ふりがな	けいえいたいいくせいきばんせいびじぎょう (やめとうぶだい2ちく) ちない まいぞうぶんかざいはつかつちょうさほうこくしょ
書名	経営体育成基盤整備事業 (八女東部第2地区) 地内 埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	福岡県八女市津江・忠見所在遺跡の発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	八女市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 96 集
編著者名	大塚 恵 治
編集機関	八女市教育委員会
所在地	834-8585 福岡県八女市本町647 TEL 0943-23-1982
発行年月日	西暦 2013年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
2007 (H19) → 調査	1区～8区	やめしつゑ 八女市津江	402109	33°12'53"	130°34'48"		2,107㎡	
2008 (H20) 調査	はやみずまちいせき 早水町遺跡	やめしつゑ 八女市津江	//	33°12'57"	130°34'52"		1,865㎡	
	くりのうちいせき 栗ノ内遺跡	やめしつゑ 八女市津江	//	33°12'51"	130°34'51"		201㎡	
	こいしわらいせき 小石原遺跡	やめしきとういん 八女市祈祷院	//	33°12'56"	130°35'06"	2007.04～ 2008.03	519㎡	圃場整備
	くろいしいせき 黒石遺跡	やめしきとういん 八女市祈祷院	//	33°12'59"	130°35'12"		620㎡	
2009 (H21) 調査	たかのまちいせき 高ノ町遺跡	やめしただみ 八女市忠見	//	33°13'01"	130°35'21"	2007 (H19)	328㎡	
	いのぶ・せえだいせき 井延・前田遺跡	やめしいのぶ 八女市井延	//	33°13'06"	130°35'21"	2009 (H21) 年度	240㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
1区～8区 早水町遺跡 栗ノ内遺跡 小石原遺跡 黒石遺跡 高ノ町遺跡 井延・前田遺跡	集落	弥生・古墳時代 弥生時代 古墳時代 古墳・平安時代	竪穴式住居、土壇、溝 竪穴式住居、土壇、溝 竪穴式住居、土壇 溝 溝 竪穴式住居、土壇、溝	弥生式土器、土師器 弥生式土器、須恵器 土師器 弥生式土器 弥生式土器、須恵器、土師器	水際祭祀跡の検出 (8区)

経営体育成基盤整備事業
(八女東部第2地区) 圃場整備事業地内
埋蔵文化財発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書
第96集

平成25年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647
印刷 (株) 東兄弟
八女市祈祷院563